

Captains of Industry ~ 知と業(わざ)のフロンティア



進化する大学

対談

日本のリーダーが語る
世界競争力のある人材とは？
最高裁判所判事

山浦善樹氏

一橋大学長 山内 進

連載企画

「書を守る」
社会科学古典資料センター
学際的・国際的・産学官連携の研究を推進する
一橋大学研究機構

時代の論点

エコノミストが指摘する
わが国最低賃金の論点
社会学研究科教授 林 大樹
移行経済下ロシアの貧困・不平等
効率から公正へ
経済研究所講師 武田友加

連載企画

一橋の授業
法学部・法学研究科

対談

一橋の女性たち
株式会社エコトワザ 代表取締役
大塚玲奈氏
商学研究科准教授 山下裕子

特集

Hitotsubashi University in Seoul

日韓間を架橋する、初の海外アカデミア

連載企画 Ties and bonds (ソウル特集)

株式会社エキスパートコンサルティング 副社長

ジョン・ジョンシク氏

韓国租税研究院 研究委員

ウォン・チョンハク氏

サムスンディスプレイ株式会社

海外営業チームマネージャー

キム・スンキョム氏

巻頭特集

日本のリーダーが語る
世界競争力のある人材とは？

【対談】

最高裁判所判事／山浦善樹氏
山内 進学長

自分の頭で考え自分で動くモードに
切り替える

特集
進化する大学

「書を守る」

社会科学古典資料センター

学際的・国際的・産学官連携の研究を推進する

一橋大学研究機構

特集

日韓間を架橋する、
初の海外アカデミア

Hitotsubashi University
in Seoul

連載企画 Ties and bonds
ソウル特集

株式会社エキスパートコンサルティング
副社長

ジョン・ジョンシク氏

韓国租税研究院 研究委員

ウォン・ジョンハク氏

サムスンディスプレイ株式会社

海外営業チームマネージャー

キム・スンキョム氏

連載企画

時代の
論点

エコノミストが指摘する

わが国最低賃金の論点

社会学研究科教授／林 大樹

移行経済下ロシアの貧困・不平等…

効率から公正へ

経済研究所講師／武田友加

48



39



29



26



23



18



8



1



連載企画

一橋の授業

《法学部・法学研究科》

高いリテラシーと論理的思考力を身に付ける、法学部の学び

法学部長・法学研究科長／山部俊文

法学入門／山本和彦教授

憲法（統治機構）／渡邊康行教授

行政法ゼミ／高橋 滋教授

刑法Ⅰ／本庄 武准教授

刑事訴訟法／葛野尋之教授

刑事法比較刑事法ゼミ／王 雲海教授

民法（総則）／小野秀誠教授

民法ゼミ／滝沢昌彦教授

民事訴訟法／水元宏典教授

研究室訪問 chat in the den

商学研究科准教授／台坂 博

経済学研究科教授／黒住英司

連載企画

一橋の女性たち

【対談】

株式会社エコトワザ 代表取締役／大塚玲奈氏
商学研究科准教授／山下裕子

Love of Culture

《「ブッフ・アラ・モード」の由緒》社会学研究科教授／中野知律

《ロックフェス》国際企業戦略研究科准教授／大上慎吾

Campus Information

◆一橋大学基金ご寄付者のご芳名

◆石弘光二元学長が平成24年秋の叙勲で「瑞宝大綬章」を受章されました

◆経済研究所の深尾京司教授、

イノベーション研究センターの青島矢一教授及び軽部大准教授が

2012年度・第55回「日経・経済図書文化賞」を受賞しました

◆一橋大学法科大学院が、平成24年司法試験合格格率で

全国の法科大学院中トップとなりました

◆文部科学省「平成24年度グローバル人材育成推進事業（タイプB（特色型）」に

本学の取り組みが採択されました

◆第10回一橋大学関西アカデミア開催のお知らせ

58

57

57

56

56

54

53

52

48

46

44

41

41

41

40

40

40

39

39

39

39

38

日本のリーダーが語る世界競争力のある人材とは？

最高裁判所の判事は、裁判官、弁護士、検察官、行政官、法学者の出身者で構成されている。

山浦善樹判事は弁護士出身。「どんな事件にも重装備で向かう」をモットーに、法による正義の実現に努めている。

山内学長との対談では、信州人論、弁護士論、最高裁判事論、法曹教育論と話が弾んだ。

何より、山浦氏の人生の歩み自体がユニークであり、法曹志向者はもちろん、勉学を志す人に役に立つ話が満載だ。



山浦善樹 (やまうら・よしき)

1946年生まれ。1969年一橋大学法学部卒業、1974年弁護士登録（東京弁護士会）、1979年司法研修所民事弁護所付、1996年司法研修所民事弁護教官、2000年司法試験考査委員（民事訴訟法）、2001年東京弁護士会司法修習委員会委員長、日本民事訴訟法学会理事、2003年法務省新司法試験実施に係る研究調査委員会、2004年山梨学院大学法科大学院教授、2008年筑波大学法科大学院教授、2011年中央大学法科大学院客員教授、2012年3月1日最高裁判所判事。



最高裁判所判事

山浦善樹氏

自分の頭で考え自分で動くモードに切り替える

経験の幅と理性の積が判断の基準

山内 山浦判事は長年法律家としてご活躍されていますが、ホップスというイギリスの思想家が書いている『哲学者と法学者との対話』という名著と関連する話について伺います。法学者のモデルとされているエドワード・コークという法律家が国王と対立したときの話です。国王は、自分の理性的判断でものごとは処理できるから、裁判もできると主張しました。一方のコークは、長年の経験が必要だと言います。経験の集合体が法であり法の英知であり、国王といえども集積された法を超えることはできないという考えです。そこから「法の支配」が始まるといわれています。法律の世界では、長年の経験で培った専門的理性が、大きく作用するのはないでしょうか。

山浦 学長のお話は最初から豪速球で、今日の対談は、私が丸裸にされてしまいたいそうですね。感想めいた言い方でしかありませんが、法曹の世界では、理性的判断と経験知の関係は二者択一ではなく、黄金律……というより、ベクトルというか、経験の幅と合理性を追求する理性の掛け算が重要になるのかも。私はもっぱら紛争解決という現場で仕事をしていますので哲学論議はわかりませんが、たとえば判例変更が行われるのは、これまでの判例が間違っていたわ



けではなく、その後の社会・歴史の変化のなかで、それまで果たしてきた役割を終えていけば時代のエネルギーに支援されて生まれ変わるのではないかと。だからそれまでに積み重ねられた経験とそのときの合理性の判断との掛け算で決まるのではないかと。上告事件は地裁や高裁レベルで、弁護士、検察官、裁判官あるいは裁判員が熱心に議論してきた結果です。これまでのルールが社会の実情や市民感覚とズレているという共通の認識が形成された場合に、新しい合理的な判例が生まれるのは社会の必然です。その判例もまた時代の変化のなかでその役割を終える時期がくる。……答えになっっているか不安ですが、法律はその時代の経験と合理性の両方のエネルギーのなかで成り立っていると思います。

山内 ホップスは理性派でしょうか。哲学者と法律家とでは、ベクトルが対照的なようですね。

信州人の典型である強みと弱み

山内 山浦判事は生まれも育ちも長野県の上田で、高校も上田高校ですね。私は北海道の小樽生まれなもので気になるのですが、それが人生を歩むうえで何か影響を与えたのでしょうか。

山浦 今日の対談は一橋大学の学生、とりわけ法学部や法科大学院生に向けて、こういう変わり者の先輩が、松本正雄元判事（東京商科大学卒）に次いで一橋大学OB・OGとしては二人目の最高裁判所判事になったというところで話題性もあり、学生の勉強の励みになるようなメッセージをお願いしたいという趣旨でしたので、



山内 進 (やまうち・すすむ)

1949年北海道小樽市生まれ。1972年一橋大学法学部卒業。1977年同大大学院法学研究科博士課程単位取得退学。1987年法学博士。成城大学法学部教授、一橋大学法学部教授、法学部長、理事等を歴任。2004年、21世紀COEプログラム「ヨーロッパの革新的研究拠点」の拠点リーダーに就任。2006年副学長（財務、社会連携担当）、2010年12月一橋大学長に就任。専門は法制史、西洋中世法史、法文化史。『北の十字軍』（講談社）でサントリー学芸賞受賞。その他『新ストア主義の国家哲学』（千倉書房）、『掠奪の法観念史』（東京大学出版会）、『決闘裁判』（講談社）、『十字軍の思想』（筑摩書房）など著書多数。

一橋大学長

山内 進

日本のリーダーが語る
世界競争力のある人材とは？

どれだけお役に立つかわかりませんが、普段あまり話をしたことがない個人的なことを中心に、ざっくばらんにお話ししたいと思います。私は長野県の丸子町（現在は上田市）で生まれました。時代に取り残されたような貧しい町でした。私は中学を卒業したら地元信用金庫に勤めるつもりで、中学3年生からそろばんを習いました。ところが、私が進学しないつもりだということを知った中学校の先生が、奨学金制度について教えてくれたのです。そのおかげで上田高校に進学でき、大学も卒業できました。長野県出身者は信州人といいますが、理屈好き、頑固で融通がきかない、勉強熱心、根気強い、まじめ過ぎてユーモアを解さない、社交下手、口下手といわれています。自分の性格を分析すると典型的な信州人だと思います。

山内 進学した上田高校はお城のなかにあって、素晴らしいですね。私の先輩に小諸の造り酒屋が実家の方がいましたが、出身高校である上田高校を大変誇りにしていました。

山浦 上田高校に進学して、今までとは違った世界にきたという感じがしました。自由な雰囲気でもよい学校です。私は意識して生徒会長や新聞班（上田高校では、班は部活動のこと）の班長などをやりました。人見知りで社交性がないという自己認識がありましたので、世の中に出て人並みのことができるようになりたいと思っただけです。新聞班は、生徒会から一銭ももらわず、自分たちがつくった新聞をマンスリー版は一部20円とか30円で、ガリ版刷りのウィークリー版は5円で売って活動資金にしていました。もちろん正規の学校新聞ですが、無料配布ではなく生徒は自分でお金を出して買うのです。だからいい記事を書くって売れます。ウィークリー版は週末の運動部の対外試合の結果、マンスリー版は市内の映画館で上映予定の映画紹介や、社会で活躍するOB・OGのレポートなどで、たとえば地



元で活躍している経営者や医師にインタビューをし、苦労話をまとめました。あの頃の仲間は、社会との接点を大切にし、情報のタイムリーな提供という現代的な視点を持ち、いろいろ創意工夫をしていました。

将来のライバルか、戦友か ベター・ハーフの条件

山内 そうした活動が受験勉強の邪魔になったりはありませんでしたか。

山浦 新聞班には勉強好きの仲間が大勢いてよいライバルだったから、サークル活動は成績にもプラスになりました。生徒会のほうは担任の先生が「君なら生徒会長になっても成績は大丈夫だろう」と言うので、嬉しくなって「やります」と言い、全校生の前で立候補の演説を行って生徒会長になった。でも新聞班と生徒会の掛け持ちだったので、やはり成績は落ちましたね。しかし内気な性格を直すという目的は少しですが達成したと思います。

山内 上田高校は男子校ですか。

山浦 制度的には男女共学ですが、実際は男子校のようなものでした。

私のときは1学年400人中20人の女子生徒がいました。実は、そのうちの1人が私の妻です。

山内 それは興味深いですね。

山浦 大学を選ぶことも就職先を選ぶことも重要ですが、結婚相手を選ぶことはもっと重要ですね。私が妻を選んだのは、一緒に生きていくうえで人生のライバルになれるかどうかということで、この40年間、彼女に負けないようにと頑張ってきた……いまだに勝てませんが。



金融機関に就職

たった1年で飛び出す

山内 一橋大学を受験先に選ばれたのは理由があるのですか。

山浦 特別の理由はありませんでした。長野県から外に出るには東京に行くしかありません。東京にある国立大学というだけで受験したのです。それも奨学金だけが頼みですから浪人はできません。入試では数学が1問も解けませんでしたが、ですから合格発表は期待していませんでした。東京外国語大学の受験の前日に、ついでに国立に行き掲示板を見たら、本人もびっくり、何と私の番号がありました。間違いなく最下位だったでしょう。合格発表の貼り紙が剥がれそうになりながら、はためいていたのが印象的でした。慌てて受付に行くと「今日が手続きの締め切りですよ」と言われま



日本のリーダーが語る
世界競争力のある人材とは？

した。あの日、ふと思いついて寄っていかなかったら、一橋大学には入っていませんでしたね。

山内 卒業後は三菱銀行(当時)に就職されたのですか。

山浦 ええ、4年生の春、就職先を探そうとして、ある銀行に行くと、「君は法学部ですね。最近の新聞を読んで何か気づいた法律問題はありますか?」と聞かれました。アルバイトに明け暮れていた貧乏学生に新聞を読んでいるかと聞くなんで無理だと思いました。その足で丸の内に出て、三菱銀行に行き「別の銀行で、新聞を読んでいるか、というつまらない質問をされました」と話すと、「成績表を見せなさい」と言われました。当時、3年間で優が27、8個あるのが普通でしたが、私はたったの7個で、あとは「カフカ(可・不可)」です。「君、いったい何をやっているの?」と聞かれました。「ほぼ半分は生活費を稼ぐためにアルバイトに精を出し、ベトナム戦争反対の学生運動にも参加し、残りはお能(宝生流)の稽古でした」。すると「面白いや

つだ」と言われ、先輩の応援もあって採用されました。**山内** では、なぜお辞めになったのですか。

山浦 三菱銀行は組織がしっかりとした立派な銀行です。それだけに組織のなかの10年後、30年後の自分が見えたような気がしてしまったのです。入社して1年ぐらいでした。私は組織のなかでじっと上を目指すのは無理だと思い、妻に相談すると、返事は、あっさり「それなら辞めたら」でした。挫折というほどではありませんでしたが、サラリーマンとしては失敗でした。

山内 辞めて何をしようと思ったのですか。

山浦 目的があって辞めたのではないので、しばらくぶらぶらしていました。1か月ほどして、大学院に入れないかとゼミの市原昌三郎教授に電話すると、あっさり断られました。何しろ学部の成績がひどいものでしたから、先生は大学院への進学や研究者になるといいうのは無理とハッキリ指摘してくれました。ちよつとショックでしたが、先生はもともと、いったん大学を卒業したら二

度と国立にはくるなと言っていました（社会の荒波のなかでこそ大きく育つ）。大学院は無理という指導は、今から考えると的確で愛情がこもっていたと思います。しかたがないので、新聞の求人広告を見て、司法書士事務所に電話すると「うちでは大卒の事務員はいらない」と断られました。資格試験はどうかと考えましたが、司法書士や税理士、弁理士などの過去問題を見ると実務科目があり、まったく手が出ません。しかし司法試験は「何々を論ぜよ」式の問題で、大学の期末試験と同じでしたから、これなら何とかなると考えて、それから6畳1間のアパートで1人で勉強しました。OLをしていた妻の健康保険証の被扶養者欄に、私の名前が書かれていたことは忘れられません。妻には迷惑をかけたと思います。それから信州人の粘りを発揮して猛烈な勉強を始め、偶然にも1回で合格しました。当時、司法試験は一橋大学からは3〜4人程度の合格でしたから、私が合格したことが学内に広がって「あの山浦が合格した？ 司法試験ってそれほどやさしかったのか」と皆に驚かれました。



自分の頭で考え 自分の言葉で伝える

山浦 実は、たまたま前日読んだ判例の問題が出たり、三商大で検討した問題が出たりしたという運もあったのです。

山内 運も実力のうちですね。でも、前の日にぱっと見たとしても、頭に入っていないのではないですか。

山浦 もともと法律というのは対話が大切です。裁判では依頼者、相手方、裁判官の言っていることを理解すること、試験では出題の意図をキャッチすることが重要です。出題の意図さえわかれば、あとは自分の頭で考え

ればよい。ちょっとした情報があれば、出題の意図をかまえる手掛りになります。糸口さえ見つかれば、あとは自分の頭で考えて、自分の言葉で表現すればよいので



す。結論自体はそう大きな問題ではありません。

山内 そういった、ポイントをとらえて自分の頭で考えるというスタイルは、どこで身につけたのですか。

山浦 大学のゼミでしょうか、市原先生との対話のなかで、オウム返しのような返事をするのではなく、いったん自分の頭で考えて、自分の言葉で表現することの重要性を学びました。卒論は「法律学懐疑論」としました。「法律は最初に結論があつて、あとから理屈をつけている、それでいいのだろうか」という内容でした。先生には、ぼつり「お前はもう少し勉強すべきだった」と言われました。でも、その頃から、自分の切り口で書いていました。

山内 そのように思いきれるかどうかは、重要なポイントだといえます。

山浦 自分の頭で考えて、自分の言葉で表現するのが一番なのですが、そこまでいけないときは、そういうた振りをするぐらいのしたたかさも必要だと思います。

山内 大学の学問で何が大事かというと、頭を鍛えることです。何らかの分野で専門性を高めて、頭を鍛えて応用力をつける。何か問題が出てきたときに、自分

の頭で考えて判断できる能力を身につけることが重要だと考えています。今のお話を聞いて、まさにそうだと意を強くしました。

山浦 受験勉強では、先生から与えられた情報を大きな口を開けて次から次へと飲み込んでいく、たくさん食べたほうが頭がよい……それでもいいでしょう。しかし自分があと2〜3年で弁護士になるとすると、知識の受け売りではなく、自分の頭で考え、自分で動くモードに切り替えなければなりません。

弁護士に必要なのは、 「好きになる」こと

山内 弁護士として長年ご活躍されていましたが、弁護士にとつて何が一番大事だと思いますか。

山浦 人はいったん嫌われたらどんなに立派なことを言っても受け入れてもらえません。弁護士の仕事は人と人との採めごとをどのように解決するかという、人の営みそのものです。そこでまず「好きになる」ことを挙げたいですね。事件を好きになる、依頼者を好きになって依頼者に好かれる、裁判官を好きになつて裁判官に好かれる、相手方弁護士を好きになつて相手からも好かれる。裁判官や弁護士、互いに好きになるといふのは誤解を招きやすい表現ですが、ここでは互いにプロフェッションとして尊敬し合うという意味です。



裁判のイメージは、裁判官と弁護士はチームメイト。内科医、外科医、麻酔医、精神科医などが協力して患者の治療にあたるチーム医療と同じです。弁護士はかかりつけ医で、法廷は集中治療室、弁論準備は事前打ち合わせという

感じます。紛争のなかで立ち直れずにいる患者に対して、裁判官と弁護士が技術者集団として対立を乗り越えて協力し、患者を救済するわけです。それが司法という対人援助業務の基本姿勢です。

山内 いい弁護士を探すには、どうしたらいいのでしょうか。

山浦 弁護士は依頼者に雇われるわけではありませんから、初対面から「承知しました」ということはありません。少し厳しいように感じますが、依頼者側の弱い部分、法的問題や証拠不足の部分もちゃんと指摘する。「このケースは……だから勝てないかもしれない。でもあきらめることはありません。根気よく探せば必ずどこかに証拠があるはずだ、だいたいあなた自身が重要な証拠だ、あなたが頑張れば法廷でも通じます」と言って支援します。口ベタでもいいから、最初に事件の見通しを客観的に説明する。そのうえで



依頼者と一緒に汗をかいて証拠集めをする。こうして互いによいコミュニケーションを重ねて信頼の質を徐々に高めていきます。こういう手順をきちんとやる弁護士は、最後までいい仕事をしてくれるはずですよ。

あくまで弁護士として

最高裁の判事を務める

山内 最高裁判所の判事として重要なことは何でしょうか。弁護士とは違うものですか。

山浦 あまり大きな違いを感じません。これまで法に仕える者として仕事をしてきた。最高裁判所判事も、同じように法に仕える者ですから、ここでモードを替えることはあまりよいこととは思えない。これからも弁護士のつもりで、仕事をしていきたいと思えます。

日本のリーダーが語る
世界競争力のある人材とは？

山内 最高裁判所の判事というと、大変責任の重い立場ですが……。

山浦 たしかにそうですが、せっかく弁護士から選ばれた……特に私の場合には、法学部生としては落第、サラリーマンも失敗、改めて勉強をやり直した。弁護士になってからは、東京の高層ビル街の片隅に弁護士1人、事務員1人の最小ユニットの法律事務所を開設して約30年、著名事件や大型事件をやったことはないが、マチ弁としての誇りを持ってコツコツとやってきた。そういうなかから選ばれたのだから、自信を持って、その経験を活かしてやり抜こうと考えています。

山内 弁護士の仕事を通じて、特に関心をお持ちのテーマはありますか。

山浦 市民は本当に法律によって守られているかという疑問です。法廷では真実を明らかにすることが必要で、そのため実質的に武器対等が保障されているか、特に情報が偏在している事件においては証拠開示が不可欠です。そうでなければ、市民に対して「武器を持たずに戦え」というようなもの

です。被告人と警察や検察官とを比較すれば、刑事事件における武器対等の原則は、さらに重要なことがわかります。



山内 最高裁判所の判事は裁判官、検察官、行政官、法学者として弁護士から構成されています。それぞれ経験が異なっています。それぞれ経験が異なるのはありますが、役割分担のようなものはありませんか。

山浦 出身母体が違うので経験の違いがありますが、その違いはむしろ心地よい程度だと思います。じゅうぶんな評議をするために相手の意見に耳を傾け、プロとしての経験や人柄に対して敬意を払っています。私が弁護士としての経験をもとに意見を言えば、皆、

耳を傾けてくれる。大事なことは5人の裁判官（小法廷）の持てる力を総動員し、チームプレーで真実を明らかにすることですから、5人のいわば正五角形ができるわけです。

相手の立場から、

自分自身をも見つめる

多面的な視点

山内 司法研修所の教官や法科大学院の教授を歴任されていますが、法曹教育についてのお考えをお聞かせください。

山浦 司法研修所では、すべての教材について、スタッフ全員で合議し、効果的な指導を工夫してきました。骨の折れる作業でしたが、後輩指導が好きな人の集まりでしたから、弁護士も裁判官も啓発し合っていました。しかし法科大学院では、一つの講座を巡って研究者同士や研究者と実務家が互いに検討し合うということが足りないのではないのでしょうか。今はまだ草創期で、これから徐々に充実させていくのだとは思いますが、学問のパワーと実務家の経験をうまく按配することが重要です。

もう一つ、法曹養成は教えるのではなく、教員は少しばかりの先輩として「気づき」のチャンスを与えればいいのです。ロースクールでは、実務経験が豊富な弁護士に未修生の科目を担当させると、きっと法律が好きになると思います。最初に法律を学ぶとき、定義がどうで学説はどのようという講義では法律が嫌いになってしまう。



私は裁判入門の科目で、まず法律事務所の体制がどうなっており、事件がどのようにして起きて、どのようにして依頼がくるのか、事務所の収入はど

れぐらいで人件費や税金がいくら、手取りはいくら……
こういう切り口で実際の裁判がどのように進んでいく
か、自分の例を教材にして講義をしてきました。

山内 そのほうが、リアリティがあつて面白いですね。
では、法曹を目指してこれから法律を学ぼうとしてい
る若い人たちに、伝えておきたいことはありませんか。

山浦 大事なものは、自分の側からだけではなく、相手の
側からも見ることです。テレビで将棋の加藤一二三九段
が、対戦相手がトイレに立ったとき、さっと立って向こ
うへ行き、相手方の陣営から自分の陣をじーっと見て、
相手が戻ったら、さっと自分のところに座つたのを見た
ことがあります。加藤九段は、相手がいても相手の肩越
しからのぞき込んだり、先後手が全く同型でもやっぱ
り向こうへ行つて見てくるということ。プロ棋士は
目隠しをしても何百手も読めますから、そのようなこと
をしなくとも、当然わかつているはずですが、これくら
い熱心に相手方からどう見えるかということを考えてい
る。私はこれを見たときにシヨックというか、すごく新
鮮な印象を持った記憶があります。

我々の仕事も同じで、自陣から見るのは慣れていま
すが、相手の立場から自分の側を観察し、弱点はない
かと考える。もともと多くの事件は、善と悪の戦いで
はなく、双方ともが善と善なのです。だからこそ予断
を捨てて相手側に立つてみる必要があります。本来、
社会科学という学問は、そういう性格のもので。これ
に関連して、法律家は自分自身も検証の対象として
見なければいけません。法律家が世の中からのよう
に見られていて、世の中の期待に答えられているか、
独り善がりになっていないか、いつの間にか初心を忘
れ特権階級のもりになって思考回路や価値観に偏り
が生じているのではないか……。これまで我が国の弁
護士は、自分を安全な場所において、いわば舞台の下
から舞台の上の人に文句ばかりを言ってきた。ようやく
最近になって自分の姿を見つめ直すようになってき

た。市民や企業の弁護士に寄せる期待が大きにもか
かわらず、残念ながらその期待にじゅうぶんには応え
てこなかった我が国の弁護士の姿が見えてきます。こ
れから法曹を目指す人は、自分自身のありのままの姿
を見ることを心掛けてください。そうすれば自分の役
割がわかってきます。

山内 多面的にものごとを見ることは重要ですね。自
分もその対象にするというのが、一番難しいかもしれ
ませんね。あまり見たくないというのが本音ですから。



山浦 やはり謙虚さですね、自分を分析して五角形を
描いてみると、それなりの経験を積んではいるが、い
つの間にか情性や不勉強からくる情報の偏り、独り善
がりの経験を頼りにした判断の偏りなど、普段は気づ
かない自分自身の偏りに驚かされます。後輩に伝えた
いのは、法に仕える者としてつねに謙虚に、偏らない
ものの見方ができるようにすることです。社会の光の
部分だけでなく影の部分もしっかり見る。競争社会の
勝者だけではなく敗者も見る。発展だけではなく失わ
れていくものも見る。他者に配慮することができ、
そういう心に潤いのある法曹になってほしい。

国際化時代に欠かせない 自由な視点、平和な視点

山内 最後に、「世界競争力のある人材」の育成につい
て。一橋大学では、経済界に進む学生が圧倒的です。
法曹の長い経験から、学生に何かアドバイスをいただ
けませんか。

山浦 私のように国際人でもないし、経済界では生き
られなかったような者にとつて、この質問は非常に難
しいのですが、国際的というとすぐに、英語が話せる、
外国を知っている、留学の経験がある、商社や海外事
業に携わっているというイメージが浮かんでくる。こ
れはこれで大事なことです。それは部分的な現象に
過ぎない。世界に通用するというのは、肌の色、国籍
性別、宗教、慣習などの違いがあつても、分け隔てな
く(差別や先入観を排して)、互いに相手方の文化を尊
重して、ものごとを優しく見ることができるとセンスや
能力ではないか。自由な視点、平和な視点とも共通し
ていますね。

山内 先ほど、「好きになる、好きになってもらう」と
いうお話がありました。国際化でもそれが重要にな
りますね。本日はどうもありがとうございました。

社会科学古典資料センター

紀元前7世紀のアッシリアには、アッシュールバニパルの宮廷図書館があったことが粘土板文書群の出土によってわかっています。有名な紀元前3世紀のアレクサンドリア図書館では、本を持った旅人が訪れるとそれを没収して写本を作成するほどの徹底した資料収集を行っていたといわれています。日本では、たとえば、広く一般の閲覧も認め、今日の公共図書館の先駆ともいえる仙台藩の青柳文庫などが有名です。

図書館には、図書館資料の収集、整理、保存、情報提供などの機能があります。人間の知的好奇心を満たし、文化、学芸の発展を図るうえで図書館は不可欠なのです。

一橋大学には、附属図書館とともに、西洋古典資料を専門に管理する施設として社会科学古典資料センターがあります。そこにスポットライトを当てて、一橋大学がいかに「書を守り」、文化や学問を支える中核として図書館を機能させているかを見てみましょう。

「書を守る」

本を貸さない図書館？

社会科学古典資料センター所蔵の貴重書は館外貸出をしていません。利用者は書架に並ぶ資料を直接見ることはできず、受付で読みたい本を申請して、定められた閲覧スペースで読まなくてはなりません。それに加えて、利用の前には手を洗うこと、筆記用具は鉛筆以外使わないこと、本を書見台に載

せることといった数多くの細かい決まりがあります。

一見するとこうした規則は厳しすぎるようにも思えますが、実は、資料の状態をできるだけ良好に保ち、今後可能な限り長期間にわたって古い書物の利用を続けてもらうためには不可欠なことなのです。そのことを説明する前に、社会科学古典資料センターにはどのような資料があるかを簡単に見てみましょう。

1850年以前刊行の貴重書 7万5000冊を収蔵

一橋大学は商法講習所の創立以来、多くの社会科学の古典を蓄積してきました。このなかには、カール・メンガー、オットー・ギルケ、左田喜一郎といった学者の旧蔵書、フランクリン文庫、ベルンシュタイン・スヴァーリン文庫など世界的に著名かつ重要なコレクションがあり

箔押しやマーブル紙などを用いて西洋の伝統的製本を施された古書



ます。メンガー文庫やギールケ文庫は、関東大震災で東京・神田にあった大学の校舎の大半が倒壊・焼失した際も、また第二次世界大戦の戦火からも守り通されました。ちなみに、大戦中は約5万冊の貴重書の疎開が行われています。

社会科学古典資料センターは、これらの貴重な古典を集中管理し、多くの社会科学研究者のより高度な研究に資するために、1978年に一橋大学附属図書館から分離され、独立の機構と目的を持つ貴重書図書館として設立されました。蔵書数は約7万5000冊で、附属図書館の



所蔵する1850年以前の洋書はすべて貴重書としてここに収蔵されており、その数は年々増加しています。このうち後述するメンガー文庫は、イギリスのロンドン大学のゴードスミス文庫、アメリカのハーバード大学のクレス文庫、コロンビア大学のセリグマン文庫とともに、経済学分野の世界4大コレクションの一つに数えられています。また、ゴードスミス文庫とクレス文庫を収録したマイクロフィルムも社会科学古典資料センターに収められており、世界的に貴重な社会科学古典文献の巨大宝庫を形成しています。

世界的にも注目される 貴重な文庫類

社会科学古典資料センターに所蔵されている特殊文庫や貴重書群は、研究を深めていくうえで欠かせないものであり、社会科学の総合大学と

して一橋大学の評価を高めることに大きく貢献しています。以下で蔵書の中心となっている文庫をいくつか紹介します。

メンガー文庫

オーストリア学派の創始者の1人として知られる経済学者カール・メンガー（1840—1921年）が蒐集した、約2万冊からなる世界的コレクションです。メンガー文庫は経済学・社会思想の古典が充実していることはもちろん、周辺諸学への豊富な広がり特徴です。収蔵されている資料で



使用されている言語は、実に十数か国語に及びます。さらにメンガー自身による数多くの書き入れ、自筆ノート、書簡などのドキュメントやマニエスクリプト（手稿）が含まれていることも特筆すべき点です。

文庫のうち約6割は、社会思想分野の古典資料です。このなかには、メンガー自身の著作のほか、『資本論』（1867年）の第1巻初版などがあり、広い意味での経済学の古典が含まれています。

また、その他の分野についても、法学、歴史学、社会学、民族誌、旅行記、統計、雑誌類など実に多方面



社会科学古典資料センター

にわたる取書が行われてい
ます。そのた
め、経済学に
限らず多くの
専門分野から
の利用が可能
です。こうした蔵書構成は、経済学
のパラダイム転換を図って経済人類
学への道を開いたとも評される『国
民経済学原理』改訂稿に至るメンガ
ー経済学の到達点、全体像をとらえ
るための手がかりともなります。さ
らに、蔵書の随所に見出される書き
込みが重要な要素となっています。
特に上記『国民経済学原理』初版の
手沢本にはメンガー自身による実
に細かい書き入れがあり、彼の改訂
の意図を知るうえで大きな手がかり
となります。

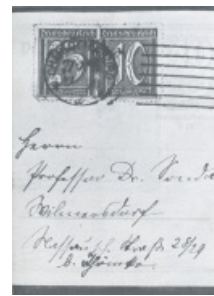
メンガー文庫の入手は、1921
年、当時ベルリンに留学していた大
塚金之助氏をはじめとする一橋大学
の若手研究者6人が、メンガーの死
去を伝える新聞記事を見て、当時の
図書館長・三浦新七氏にその遺蔵書
の購入を提言したことが発端です。
当時の図書館の予算を超える金額で
したが、学内で多数の人が資金調達
に奔走し、現地では大塚氏たちがメ
ンガー夫人と折衝を重ね、多くの購
入希望者を措いて購入にこぎつけま
した。ちなみに、購入資金7万円の
うち1万円は、左右田家からの借入
で賄っています。こうして40箱を超

える木箱に詰められたメンガー文庫
は、海を越えて一橋大学に到着しま
した。関係者の献身的な努力により
関東大震災にも第二次世界大戦にも
耐えて、「一橋大学にメンガー文庫
あり」と現在に至るまで国内外を問
わず多くの関係者の注目を集めてい
ます。

ギールケ文庫

「団体法論」で名高いベルリン大
学教授オットー・フォン・ギールケ
(1841-1921年)の約1万
冊の蔵書です。その中心となるのは
法学で、法学一般、民法、国法、労
働法、刑法、商法、教会法、慣習法
などの分野の文献があります。なか
でも民法、国法は全体の50%を占め
ています。民法のなかにはローマ法
部門があり、そこにはヴァンゲロウ
の『パンデクテン法教科書』のよう
な手書きの講義ノートもあります。
ほかにもギールケの名著『ドイツ団
体法論』(1868-1913年)
をはじめとする一連の著作や、L.
ブレンターノ、J.コブラー、M.パ
ッペンハイム、U.シュトゥウツな
どの作品も多く収蔵されています。
また、法学の周辺領域として政治
学、経済学、社会学などの文献も所
蔵されています。

入されたものです。前述のメンガー
文庫もこのギールケ文庫も、その購
入資金のほとんどが卒業生からの寄
付金で賄われたというのも一橋大学
らしいところといえます。



ギールケ文庫購入にあたり、ギールケ夫人が左右田氏に宛てた手紙

フランクリン文庫

社会科学を専門とする古書商であ
り古典文献のリプリントでも知られ
るバート・フランクリン(1903
-1972年)の個人コレクション
です。図書約7000冊、パンフレ
ット類約9000点、マニユスクリ
プト約6000点からなっています。
図書の中にはクレチエンチの『農
業便宜論』(1471年)やアウグ
スティヌスの『神の国』(1489年)
などのインキユナブラ(初期の活
字本)も含まれています。図書は、
フランス、イギリスの経済学・社会
思想関係の古典が中心で、ゴルド
スミス・クレス文庫に所蔵されてい
ない文献が数多くあります。特にテ
イレルの『パトリアルカ・ノン・モナ
ルカ』(1681年)や、エルヴェ
シウスの『精神論』(1758年)
に関する当時の資料などは稀観文
献です。

ギリス関係のものが主で、特にその
大半を占めるのはフランス革命(1
789年)前後の法令等のパンフレ
ットです。
マニユスクリプト類のなかには、13
世紀の南仏ラングドックの土地賃貸
契約書にはじまって、『マグナ・カル
タ』の写本2点(14世紀)、メディチ
家の帳簿、チュルギーの筆跡のある
手紙、フリーエ、エティエンヌ・カペー、
J・B・セーの手紙などが含まれてい
ます。なかでもフランスのロブリエー
ル侯爵家のコレクション(14-18世
紀)27冊は体系的なもので、中世の
封建諸侯の歴史を研究するうえで
重要な史料といえるでしょう。
なお、この文庫は、三井物産をは
じめとする三井グループ22社が中心
となつて3億5000万円を拠出し
て購入し、1974年に一橋大学に
寄贈されたものです。

左右田文庫

左右田銀行(現在の横浜銀行の前
身のひとつ)頭取であり、一橋大学
の前身・東京商科大学などで教鞭を
とつた左右田喜一郎氏の哲学思想関
係を中心としたコレクションです。
左右田家から寄贈されたこの文庫
は、実は関東大震災で蔵書のすべて
を失つた左右田氏が、その後亡くな
るまでの3年間に自ら再収集したも
のです。
経済哲学を創始した左右田氏の文
庫に相応しく、新カント派を中心と

する古今の哲学古典や、ドイツで出
版された博士論文などの稀観資料を
含む哲学研究文献が数多く含まれ、
また哲学以外にも、数学、自然科学、
法学・国家学、社会学、社会主義
国民経済学等の周辺諸学が広く収集
されています。カントの著作に関し
ては『実践理性批判』、『判断力批
判』、『純粹理性批判』の初版、各版
をはじめとして、全集、著作集の各
版がよく揃っています。カント研究
の文献も約900冊あり、カント哲
学や新カント派研究に必要不可欠の
蔵書です。カント周辺のC・ヴォル
フ、J・F・フリース、ライプニッツ
などの著作も充実しています。
その他、ナポレオン1世の蔵書で
あつたことを示す紋章の入ったルソー
全集のように、旧蔵者を探るだけで
も興味深
い文献や、
オーギュ
スト・ロダ
ンの研究
書をはじめ
めとする
美術史関
連書籍なども含まれています。



ナポレオン1世の旧蔵書

ベルンシュタイン スヴァーリン文庫

レオン・ベルンシュタイン(18
77-1962年)とボリス・スヴァ
ーリン(1895-1984年)の
それぞれの蔵書の一部を合わせた約



ルイ14世のサインの入った
フランス王室公文書

1200点のコレクションです。このコレクションでは、特にロシア語文献の収集に力が入れられており、19世紀後半から20世紀初期の重要な社会主義運動の文献が網羅されています。ベルンシュタイン、スヴァーリンともパリに住むロシア人活動家としてロシア革命に深くかかわっており、その蔵書は当時の運動家の知的関心を知るうえでも興味深いものといえます。

ゲルツェン、チエルヌイシエフスキーらの19世紀の著作から、ロシア革命前後のレーニンの主要著作とその各国語訳、ブハーリン、スターリン、トロツキーらの文献などを豊富に含んでいます。

一般貴重書

「一般貴重書」とは、1850年以前に刊行された図書で、本学で購入した貴重書と、佐野、村瀬、上田、

Leix、青山、良知、山内、鳴海文庫などの特殊コレクションのうちから、原則として1850年以前に刊行された図書を抽出したものの総称です。

一橋大学の長年にわたる学問研究の歴史的蓄積を反映して、社会科学、人文科学の極めて広い範囲に及び、モア、エラスムス、ボダンらの16世紀の著作から19世紀に至るまでの1万冊を超える古典資料が収集されています。このなかには、ホップズの『リヴァイアサン』初版（1651年）、『百科全書』初版（1751年）、マルサスのサイン入り『人口論』初版（1798年）、同『経済学の諸定義』（1827年、著者からセーへの献呈本でセーの書き入れがある）などが含まれています。その他ゴールドスミス・クレス文庫に所蔵されていない文献も多く、またロバート・オーウェン関係の相当数の



ロブリエール家文書

文献があることも注目に値します。

貴重書の資料価値を高める 貴重書保存修復工房

社会科学古典資料センターには、保存と修復の専門技術者を擁する貴重書保存修復工房があります。

工房が附設された直接のきっかけは、1993年から社会科学古典資料



料センターが行ったメンガー文庫のマイクロフィルム化・目録改訂・保存事業です。この事業で、所蔵する原本を中心に、利用代替物としてのマイクロフィルムを作成し、原本自体の保存措置を行い、利用のための目録を作成するという利用と保存のための基本方針が定められました。この理念を実現するため、1995年に西洋古典資料の保存・修復を専門に行う部門として社会科学古典資料センター内に設置されたのが貴重書保存修復工房です。

基本方針のうちで特に重要なものが、すでに破損している資料のみを対象とした事後的

な修復、対処に留まらず、全点を対象に予防的に処置を行うという保存対策の考え方です。全点の劣化状態を把握し、資料群全体の長期的保存を目指すという考え方は、メンガー文庫の保存事業以降も、社会科学古典資料センターの保存対策の基本方針として引き継がれています。

資料が修復の必要な状態にまで劣



手彩色の美しいインクナブラ



化しないようにするために、まず資料の保存環境を適切に整備することが重要です。社会科学

学古典資料センターでは、安定した環境で資料を長期的に保存するため、照明の全LED化、窓への紫外線除去膜の貼付（光線による資料劣化の防止）、吸気と排気を備えた特殊な空調の設置、書庫内における二重構造壁の設置、調湿パネルの設置（湿度環境の安定化）、冷凍庫を用いた低温処置、フェロモントラップによる調査（虫害の防止）などさまざまな対策をとっています。また、埃やカビなどによって資料が傷むことを防止するため、定期的な清掃を行うことで書庫を清潔な状態に保つことに留意しています。変形を防ぐために本を斜めに置かないことや、本棚に詰めすぎないといったごく単純な工夫も、日々の管理として大切なことです。

すでに劣化の進行している資料や何らかの処置が必要な資料に対しては、修復や保存措置が行われます。一口に古典資料といっても材質や製本構造は多種多様であり、劣化の原因もさまざまです。長期的な保存を考えるとときには、一冊一冊を調査し、それぞれの状態に応じた処置を行う必要があります。こうした背景

から、貴重書保存修復工房をセンター内に設置することは、外的要因に左右されず、保存修復そのものを効率よく安定的に進めるうえで、大きな意味を持っています。

同規模の技術・設備を内部に備えた機関は、設立当初はもちろん、国立大学法人では現在でもほかに例がありません。世界的に資料保存の問題が深刻化しているなか、当工房の活動は関係諸方面で高く評価され、国内のみならず海外の図書館などからも多数見学者が訪れています。また、工房に蓄積された経験・技術は、全国の大学図書館職員などを対象に例年行われている西洋社会科学資料講習会・西洋古典資料保存講習会という二つの講習会の開催などを通じて広く共有されており、一橋大学の社会貢献の一つとして高く評価されています。

保存修復工房で行っている作業

貴重書を購入すると、まず劣化調査を行います。「調査票・処方記録」（保存カルテ）に書籍の構造や素材、劣化状況を記入し、修復作業の必要性の有無や処置法を判断します。そのうえで、保存作業に入ります。新規購入図書の場合は、大型冷凍庫で1週間マイナス40度に冷却、虫害予防措置を行います。

破損しているページや破損の恐れ

があるページは、和紙としようふ糊を使って補修や補強を行います。表装の革が傷んでいる場合には目止めのアクリルポリマー塗布などの保護のための作業を行います。これによって革の耐性が増し、劣化の進行を抑えることができます。

保存修復作業を行う際に、もともとの製本構造や材質が改変されてしまいう危険があるときには、あえて手を加えず、保存箱に入れるなどしてできる限り原形を維持する努力をしています。反対に、金属製のステーパーで綴じられた本などについては、錆によって資料全体が傷むのを防ぐために、原形が変わる場合でもステーパーを除去します。また、20世紀後半以降深刻な問題として広く知られるようになった酸性紙の劣化への対策として、工房の設計による中性紙を用いた保存箱や保存フォルダに入れる作業をすることもあります。

最後にカルテの記載事項をパソコンに入力します。このカルテは本の記録であるのももちろん、劣化傾向の分析や専門的な処置法を検討する基礎データとなります。

貴重資料の長期保存と継続的な利用

最後に強調しておきたいのは、資料の保存対策は、資料の物理的状态

や技術的要件から一律に決まることではないということです。すなわち、同じ状態の資料があっても、何をどこまで修復するかは所蔵館によって判断が異なりますし、利用に耐え得る状態であれば場合によっては修復しないということも一つの選択肢になります。そしてこうした判断は、

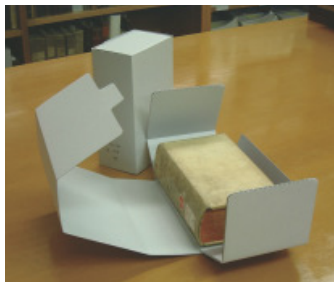
所蔵館の資料に対する理念や方針、所蔵資料全体のなかでの当該資料の位置付け、利用のあり方などさまざまな要素から決まります。保存の世界ではこうした判断に基づく資料保存を、単純に技術レベルでの保存「conservation（コンサーベーション）」と区別して、preservation（プリザベーション）と呼んでいます。プリザベーションにおいては、個別の技術的な対応は、つねに館の資料に対する理念や方針から導かれます。

古典資料の長期保存が必要である一番の理由は、本の中身だけではなく、装丁や、製本構造のような本の物理的構造もまた文化や歴史の一部であるからです。文化の保存と伝達はわれわれの大変重要な使命ですが、残されてきた資料そのものの長期保存なくしてこのような理念は実現できません。

貴重書といえども文献資料ですから、積極的に利用してもらうこともとても重要です。そして、古い資料をしゅうぶんに利用するためには、こうした万全の保存体制が整っていることが必要不可欠なのです。

修復の手順

④本の状態に応じて保存箱を作成します



③傷んだ革装には保革油を塗布します

②破損部分は和紙としようふ糊を用いて修理をします



①書籍の構造や素材、劣化状況をカルテに記入します

特別授業

「本を残す 本を伝える～書籍の保存と修復」

—中学生・高校生8人の修復工房体験



「本に触れよう 本を作ろう」

このようなキャッチフレーズで、平成24年7月16日（月・祝〈海の日〉）、一橋大学社会科学古典資料センターでは、中学生・高校生向けに、書物の保存について学習する特別授業を行いました。これは、日本学術振興会からの受託事業で、貴重書の見学のほか、「糸と針を使って紙を綴じてみる」「和紙を使った紙の修理」体験などが主なプログラムです。受講生は、青森から関東までの8人の中学生・高校生で、応募者は35人でした。

当日は、普段は見学できない貴重書書庫が特別に開放され、『マグナ・カルタ』の写本や15世紀フィレンツェの大商人であるメディチ家で作成された会計帳簿、ルイ14世の署名入りの官職保証書、アウグスティヌス『神の国』のインクナブラ、ホップズ『リヴァイアサン』、ニュートン『プリンキピア』初版本、マルクス『資本論』初版本など、西洋史を飾る有名な本を実際に見学しました。また、書物を保存するうえでの注意点が、センター職員から説明されました。受講生たちは古版本が持つ独特の雰囲気によって圧倒されながら、各種の羊皮紙の手触りを体験するなど、時間を忘れて楽しんでいました。

その後、併設されている貴重書保存修復工房でページ修理や手作りノートの簡易製本の実習にチャレンジしました。ページ修理の実習では、試しに紙を破ってみようという指示に戸惑いの色を浮かべましたが、その後、和紙としょうぶ糊を使って破れた部分がきれいに修復されると、たちまち満足げな

表情に変わりました。手作りノートの製作では、紙に糸を通す穴を開ける作業を力を込めて行ったあと、ほどけないように糸を結びつける作業を真剣なまなざしで行っていました。最後にあらかじめ作っておいたマーブル紙の表紙を選び、中にノートを入れると完成です。受講生は皆、ほっとした表情を浮かべていました。

社会科学古典資料センターの山崎耕一教授は、「最初はこのテーマが中学生・高校生の興味を引くか不安でした。しかし、関心を持ってくれる生徒が多く、講座が終わったあとには面白かったと言ってもらえました」と語っていました。付き添いの保護者の関心も高かったようで、「お子さんよりも積極的に質問してきた親御さんもいました」ということです。なお、中学生・高校生にはブックマイスターの称号が授与され、プレゼントされた保存用中性紙を使用した葉や、自分の手で作った本は素敵なおみやげとなりました。



ポスターと当日使用したテキスト

研究機関として

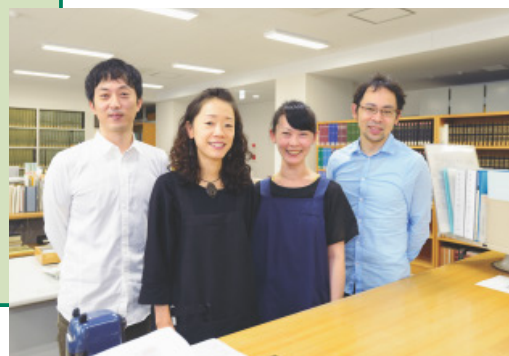
社会科学古典資料センターは、研究の基盤を提供する図書館機能を備えているだけでなく、所蔵資料を活用した研究機関としての

側面も持っています。「社会科学古典資料センター年報」「社会科学古典資料センターStudy Series」という2種類の刊行物を毎年発行しているほか、日本学術振興会の科学研究費補助金を活用した研究も活発に行われています。現在も、所

蔵資料の印刷上の特徴を統計的に調査する書誌学的研究、西欧人によるロシア・アジア旅行記の内容分析、ロブリエール家文書の研究など、複数の研究プロジェクトが並行して実施されています。

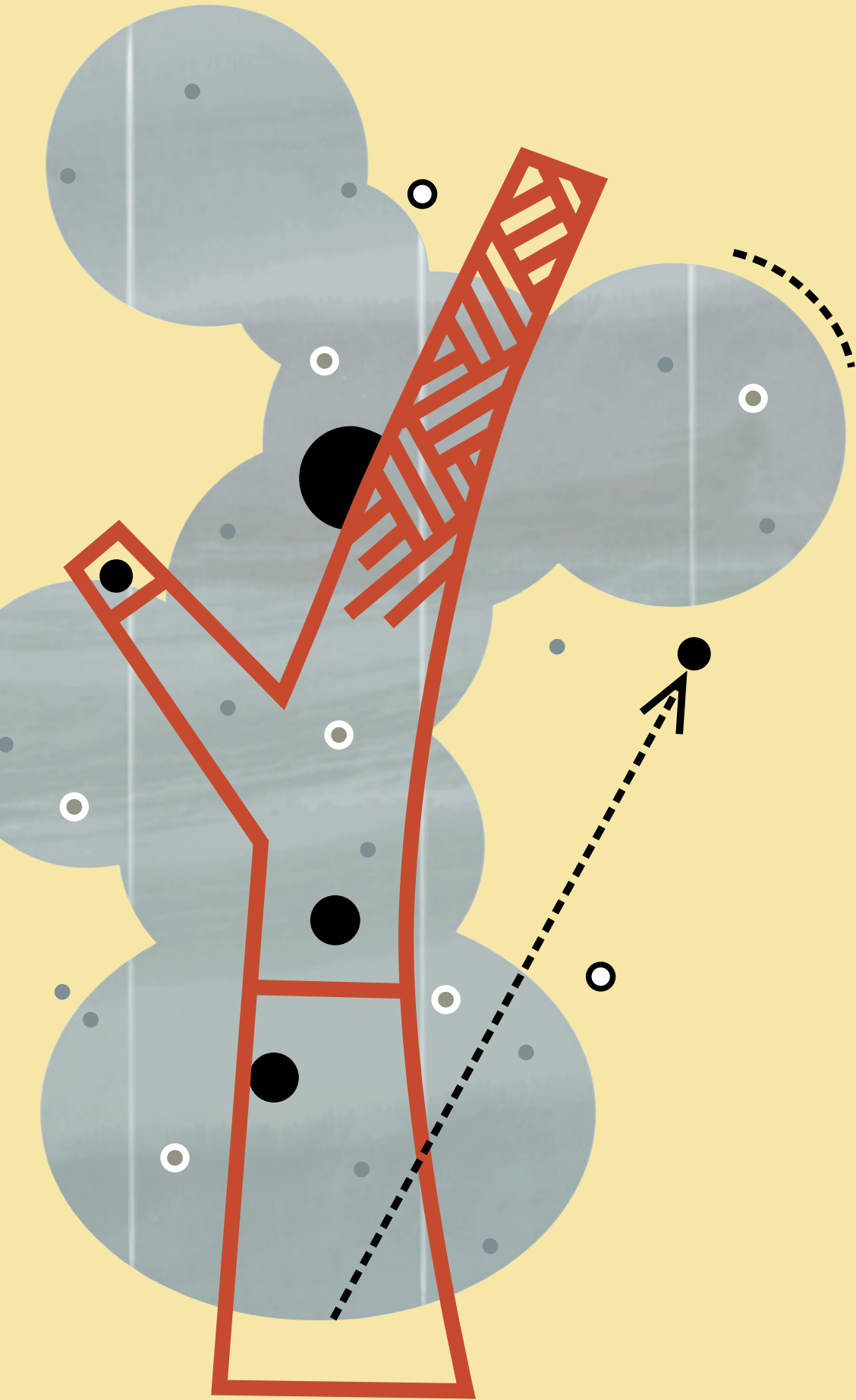


センター展示のパンフレット



学際的・国際的・産学官連携の研究を推進する

一橋大学研究機構



一橋大学研究機構の位置付け

「スマートで強靱なグローバル一橋」の確立を目指した「一橋大学プラン135」では、一橋大学研究機構の設置を研究の重要な柱の一つとしています。そこには、「研究科、研究所の個々の分野における高水準の研究を一層すぐれたものにするために、大学は積極的に支援します」とあります。その一方で、「部局の枠を超えた学際的研究を進める必要性も高く、全学的、学際的研究を進める方策をとらなければなりません」としているのです。

一橋大学研究機構については、「一橋大学における研究の基本的戦略を定め、個々の分野の研究を支援すると同時に、新しい研究分野を開拓する役割を持ちます。また、政策フォーラムを実施して、一橋大学の研究成果を積極的に開示し、国内・国際社会に一橋大学の高い研究水準を示し、日本と世界に貢献することを目指します」としています。

これは、中期計画の「世界最先端の研究情

報の共有と重点領域の設定のため、部局横断的研究組織を戦略的見地から検討する。この目的を達成するため、「一橋大学研究機構（仮称）」を設立し」に呼応したものです。

三つのプロジェクトが進行中

- 一橋大学研究機構の業務は、次の七つです。
1. 研究戦略の企画及び推進に関すること。
 2. 研究内容の高度化、多様化への対応の支援に関すること。
 3. 部局横断的な研究支援に関すること。
 4. 若手研究者支援に関すること。
 5. 研究成果の情報発信に関すること。
 6. 外部資金の獲得等による基盤整備に関すること。
 7. その他必要な事項に関すること。

最初につくられた「研究センター」が、「東アジア政策研究センター（センター長・高橋滋法学研究科教授）」です。そこに、日本政策投資銀行（DBJ）とジョイントで行っている「DBJ共同研究プロジェクト」と「東

アジアにおける法の継受と創造プロジェクト」「資源エネルギー政策プロジェクト」があり、学際的な研究を進めています。

日本政策投資銀行とは、2011年6月に包括連携協定を結んでいます。この協定は、産学官連携を通じた社会貢献を促進することを目的としており、研究成果を社会的に活用するための支援、共同研究・受諾研究の推進、人事面での交流を行っています。

「東アジアにおける法の継受と創造プロジェクト」は、日本学術振興会の支援を得て、法学研究科のプロジェクトとして、中国人民大学法学院、韓国・釜山大学校法科大学との連携のもとに2007年度から始まりました。2012年度からは、吹野基金の支援を得て、東アジア政策研究センターのプロジェクトとして位置付け、研究を継続しています。

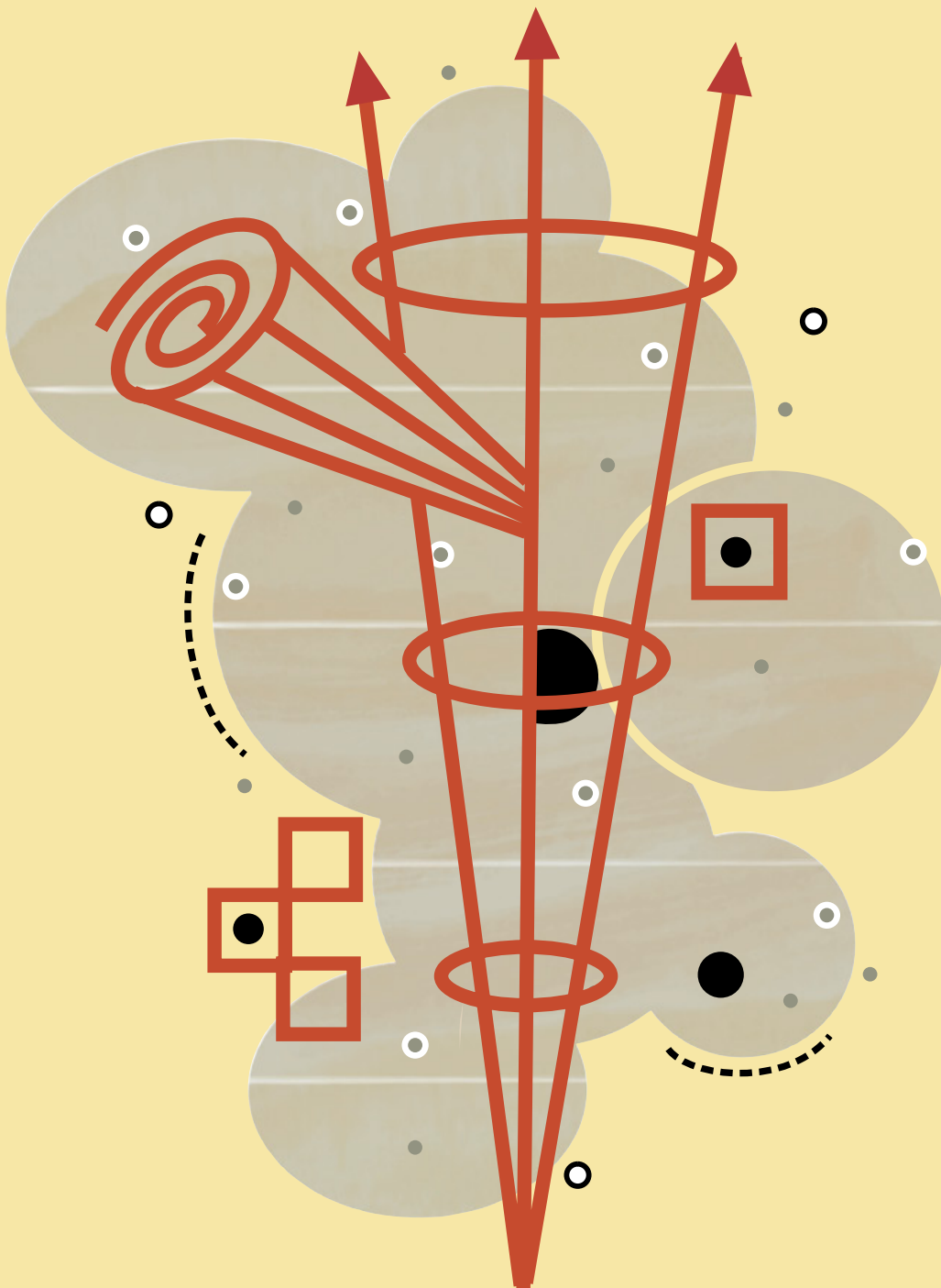
また、2012年4月には、「資源エネルギー政策プロジェクト」が日本軍縮学会と共催で、シンポジウム「福島原発事故後の原子力ガバナンス」を開催しています。

研究科の横断研究を 戦略的に推進するエンジン

三つの機能をオーガナイズ

一橋大学研究機構の目的は、各研究科が横断的に学際的な研究を進める際の中核となることです。研究科を超えた研究者同士の交流、外国の研究者との共同研究、そして産学官連携による政策研究、これらを進めることを目指しています。

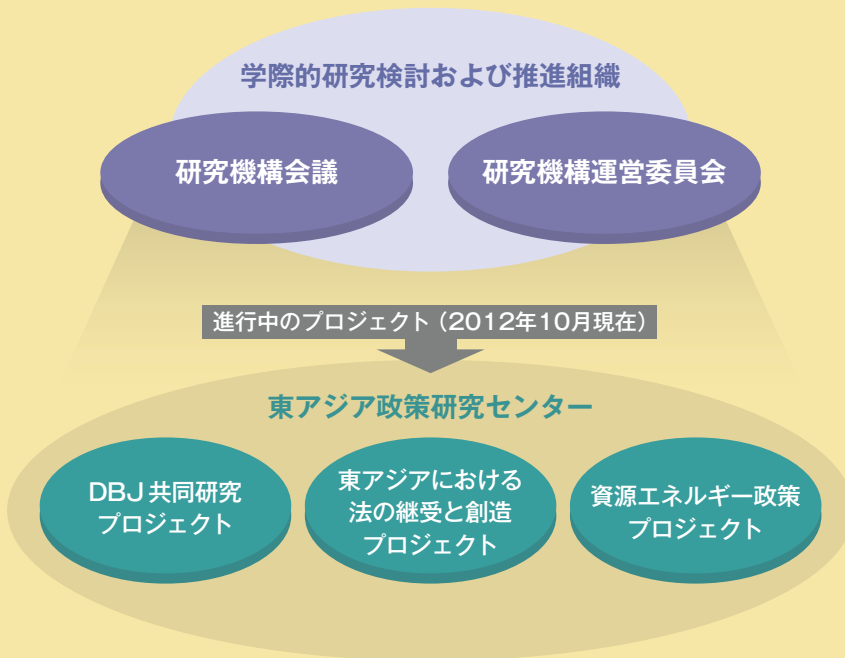
最初につくられたのが、「東アジア政策研究センター」です。すでに述べたとおり、ここでは三つのプロジェクトが動いています。日本政策投資銀行との共同研究では、金融の問題に焦点をあて、実務家と研究者が協力し合います。「東アジアにおける法の継受と創造プロジェクト」では、中国、韓国、そして日本の研究者による国際共同研究が進められています。さらに、資源・エネルギー



一橋大学副学長
(総務、研究、国際交流担当)

大芝 亮

一橋大学研究機構



問題については、学内の複数の研究科にまたがる研究者、官庁、企業という産学官連携で問題解決について議論しています。

このほか、一橋大学では、四大学連合（東京医科歯科大学、東京工業大学、東京外国語大学、本学）で共同の講演会を開催しています。

このように、内外の研究者や実務家と連携して研究を進めることを支援することが、研究機構の一つ目の特徴です。

二つ目は、研究成果を積極的に発信することです。たとえば、研究機構では、本学の研究科や研究グループによるさまざまな研究成果のうち、アジアに関するものについては、アジア政策フォーラムという名称のもとでシンポジウムを開催し発表することを支援しています。また、グローバルCOEをはじめとする、本学の優れた研究成果発表のシンポジウムについては、日本経済新聞に年4回、全15段を使って広告の形で、広く社会に報告しています。

三つ目は、若手研究者に対する育成支援です。まず、組織的若手研究者派遣プログラムによる海外派遣を行ってきました。日本学術振興会から資金協力を得て、ポストドクター（PD）の研究者を1年（以内）海外の大学等に派遣するもので、この5年間で40名のPDを派遣しています。また、博士課程の学生についても、3か月程度と期間は限定ですが、資料収集などを目的とした派遣を行っており、その数は5年間で40名になります。次に、若手研究者に対しては、海外の学会報告の際に旅費

を支援することも行っています。このほか、これまでにいくつかの研究助成金が設けられています。

文理共鳴研究の可能性も

研究機構に研究センターや研究プロジェクトを設けることで、外国の、そして学外の人との共同研究を進めやすくなりました。四大学連合のネットワークを用いて、文理共鳴の研究に取り組むことも検討しています。

なお、研究機構に置かれる研究センターについては、5年ごとに見直すことにしています。というのも、センターというものは一度設立されてしまうと、情性も働き、仮に活動の意義が薄れてきても、簡単には解散することが難しいというのが、これまでの状況でした。研究機構を設立するにあたっては、この弊害をなくすべく、センターの5年ごとの見直しをルールとしました。もちろん、活動の意義があり、成果を上げている場合には、継続していくことができます。

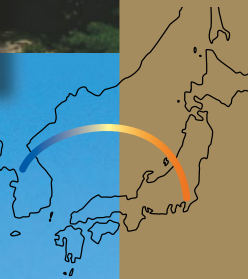
本学には、個々の優れた研究者がおり、研究成果もあります。その成果を大学として活用し、日本と世界の諸問題の解決のために貢献していくことを目指します。（談）

서

Hitotsubashi University in Seoul

か きょう
日韓間を架橋する、初の海外アカデミア

一橋大学は、2012年9月20日に、韓国・ソウルの中心部にある韓国プレスセンター国際会議場にて、初の海外におけるアカデミアを開催いたしました。テーマは「不透明なグローバル経済の中における日韓協力」。このシンポジウムの開催は、一橋大学のグローバル展開に向けての第一歩でもあります。



유



アカデミアを開催した
韓国プレスセンター国際会議場



司会進行を務めた
クォン・ヨンソク
一橋大学大学院法学研究科
准教授



本学の社会貢献活動の一環としての「アカデミア」

一橋大学は、2008年3月22日に、シンポジウムや講演活動からなる「一橋大学関西アカデミア」を大阪で初めて開催し、2010年からは、名古屋で「一橋大学中部アカデミア」も開催。東京に立地する社会科学の総合大学として、関西や中部地区の方々にも諸問題への優れた分析と方策を提示することをもって、本学の社会貢献活動の一環としてきました。

そして、2012年9月、初の海外でのアカデミアを韓国・ソウルで開催することとなりました。韓国は日本の重要な隣国であり、かつ本学への留学生数が中国と並んで最多クラスであること、また学術・学生交流協定を、ソウル大学、西江大学、成均館大学、釜山大学の4大学と結んでいることを理由に、一橋大学グローバル展開の第1回のお地として選定しました。

「一橋大学ソウルアカデミア」当日、2600人の参加者で会場はほぼ満員となり、本アカ

〈プログラム〉

- 開会あいさつ**
山内 進／一橋大学長
- 祝辞**
武藤正敏／在大韓民国日本国大使館特命全権大使*
ピョン・チャンク／ソウル大学副学長
イ・ジョンウク／西江大学長
キム・ジュンヨン／成均館大学長
- 大学紹介**
小川英治／一橋大学理事・副学長
- 基調講演**
大田弘子／政策研究大学院大学教授
「日韓がともに取り組む経済課題」
- 韓国側講演**
ムン・ウシク／韓国銀行金融通貨委員会委員
- 日本側講演**
小川英治／一橋大学理事・副学長
- 質疑応答**

人口比では圧倒的多数の 韓国人が留学

山内進一橋大学長の開会あいさつで「一橋大学ソウルアカデミア」は始まりました。山内学長は、一橋大学への韓国人留学生数

デミアへの期待の大きさを表していました。司会進行を務めたのは、クォン・ヨンソク一橋大学大学院法学研究科准教授。韓国からの留学生として本学で学び、継続して本学で研究生生活を送り、その後教員となった人材です。本アカデミアのプログラムは、左の表のとおりです。



山内 進 一橋大学長

*肩書きは、2012年9月20日当時のものです。



キム・ジュンヨン氏
成均館大学長



イ・ジョンウク氏
西江大学長



ビョン・チャンク氏
ソウル大学副学長



武藤正敏氏
在大韓民国日本国大使館特命全權大使*

次に、小川英治一橋大学理事・副学長が、本学について、発祥や沿革、建学および教育理念、組織構成、国際交流内容、就職状況（『エコノミスト』2010就職率ランキング1位など）や司法試験合格格率（新制度移行後7回中5回全国1位）などの教



小川英治
一橋大学理事・副学長

授の武藤正敏氏および、学術・学生交流協定校であるソウル大学のビョン・チャンク副学長、西江大学のイ・ジョンウク学長、成均館大学のキム・ジュンヨン学長から、それぞれ両国の友好と本学の発展を願う心温まる祝辞を頂戴しました。

多さ（現在留学生677人中195人、うち学部生は117人と最多。また人口比では圧倒的多数であることなど）とともに、韓国に帰国して企業や大学、官公庁などで活躍している優秀な卒業生が多いことに触れ、本学と韓国の関係の深さを強調しました。また、教育熱心で学生の学習意欲も高いことで有名な韓国にあって本学が認められていることは、本学が世界的にみても高い水準にあることの証左であることに言及。最後に、「両国間の深刻な諸問題を着実に解決し、ともに未来を開拓していくことに一橋大学は積極的に寄与する」と決意を表明してあいさつの結びとしました。

基調講演は、政策研究大学院大学教授の大田弘子氏が「日韓がともに取り組む経済課題」をテーマに行いました。大田氏は、本学社会学部を卒業後、埼玉大学助教などを経て2001年に



大田弘子
政策研究大学院大学教授

「日韓がともに取り組む経済課題」
大田弘子氏による基調講演
育成果、主要施設、「グローバルCOEプログラム」や「キャンパス・アジア」、東アジア政策研究センターなどの紹介を行いました。





서

울

Hitotsubashi University in Seoul

ムン・ウシク氏
韓国銀行金融通貨委員会委員



ムン・ウシク氏、 小川副学長による講演

次に、韓国側・日本側それぞれから日韓経

ご自身の見解を述べました。講演の後に、来場者からの質疑応答も活発に行われました。

3点について、
易体制の構築
エネルギー・環境
問題の分野での
連携、金融安全
網の強化という
に組み組むべき
アジアの課題と
して、東アジア
における自由貿
易体制の構築
問題の分野での
連携、金融安全
網の強化という
3点について、
ご自身の見解を述べました。講演の後に、来場者からの質疑応答も活発に行われました。



政策研究大学院大学教授に就任。その翌年から内閣府参事官、審議官、政策統括官に就任。2005年に大学復帰後、2006年から2008年まで安倍・福田両内閣の経済財政政策担当大臣を歴任されています。
講演では、日韓両国がともに取り組むべき共通課題として、高齢化や東アジアの安定成長、世界的経済危機について触れました。さらに日韓がともに

1回の「一橋大学ソウルアカデミア」は、成功裡に終了しました。参加者の中には、来年以降も引き続きソウルアカデミアを開催してほしいという声が聞かれるほど、好評でした。



最後のプログラムとして、ムン氏および小川理事・副学長に対する質疑応答が行われ、10人ほどの来場者が質疑に立ちました。いずれも、専門的であった発表内容の補足・確認に役立つレベルの高い質疑内容で、来場者の知見の深さをうかがわせました。
こうして、予定の時間を30分近く延長し約4時間にわたる充実した内容となった第1回の「一橋大学ソウルアカデミア」は、成功裡に終了しました。参加者の中には、来年以降も引き続きソウルアカデミアを開催してほしいという声が聞かれるほど、好評でした。

ハイレベルな質疑応答で 成功裡に終了

济協力にかかわる講演がありました。まず、韓国側からは、韓国銀行金融通貨委員会委員のムン・ウシク氏が「東アジア市場統合と日韓経済金融協力のための課題」をテーマに、日本側からは、小川英治一橋大学理事・副学長が「グローバル金融・財政危機と日韓協力」をテーマに講演しました。





Hitotsubashi University in Seoul

Ties and bonds



キム・スンキョム氏



ウォン・チョンハク氏



ジョン・ジョンシク氏

一橋大学での学生生活が、本国での活躍の糧に

第1回「一橋大学ソウルアカデミア」の開催を機に、
一橋大学大学院を修了後、韓国の大企業やベンチャー企業、
公的機関で活躍する留学生3人にインタビューを行いました。
いずれの方も、「一橋大学時代は、学業的にも人間的にも素晴らしい先生方や優秀な学生仲間、
美しく充実したキャンパスに恵まれた最良の期間」という感想で一致。
その期間に培った知見や人間的成長を糧に現在の活躍があるといい、
3人全員が非常に強い向上心と向学心を持っています。
話をうかがう側はたくさんの刺激をもらい、韓国人の持つ強いエネルギーや
バイタリティーを感じさせられるインタビューとなりました。

株式会社エキスパートコンサルティング
副社長

ジョン・ジョンシク氏
(丁鍾植)

大学院商学研究科修士課程

Chung, Chongsik
EXPERT CONSULTING
Vice President



一橋大学の教授陣の人間性や個性に触れ、 人として人を学んだ素晴らしき日々

日本映画や三味線など 日本文化に惹かれる

韓国ナンバー・ワンの人材教育コンサルティング会社である株式会社エキスパートコンサルティング。副社長を務めるジョン・ジョンシク氏は、1988年に一橋大学大学院商学研究科修士課程に入学し、2年間の学生生活を送った。

ジョン氏と日本とのかわりは、幼少時代にさかのぼる。マンガや映画が大好きだったジョン氏は、日本文化館で週1回上映される日本映画を友だちと観に行くことを楽しみにしていた。成長してからは、着物や住宅などに見られる日本文化への興味を深めたという。

「映画で芸者さんなどが奏でる三味線の音色に惹かれましたし、わび・さびといった日本文化も大好きでしたね」

また、年配の親戚が話してくれた、学校で日本語を習った話や日本文化に触れたエピソードなどに耳を傾けた。

「日本文化には、漠然とですが親しみを感じていました」と述懐する。

大学は韓国・ソウルの弘益大学校経営学に進み、マーケティングを学んだ。卒業後は韓国の大学院も考えたが、若いときにもっと広い世界に触れたいと思い、海外の大学院に留学することを思い立つ。そして、情報収集をすることにした。

「調べてみると日本の大学院も優れていることがわかってきました。そこで先生に相談すると、『アメリカはマーケティング発祥の地であり、理論や技術において世界をリードしている一方で、データ分析重視の定量的な研究が多い。それに対し日本は、定量的な研究に加え感性を重視した定性的なマーケティングや産学連携も進んでいる』と、それぞれの大学の特徴を解説してくださいました。そして、日本でマーケティングを勉強した韓国人が少ないので希少価値もあるかも。日本のマーケティングもいい勉強になるのではないかとアドバイスを受けたのです。」

それなら、もともと興味を持っていたこともあり、日本に行ってみようと思ったのです」

難関の一橋大学合格は 人生最高の喜び

1987年、初めて来日し日本語学校に入学して1年間学ぶ。ジョン氏は、週末にはお菓子を携えて公園に行き、お年寄りに話し相手になってもらうことで日本語を勉強しようと考えた。

「皆さん、喜んで話し相手になってくれました。おかげで日本語学校の先生から『ずいぶん古い言葉を知っているね』と驚かれました(笑)」

日本語学校で勉強する傍ら、大学院の受験準備も進める。

「当初は韓国でも有名な東京大学が早稲田大学、慶應義塾大学への進学を考えていました。当時韓国では、今とは違い一橋大学はあまり知られていなかったのです。ところが、早稲田大学に通っていた先輩留学生たちから『一橋

서

서울 特集

Ties and bonds





一橋大学大学院生時代、大学院生寮の玄関前で。



大学の商学研究科は、ここ4〜5年間私費留学生は誰も合格できなかった。国費留学生がやると年に1〜2名」といった話を聞かされたのです。そこまで難しいなら、逆にチャレンジしてやろうと思いました(笑)

1987年10月に目標の一つであった某私大には合格することができた。翌年1月に行われた一橋大学の留学生特別選考は、余裕を持って受験することができたはずであった。

「ところが、入試の日に寝坊してしまつたのです。しかも、当時住んでいたのは高田馬場で、国立からかなり離れていることと、東京の地理に不慣れなこ

がかかったのか?」と聞かれました。緊張していたのでよくわからなかったのですが、私の面接はほかの人の2倍ぐらいの時間がかかっていたようです。それを知って、『自分に関心を持ってもらった証拠』と合格を予感しました

予感の中。その年度の、商学研究科の留学生の合格者はたったの4人。そのうちの1人がジョン氏だった。中国人と韓国人が2人ずつ、国費と私費が2人ずつという内訳であった。

「とても嬉しかったですね。それまでの人生で、最高の喜びだったと思います」

多趣味のジョン氏は、大学に入学したら、映画のほかに、ロッククライミ

ともあって焦りました。すでに他の大学に合格していることもあり、このような状態で受験しても合格するはずがない、やめたほうがいい、とも考えました。しかし、それでは大学に失礼になると思い直し、ネクタイも締めず、家を飛び出したのです。試験会場にはギリギリに到着しました

自由で軽快、そして個性を尊重する雰囲気

焦りを抑えて筆記試験を終えた後、面接を受けたジョン氏はなぜか好感触を得た。

「面接が終わって部屋を出ると、順番待ちの学生から『なぜそんなに時間がかかったのか?』と聞かれました。緊張していたのでよくわからなかったのですが、私の面接はほかの人の2倍ぐらいの時間がかかっていたようです。それを知って、『自分に関心を持ってもらった証拠』と合格を予感しました

予感の中。その年度の、商学研究科の留学生の合格者はたったの4人。そのうちの1人がジョン氏だった。中国人と韓国人が2人ずつ、国費と私費が2人ずつという内訳であった。

「とても嬉しかったですね。それまでの人生で、最高の喜びだったと思います」

多趣味のジョン氏は、大学に入学したら、映画のほかに、ロッククライミング、オーケストラや合唱団での音楽活動など、学業だけでなく趣味も楽しむと決めていた。

「将来はなんとなく学者になることも考えていましたが、修士課程で学ぶうちに考え方も変わるだろう、博士課程に進むかどうかはそのときになって考えようと思いました」

大学院での勉強は、もっぱらマーケティングに関する英語の文献に当たることだった。

「マーケティングの基本を学ぶことができましたが、それ以上に学べたのは、先生方の素晴らしい人間性です」

田内幸一教授(故人)は、「普通の日本人というより、真のコスモポリタンだった」と回想する。

「先生のゼミは、自由に活動できる雰囲気でした。入学した年の2学期からは、サブゼミの運営も私に一任してくれました」

サブゼミでは、後輩の日本人学生にも運営を手伝ってもらった。ともに学び、ゼミ終了後はよく一緒に食事をした。

「そのコミュニケーションで日本語がととても上達しました。そういう自由な環境をつくる田内先生のスタイルに大きな影響を受けましたね」

野中郁次郎教授(現・名誉教授)のゼミは、毎週土曜日の朝8時から12時ま

で行われた。

「12時を過ぎても、議論が続けばいつも延長の連続。おかげで土曜日は友人との約束が入れられませんでした(笑)。野中先生は、毎週土曜日の朝早くからテニスコートで1人壁打ちをしてからゼミに臨んでいらつしやいました。が、徹底して自己管理される姿が印象に残っています」

野中教授とは、次のようなエピソードがあった。「橋大学の修士課程を修了し韓国に帰国した後の1998年のある新聞社主催のセミナーに招聘されたことを知った。そこで、この機を利用して、エキスパートコンサルティング社が主催する韓国企業のCEOを対象とした月1回の定期的な無料セミナーの特別講師を野中教授に依頼しようと思いついたのだ。野中教授の「知識経営」は当時の韓国でも有名で、集客の勝算があった。

「私のことなど覚えておられるはずはないと思いつつ、いきなり電話でお願いしたところ、二つ返事で『行くー』と。『弟子の頼みを聞かないわけにはいかない』と嬉しいことを言ってくれました」

30人を予定したセミナーに、なんと120人が参加。終了後、無料セミナーだったこともあって、ジョン氏が車代



ソウル特集

서울 Ties and bonds



を渡そうとしたところ、きっぱり断られたという。

「先生は『何を言うんだ。無料セミナーでお金などもらえない』と。新聞社のセミナーのついでという気安さもあったとは思いますが、私のような一介の卒業生からの電話一本の依頼に快く応じてくださり、感激しましたね。人として尊敬しています」

竹内弘高教授(現・名誉教授)は、年に1回、東京・青山の自宅に招いてくれたという。

「先生お手製のカレーライスをふるまってくれました。先生のオープンマインドは大変勉強になりましたね」

そのほか、伊丹敬之教授(現・名誉教授)、榊原清則教授(現・法政大学教授)、金子郁容教授(現・慶應義塾大学教授)ら、個性的な教授陣の人間味には、大いに刺激を受けたという。

「橋大学は国立大学なのに、自由で軽快、そして個性を尊重する雰囲気があふれていたと思います」

日韓の懸け橋役となることを願う

エキスパートコンサルティング社は、企業の新入社員から役員クラスまでの人材教育およびコンサルティングを手がけている。日本の有力な人材教育企

業教社とも提携し、教育研修プログラムの提供やサービス協力を受けている。

「年に1〜2回、日本に行き、これらの提携先企業を訪問しています。提携先企業のおかげで、当社は韓国ナンバーワンが存在にまで成長できたと感謝しています」

そしてジョン氏は、学生時代、そして卒業後読んだ田内教授はもちろん、野中教授や伊丹教授らの著書を今でも座右に置き、仕事の折に触れて目を通しているという。

「指導教員であった田内先生のマーケティングの著書は今も大いに役に立っています。マーケティングに対する私の原点ですからね。また、伊丹先生の経営戦略論や野中先生の知識経営論などは、研修プログラムにそのまま取り入れて活かしています」

インタビュアの最後に、ジョン氏は一つのエピソードを披露してくれた。国分寺に下宿していた頃、大家のご主人から食事に招かれたときに「話がある」と切り出された。

「家賃の値上げかと思つて緊張していたら、いきなり『お詫びしたいことがある』と言うのです」

そのご主人の父親は、昔、朝鮮半島で警察官を務めていたそうだ。「事実はお察しませんが、父は悪いこともしたかもしれない。だから、韓国人のあなたにお詫びしたい。私は日本人の代表でもないけれど、あなたも韓国人の代表でもないけれど、あなたも韓国人の代表でもない。素直に伝えたい」と。

「事実不明なうえ、私が謝ってもらう立場でもない話ですが、日本人の韓国人に対するこうした配慮に接して、感動しました」

以来、セミナーなどの機会があるたびにこのエピソードを持ち出して「政治的にはまだ複雑な問題があるが、普通の日本人には真意がある。一面だけで判断しないでほしい」と訴えているという。

「私1人でも、日韓の懸け橋役になればと願っています」とジョン氏は結んだ。



Chung, Chongsik
EXPERT CONSULTING
Vice President

ジョン・ジョンシク (丁鍾植)

株式会社エキスパートコンサルティング副社長。1987年、弘益大学校経営大学院経営学専攻卒業後、来日し日本語学校に入学。1988年、一橋大学大学院商学研究科修士課程入学。1990年、同修了後、韓国系企業に就職し東京支社のマーケティング部門に5年間勤務。その後、1995年に帰国し株式会社エキスパートコンサルティングの創業メンバーとして同社設立に参画し現在に至る。2001年に弘益大学校大学院経営学科博士課程に入学、2004年に博士号をとる。

一橋で身につけた経済学者としての姿勢や考え方と
広い視野を活かして韓国国家行政に貢献

韓国租税研究院
研究委員

ウォン・チョンハク氏
(元鍾鶴)

大学院経済学研究科修士課程

Weon, Jonghak

Korea Institute of Public Finance
Research Group for Government Expenditure
Fellow

「日本語でも勉強してみるか」が
日本とのかかわりの始まり

韓国租税研究院で主として政府支出
の調査、つまり「事業仕分け」に従事
しているウォン・チョンハク氏。19
93年から一橋大学大学院修士および
博士課程で労働経済を専攻し、200



2年に博士号を取得した。

ウォン氏は、韓国では延世大校経済学部で学んでいた。1年次の冬休み、暇つぶしに「日本語でも勉強してみるか」と思い立ったことが、日本とのかわりの始まりとなった。1985年当時の日本はバブル経済が始まっていた時期で、日本経済の強さが国際的に響き渡っていた頃。

「日本経済に関心を持ち、本は読んでいましたが日本語は話せなかったのです、そのときまたまた暇だったことから勉強を始めてみたのです」

その後、延世大大学院経済学科修士課程に進み、日本の労使協議を研究し修士論文を執筆。その後1990年から1年半、兵役に就く。その間に、「除隊したら日本の労働市場を本格的に研究しよう」と日本への留学を考え始めた。その頃には、日本語能力検定試験で1級に合格するなど、日本語は不自由なく使えるようになっていた。

1992年2月に除隊し、7月には東京の日本語学校に入学する。

「日本語学校で学ぶ必要はなかったのですが、本格的な留学生活に入る前に日本を下見しておこうと。日本についての情報収集を兼ねて、日本語を再度学んでおこうと考えたのです」

ウォン氏は当初、東京大学大学院への入学を志望していた。しかし、文部省(当時)の国費留学生にしか門戸は開放されていなかった。その試験を受けておらず資格がなかったことから、あえなく

断念。次善の策として、経済学を学ぶ学生として韓国にいた頃からよく知っていた一橋大学や、延世大校の姉妹校である慶應義塾大学などへの入学を考え、情報収集し見学にも行った。

「国立駅に降り立ってキャンパスに行き、『いい雰囲気だしレベルも高い。ここで学びたい』と考えました」しかし、ウォン氏はいったん、帰国することにする。



「10月に一橋大学の入学試験があったのですが、除隊直後で受験勉強が不足していると自覚し、翌年4月の入試に挑戦しようと考えたのです」

小野旭経済学部教授との運命的な出会い

ところが、ウォン氏に運命的な出会いが訪れる。たまたま、日本語学校の

先生の夫が一橋大学の出身者であり、小野旭経済学部教授・経済学部長(当時。1997年に退官し名誉教授就任。2010年没)の友人だったのだ。

「日本語学校の先生が、ある席で小野先生と私のことを引き合わせてくれたのです。すると、小野先生が『2月に留学生のための入試があるから受験してみないか』と勧めてくれたのです。小野先生の業績については、私の専門である労働経済の権威として延世大校当時からよく存じ上げていました。何という偶然だと、この運命に感謝しましたね」

そして、試験に備えた勉強を短期集中でこなし、2月に短期滞在ビザで来日し受験。見事合格した。

靴が2つと現金20万円だけ持って、入学のために来日。

「出迎えてくれた友人に、『たったこれだけ?』と驚かれました(笑)」

それでも、一橋大学での学生生活に不自由はなかった。

「如水会や育英会などの奨学金がとても充実していました。入学してみてもますますいい大学だと思えましたね(笑)。ほかの大学に入学した留学生仲間が皆アルバイトに精を出していましたが、私はアルバイトをする気にはなれず、する必要もありませんでした。お金が足りなければ、少し我慢すればいいだけのことでした」

当時、ウォン氏は私費留



ソウル特集

서울 Ties and bonds



学生であったが、その場合1年ごとにビザを延長する必要があった。延長申請では面接があり、「何の目的で日本にきているのか?金は持っているのか?」など厳しく問い質されたという。

「それが煩わしかったこともあり、次の年に文部省の国費留学生の試験を受けることにしたのです。競争率は非常に高いでしょうが、ダメでもともとだと。面接官から『何のために奨学金が必要なのか?』と聞かれたので、『おかしなことを聞かないでください。勉強のために決まっていますじゃないですか』と強気に返してしまいました。それがよかったですでしょうか、合格したのです(笑)」

国費留学生になれば、まとまった奨学金を得られるうえにビザの延長も簡単な手続きで済む。「とてもありがたいと感じました」とウォン氏は振り返る。博士課程1年のとき、小野教授は退官しその後を中馬宏之教授が引き継ぐ。東京都立大学から一橋大学に転じていた中馬教授から、ウォン氏は博士課程修了後、都立大学の助手としての仕事を紹介された。1999年から2年間、助手として働きながら学位論文を執筆。2001年論文を提出、韓国に帰国後の2002年に博士号を取得した。

「日本に行ってから博士号を取得するまで、順風満帆だったと思います。一橋大学では著名な先生方や優秀な学生仲間が生まれ、経済的にも支援を受けることができ、自分に合う素晴らしい

い環境に恵まれたことがその最大の要因でしたね」

省庁の「成果管理」への理論武装が大きな役割

ウォン氏は、日本に残ってそのまま研究生生活を続けることも考えたという。

「学位論文が審査中で、自分の実績の少なさが気になっていたので。もう1本、論文の実績があれば日本に残っていたかもしれません」

東京大学に留学しひと足先に帰国していた先輩から「韓国に戻れば仕事は何とかなる。日本に永住するつもりがないのならば帰国したほうがいい」とアドバイスされ、帰国を決めた。

帰国後、母校の延世大学の東西問題研究所に就職する。学部時代の先生が所長を務めており、「ここで仕事をしつつ本格的な就職先を見つけたらどうか？」と誘ってくれたのだ。そして、講師の仕事などをつつ就職先を探していたところ、韓国租税研究院に何人かの一橋大学のOB・OGがいて、「日本の専門家が必要だからこないか？」と誘われた。

「労働経済が専門の私は租税とは何の関係もないと思いましたが、行ってみると租税や財政だけでなく、多方面の専門家が集まっていることがわかりま

した。そこで、お誘いに応じてここで働くことに決めたのです」

韓国租税研究院は、国税や財政などにかかわる諸案件を学術的に調査・分析し、行政に資するシンクタンクである。民間団体であるが、職員は公務員



の規定が適用されるという複雑な身分だ。ここでウォン氏は、租税に5〜6年間、財政に4〜5年間かかわる。日本研究の専門家として、日本の租税制度や財政の状況、政策などを調査・分析し報告する役割を担った。そして現在は、韓国の「事業仕分け」である「成果管理」（財政事業自律評価）に携わっている。韓国では、日本よりひと足早い2005年頃より成果管理が盛んに行われるようになった。これは、各省庁に所定のチェックポイントにしたがった予算の管理や執行状況に関する報告書を提出させ、採点評価するというもの。1省庁につき、全事業の3分の

1ずつを順番に毎年提出させる。1事業当たり3年ごとに報告する形だ。報告書は1事業につき50ページにも及び、年間500事業ほどを3か月で審査するという膨大な作業だ。

「60点以下だと予算がカットされます。そうすると、100点と違っていた省庁側も黙ってはいません（笑）。ですから、当然のように念入りに調べ、なぜそれが60点以下なのかを明確に指摘できるような理論武装する必要があります。この作業は財務省と一緒にありますが、その理論武装が我々の大きな役割です」

ウォン氏は、このチェックポイントの策定から審査までに携わっている。「成果管理」終了後は、本制度の改善点の検討や諸外国の同様の制度の研究などを行う。

「日本の『事業仕分け』も私が調査しました。最近は下火になってしまったようですね」

一橋大学時代の6年間に身につけたこと

ウォン氏にとって、一橋大学時代の6年間に身につけたことで現在の仕事に役立っていることとは何であろうか。

「大きく三つあると思います。まずは経済学者として、物事を経済学的な視点で見ると姿勢や考え方を叩き込まれたことです。次に、経済学だけでなく、社会学や歴史学、法学などを学ぶ学生仲間と交流できたことで、視野が広がったことです。社会全体を見る観点を養うことができましたね。そしてもう一つは、日本語力を深められたことです」

現在でも、日本語学校や一橋大学時代の先生や学生仲間と連絡を取り続けているというウォン氏。

「日本の様子が伝わってくると、日本が懐かしくなりますね（笑）」と結んだ。



Weon, Jonghak

Korea Institute of Public Finance
Research Group for
Government Expenditure
Fellow

ウォン・ジョンハク（元鍾鶴）

経済博士。韓国租税研究院財政研究本部フェロー。1990年、延世大学大学院経済学科修士課程修了後、来日し日本語学校に入学。1993年、一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学。1999年、同博士課程修了。1999年、東京都立大学経済学部助手に着任。2002年、博士号取得。同年、延世大学校東西問題研究所研究員着任。同年、韓国租税研究院研究委員に着任。現在に至る。

서

을 서울特集

Ties and bonds





서울特集

을



Ties and bonds

サムスンディスプレイ株式会社
海外営業チームマネージャー

キム・スンキョム氏
(金昇謙)

大学院社会学研究科修士課程

Kim, Seungkyum

SAMSUNG DISPLAY

LCD Sales & Marketing Team

Manager

新聞配達をしながら通学。
労働現場に入り込んでの実証研究。
そして今は海外営業マンとして世界を飛び回る日々。



**日本のアイドルへの憧れが
日本とのつながりの契機に**

2万6000人の従業員（グローバル基準3万9000人）を擁し、2012年度の売上高約30兆ウォン（約2兆1000億円）を見込む、世界最大のディスプレイメーカーであるサムスンディスプレイ株式会社。同社で海外営業チームのマネージャーを務めるキム・スンキョム氏は、2002年から3年間、一橋大学大学院社会学研究科修士課程で学んだ。

1973年生まれのキム氏がそもそも日本に関心を持ったのは、高校生の頃。歌手・女優の小泉今日子さんに憧れたことを機に、日本文化の繊細さに惹かれたという。

「高校の成績はあまりいいほうではありませんでしたが（笑）、大学は漢陽大学の日本語日本文学科に進学

しました」

大学2年になった年、2年間兵役に服す。「軍隊生活で、これまでの自分のままで将来は大丈夫か、と内省し危機感を持った」と述懐する。除隊後、大学に戻ったもののどこか違和感を覚えた。そしてアメリカへの留学を思い立ち、サンディエゴ州立大学を受験し合格する。しかし、入学を果たすことはできなかった。父親が経営する会社が不渡りを出して倒産してしまったからだ。

「父は韓国の大手商社で活躍した後、独立しました。一時は車を3台持ち豪勢な暮らしができたほど成功していたのですが、調子が悪くなってからも家族に弱みを見せまいと無理をして豪勢な暮らしを続けていたのです。それがたたってしまいました。当時はそんな父を恨むこともありましたが、今では父がそうしたことは理解できるようになりました」

海外留学をあきらめることができな

かったキム氏は、いろいろと調べて日本には「新聞奨学生制度」があることを知る。そして1996年に来日し、住み込みで新聞配達をしながら日本語学校に通った。

「深夜2時に起きて朝6時まで朝刊を配達し、その後学校に行き、午後3時から夕刊を配り、その後また数時間勉強する、といった生活を送りました。結構辛い思いをしましたね。私より優秀な留学生仲間も、続かず帰国してしまいました」

住み込んだ新聞販売店の部屋には勉強机がなく、押入れの棚板を机代わり

に使って勉強した。「かえって集中できた」と笑う。

立教大学経済学部へ合格し、入学後も2年間は新聞奨学生を継続。しかし、学業との両立は難しく、3年次からは通訳や教授の手伝いなどのアルバイトや奨学金で、学費や生活資金をまかなった。

「人はなぜ働くのか」に興味を抱く

そんなキム氏が一橋大学大学院に入学したのは、立教大学の先生から勧め

られたことがきっかけだった。

「私が興味を持っていたのは、人はなぜ働くのか、ということ。よく外国人労働者が汗水たらして稼いだ金を本国に送金していますが、なぜそこまでして稼ごうとするのか疑問と興味を持ったのです。しかし、その答えは経済学では得られませんでした。すると、大学の先生が『そういう問題は一橋大学の依光正哲先生（現在は退官）に教わるとうい』とアドバイスをくれたのです。そこで、依光先生を訪ねてお話を聞き、ぜひ先生の下で研究したいと思ったのです」

依光教授はキム氏に、現場に入り込んで調査研究を行う「実証研究」という手法を勧めた。そして、キム氏は東海地区の日系外国人専門の派遣会社を紹介して、系外国人の就労現場に送ったのである。キム氏は建材や複写機のトナー、缶詰の工場といった単純作業の現場数か所に1か月ぐらいい入り込み、寮に住み込み寝食をともにしながら日系外国人労働者の行動や意識を調べた。そ

の手法は、キム氏の性格にも向いていたのである。

「彼らは朝から晩まで何を考え何をやるのか、どこで何を遊ぶのかといったことをずっと追跡しました。非常に興味深かったですね」

この研究は、依光教授の配慮により科研費テーマの一部として採択され、キム氏は論文執筆に没頭することができた。このテーマに足を踏み入れる人は少なく、完成した論文は移民法の研究者などに引用されることもしばしばだ。

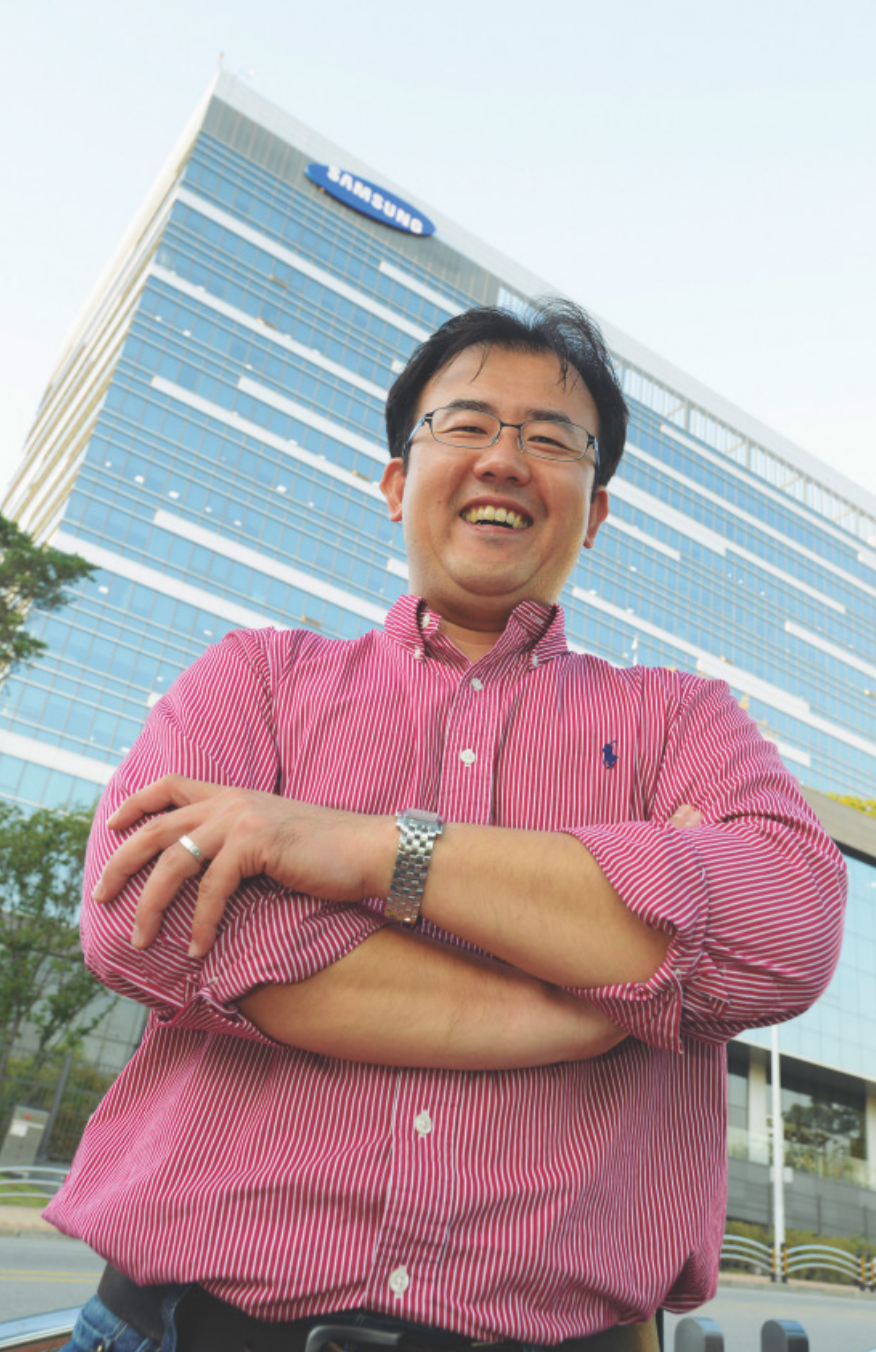
「引用されると感慨深いものがありますね。自分の手で掘り起こした実証的な研究論文であるため、説得力があると自負しています」

この研究生活で身につけた「仮説を立てて材料を掘り起こし、分析して仮説を立証し成果物に仕上げる」というプロセスは、どの世界でも応用できるものだ。また、一つのテーマを執念深く追究する姿勢もしかり。

「今の仕事でも大いに役に立っています」

4年間で20万マイル 空港職員に顔馴染みも

キム氏は、修士課程を修了したら博士課程に進みそのまま研究生活に入ることとも考えたが、ビジネスマンとして世界を飛び回ることに惹かれた。父親の血がそうさせたのかもしれないし、世界各国からの留学生と交わった



ことが刺激となったのかもしれない。「いずれ韓国に帰るなら、日本で就職しておいたほうがいいかもしれない」と考え直し、三洋電機株式会社就職する。そして2007年までの2年間、携帯電話やPHSなどの基地局で使われる製品を輸出する海外営業に従事。その後、帰国しLGエレクトロニクス株式会社社に転職した。帰国を決めた直接のきっかけは、在日10年を迎えて永住ビザを取得する権利を得たこと。

「このまま日本に永住するかそれとも帰国するか、しばらく悩みましたが、お金もある程度貯まっていたし、本国で結婚したいという気持ちが強まっていたのです。そこで韓国の就職先を探したところ、LGの募集を知り、応募したら即採用となりました。1か月弱で日本の暮らしを片付けてバタバタと帰国しました(笑)」

キム氏が即採用となった決め手は、日本語や英語の能力と海外営業経験。アップル社やソニーといった取引先の営業に適任と判断された。入社後2011年までの4年間で20万マイル(32万キロメートル)のフライトを記録し、文字どおり世界を飛び回ってLGブランドの液晶ディスプレイの営業にまい進した。「羽田空港の職員に顔馴染みできました」と笑う。

そして、2011年3月、周囲の人

の勧めで、同じく海外営業の責任者を募集していたサムスン電子LCD事業部に転職。現在は、家電メーカーなど数社の日本企業を担当し、年3〜4回来日するなど日本とかかわり続けている(2012年4月サムスン電子LCD事業部はサムスンディスプレイとして組織変更)。

日本における10年間で

最高の3年間

頓挫しかけた海外留学をあきらめることなく、新聞配達を続け苦学しながら大学院まで進む。そこで単純作業の労働現場に入り込んでの実証研究に身を投じた後は、営業マンとして世界を飛び回る日々を送るというエネルギーッシュなキム氏。そのバイタリティーの源は、どこにあるのだろうか。

「韓国人には、比較的エネルギーッシュな国民性があると思います。そのうえ私は日本で苦勞をし、負けずにやり通したという自信があります。また、一橋大学でカナダやチェコなどからの留学生仲間と交流し、視野が広がったという自覚もあります。客観的に自分を見つめることができたのが大きかったです(うね)」

そしてもう一つ。「父親の挫折がバネになったことも根底にはあるかもしれ

れません」と打ち明ける。

「新聞配達と学業の両立は、肉体的にも大変でした。勉強中は眠気との闘いもあります。また、外には遊びの誘惑も多かったですね。『ここで負けたら父親と同じになってしまう』と自分を鼓舞しました。もともと、今では父親の陰の苦勞を理解でき、感謝もできるようにになりましたが」

キム氏の今の悩みは、今後のキャリア構築について。韓国では55歳で役職定年を迎える制度の企業が多く、サムスンディスプレイも例外ではない。

「サムスンで役員に昇進できるのは、1000人に1人といわれています。現在40歳で、このまま社内でき残りを目指すか、それとも今のうちに独立して起業するか。今はまだそのときではないと思っただけです。チャンスはいつでも独立できるような準備はしています。世界を回っていると、事業アイデアがいろいろ湧いてく

るのです」

そんなキム氏は、一橋大学での3年間をどのようにとらえているのだろうか。

「日本にいた10年間で、最高の3年間でした。特に、図書館前のベンチで昼寝をするのが大好きでした(笑)」
図書館には社会学の統計資料が山のようにあり、それを並べて俯瞰すると「見えてくるものがあった」と当時を懐かしむ。

キャンパスの美しさ。国際色豊かで、優秀な学生たち。

「一橋大学には、交流を深めつつ成長できるチャンスがあふれていたように思います」

韓国在住の一橋大学OB・OG会に所属、世代間交流にも一役買いたいキム氏は、次のように結んだ。

「下っ端ですが、コミュニケーションをより円滑にし、よい関係づくりには汗をかきたいと思っています」



ソウル特集

서울 Ties and bonds



Kim, Seungkyum

SAMSUNG DISPLAY
LCD Sales & Marketing Team
Manager

キム・スンギョム (金昇謙)

サムスンディスプレイ株式会社LCD営業・マーケティングチーム マネージャー。1996年、漢陽大学校日本語日本文学科を休学して来日し、「新聞奨学生制度」を利用し働きながら日本語学校で学ぶ。1998年、立教大学経済学部経営学科入学。2002年、卒業後に一橋大学大学院社会学研究科修士課程に入学。2005年、同修了後、三洋電機に就職。2007年、LGエレクトロニクスに転職。2011年より現職。

エコノミストが指摘する わが国最低賃金の論点

社会学研究科教授 **林 大樹**

都道府県別に国が定め、使用者が守らなければならない最低賃金は、労働者のセーフティ・ネットとして重要である。近年、賃金の低廉な非正規従業員が増大し、また地域別最低賃金の額が生活保護水準を下回る都道府県があることなどから、最低賃金の行方への注目度が上昇していると感じる。

筆者は現在、埼玉地方最低賃金審議会の公益委員として、地域別最低賃金と特定（産業別）最低賃金の改正決定の調査審議に携わっている。その審議において、労働者側と使用者側の議論に接する機会が多いが、労使双方の提出する論点はパターン化し、毎年同じような議論になることが少なくない。今回、インターネット上で最低賃金を巡って多くのエコノミストが多様な意見を公表していることを知った。わが国の最低賃金を巡る議論に関し前提となる若干の基礎知識を紹介した後、エコノミストの指摘を参考に論点整理を行ってみたい。

最低賃金の目的

最低賃金法は第一条で同法の目的を次のように述べている。「この法律は、賃金の低廉な労働者について、賃金の最低限を保障することにより、労働条件の改善を図り、もって、労働者の生活の安定、労働力の質的向上及び事業の公正な競争の確保に資することともに、国民経済の健全な発展に寄与すること

を目的とする。」つまり、最低賃金を公定する目的には、①労働者の生活の安定、②労働力の質的向上、③事業の公正な競争、及び④国民経済の健全な発展という四つの側面があるということである。

最低賃金と生活保護施策との整合性

2007年に改正され、2008年7月1日に施行された最低賃金法は、その第九条第2項で地域別最低賃金の決定に関する3原則、すなわち、①労働者の生計費、②労働者の賃金、③通常の事業の賃金支払い能力を示し、さらに第3項で「前項の労働者の生計費を考慮するに当たっては、労働者が健康で文化的な最低限度の生活を営むことができるよう、生活保護に係る施策との整合性に配慮するものとする。」と定めている。

3原則の中で①労働者の生計費だけが生活保護との整合性という具体的な基準が明確にされたのであるが、この点について労働調査会出版局編『改訂3版 最低賃金法の詳解』は「法律上、特に生活保護との整合性だけが明確にされた点にかんがみれば、これは、最低賃金は生活保護を下回らない水準となるよう配慮すべきであるという趣旨だと解される。」と述べている。

ただし、最低賃金と生活保護を比較して、いかなる場合にも最低賃金が生活保護を下回らないように

最低賃金を決定することが実際には困難あるいは適当でない場合も想定される。前掲『最低賃金法の詳解』は次のように述べる。「具体的な整合性のありかたについては、最低賃金審議会で審議されるべき事項であるが、その結果、一定の仮定において算定された生活保護の水準を最低賃金額が下回っていないければ、また、仮にある年度で決定された最低賃金の水準が、一定の仮定において算定された生活保護の水準を下回るものであったとしても、最低賃金審議会が、この乖離を認識した上で、生活保護以外の要素も総合的に勘案して当該年度の最低賃金額を定め、更にこれを解消するための中長期的な道筋を示しているのであれば、本条第二項および第三項との関係では、特段の問題は生じないものと考えられる。」

生活保護と最低賃金の比較

中央最低賃金審議会は地域別最低賃金額改定の日安を提示するために、全ての都道府県における生活保護水準と最低賃金の比較を行っている。その手順は複雑だが、生活保護水準については若年（12〜19歳）単身世帯の生活扶助基準の都道府県内人口加重平均に住宅扶助の実績値を加えて算出している。図表は都道府県別に、最新データによる時間当たりの生活保護水準と2012年度に改定された地域別最低賃金（時間額）を示している。2012年度の改定後においても、東京、神奈川、北海道などでは最低賃金が生活保護水準を下回っていることが示される。

雇用戦略対話（2010年6月3日）における最低賃金引き上げの合意

雇用戦略対話とは、緊急雇用対策（2009年10月23日緊急雇用対策本部決定）に基づき、雇用戦略に関する重要事項について、内閣総理大臣の主導の下で、労働界・産業界を始め各界のリーダーや有識者が参加し、意見交換と合意形成を図ることを目的

として設置された会議体である。2010年6月3日に開催された第4回雇用戦略対話において、最低賃金政策に関する政労使の重要な合意がなされた。それは「新成長戦略で掲げている『2020年度までの平均で、名目3%、実質2%を上回る成長』を前提として、『2020年までの目標』の設定について、目標案としては、『できる限り早期に全国最低800円を確保し、景気状況に配慮しつつ、全国平均1000円を目指すこと』が考えられる。」とするものであった。この合意は、現在の最低賃金審議会の審議に強い影響を与えている。

エコノミストの指摘する論点

作家村上龍氏が編集長として発行するJMM（ジャパン・メール・メディア）は、村上氏が投げかける質問に金融経済のスペシャリストたちが回答するメールマガジンである。2012年7月31日には、「今週、今年度の最低賃金引き上げの目安額が決まるようです。11都道府県で生活保護給付水準を下回るといって『最低賃金』についてどう考えればいいのか。という質問に対し7人のエコノミストが回答した。その要旨を紹介する。

まず、最低賃金は労働者の生計を支える最低限の賃金であるという点に絞り込んだ意見から紹介する。
◇中島精也氏（伊藤忠商事チーフエコノミスト）の回答

「中央最低賃金審議会が目安額を算定する根拠は「次の3つの要素、労働者の生計費、類似の賃金、そして事業主の賃金支払能力からなっている」。成長力底上げ戦略推進円卓会議のレポート作成に関わったが、そこでの議論で「最も疑問に思っていたことは、最低賃金を決めるのに、事業主の賃金支払能力が入っていること」であった。そもそも最低賃金は労働者の生計を支えるに足る下限の賃金であり、それ以下の賃金は許されるべきではない。最低

賃金は労働者の生計費のみで絶対水準を決めるべきである。

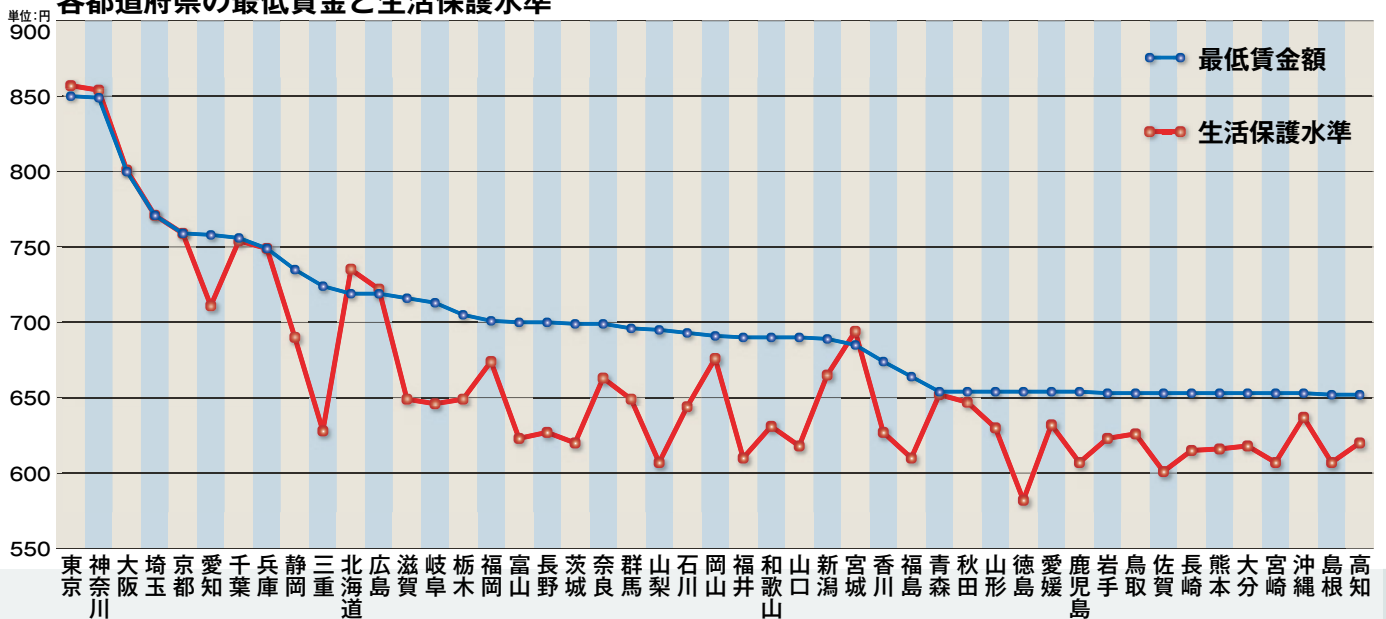
メディアの報道における文脈に注文を付け、改革に向けた議論の活発化を促す次のような主張もある。
◇北野一（JPMorgan証券日本株ストラテジスト）の回答

「生活保護の支給額と最低賃金の関係については、まず、次のように整理すべきである。(1)雇用形態の変化と不況の長期化により、病気等ではなく経済的な理由から、生活保護を受給する世帯が増加した。(2)生活保護には、もともと就労支援の発想はない。(3)就労インセンティブをつけるために、すなわち最低賃金が生活保護の給付水準を上回るように、最低賃金の引き上げが行われてきた。(4)こうした最低賃金の引き上げが、利潤として雇用機会の減少をもたらしている危険性がある。」

ところが、メディアは次のように報道している。
 「(A)最低賃金が生活保護の給付水準を下回る『逆転』地域が11都道府県になった。(B)生活保護の給付水準が最低賃金を上回ると、労働者の働く意欲をそぎかねないため、政府は逆転の早期解消を目指す。(C)経営者側は、最低賃金の上昇に反発している。」
 (A)から(C)という文脈の記事を読んだ読者がイメージできる選択肢は限定されたものになる。最低賃金が生活保護よりも低いのは不自然なので、とにかく早く最低賃金を引き上げろ、ということになる。それに(1)から(4)という文脈で考えるなら、選択肢は一気に増える。「改革のポイントは、非正規労働者に対するセイフティ・ネットの構築であり、雇用形態の見直しであり、もっと言うと、完全雇用を目指したマクロ経済政策ということになる。」

若年層の雇用への影響と中小企業の雇用者の負担への対策に触れ、生活保護の給付水準の見直し、とりわけ医療扶助の問題を指摘する次の意見もある。

各都道府県の最低賃金と生活保護水準



注1) 最低賃金額は2012年度の地域別最低賃金の金額である。
 注2) 生活保護水準は最新データによる若年(12~19歳)単身世帯の生活保護実績(月額)を時間額に換算したものである。
 注3) データは中央最低賃金審議会および埼玉地方最低賃金審議会の資料から筆者が抽出した。

◇金井伸郎氏（外資系投信投資顧問会社 企画・営業部門勤務）の回答

「最低賃金の引き上げは、所得格差是正、特に貧困層対策としては一定の有効性を持つ」一方で、「若年層の雇用に与える影響が大きい」。「従って、最低賃金の引き上げに当たっては、若年層の雇用促進策などの対策を同時に手当てすることも必要となる」。

「雇用者側への影響としては、中小企業ほど最低賃金の引き上げの負担が相対的に大きくなる」。「これに対しては、中小企業が負担する賃金上昇分の価格転嫁を容認するなど、下請適正取引の推進が重要」である。

「生活保護給付水準と最低賃金水準における両制度間の整合性の問題については、生活保護の給付水準の柔軟な見直しが必要」である。

「さらに生活保護制度の維持のためには、モラル・ハザード対策が喫緊の課題」である。「具体的には医療扶助の問題」である。「今年度の保護費予算は3・7兆円となつてい」るが、「この半分が医療扶助費とされてい」る。「生活保護対象者には医療費を自己負担なしの全額扶助としていることによる受給者の過剰受診というモラル・ハザードの問題、そして医療提供者側での生活保護対象者への過剰処方や患者の困い込みなどのいわゆる『貧困ビジネス』の問題がある」。

最低賃金よりも手厚すぎる社会保障制度の見直しを主張する意見もある。

◇中空麻奈氏（BNPパリバ証券クレジット調査部長）の回答

「下手に働くより、生活保護をもらったほうが裕福になれるなら、働く気力は失われ」る。「労働意欲をそぎ取るようなこの措置が、果たして、有効な制度なのか」疑問である。

「生活保護水準が高すぎるのか、それとも、最低賃金制度の水準が低すぎるのか、と考えると」「や

はり、生活保護水準があまりにも手厚いということなのではない」か。

「社会保障制度が充実し過ぎたことによって、国家財政は破綻の危機にあると問題を設定し直す」と、日本の諸々の問題を比較的綺麗に整理することができ」る。「過剰な社会保障制度があることが、労働意欲を減退させ、ひいては労働市場に悪影響をもたらしている」。

「最低賃金が社会保障給付水準を下回っている現実には、社会保障制度にそろそろ見直しをしなければならぬ、という強いメッセージを発していると言えるのではない」か。

最低賃金制度の運用よりも、マクロな経済政策による経済成長を通じた問題解決を主張するのが、次の2人のエコノミストである。

◇津田栄氏（経済評論家）の回答

最低賃金と生活保護における逆転現象を解消するためには「経済を好転させ、デフレを解消して企業の収益が改善することが必要で」ある。「これまでの政府の対応を見てみると、硬直化した制度のもとで、小手先で問題を解決しようとしているだけで、根本的な問題であるデフレと経済低迷を解決して経済成長を図った上で生活権の保障を目指していく姿勢が見られないように思」う。

◇真壁昭夫氏（信州大学経済学部教授）の回答

「最低賃金と生活保護の逆転現象は、理屈から考えて合理性はない」ので、「最低賃金水準を引き上げて逆転現象を解消する必要がある」が、「地方の中小企業の経営者から、『最低賃金を引き上げると経営が成り立たない』という話をよく聞」く。経済専門家の中には「従業員に最低賃金を払えないような企業はなくなっても構わない」という議論があるが、そのロジックはやや乱暴だ。

「企業が強くなって、従業員に十分な給料を払うことができるようになれば、最低賃金を引き上げる

ことにもそれ程の問題は生じない。」「現在の民主党政権を見ていると、経済全体が稼ぎ出すパイを如何にして分配するかばかりに目が行っているように見え」る。「そうしたポイントも重要であることは否定し」ないが、それ以上に国は「企業を強くして経済全体が稼ぎ出すパイをより大きくすることを考えるべきだ」。

日本の企業社会の構造的な問題がある以上、最低賃金だけをいじっても意味がないという意見もある。

◇水牛健太郎氏（経済評論家）の回答

「生活保護の給付水準は憲法の定める『健康で文化的な最低限度の生活』を保証する額であるはずなので、最低賃金はそれを上回るのが当然」である。「ただ、最低賃金というものには、実はそれほど意味がないのではないか。」「生活保護の給付水準よりも最低賃金が上回るべきだとする主張の背景には、『働いて苦労しているのに』という感覚がある。」「要するに働くのは苦痛だから、その代償があるべきということだ」である。「働くのが楽しくて有意義なことならば、生活保護より給料が安くてもなお、働く方がいいはずで」ある。

「最低賃金にあまり意味がないかもしれないと思うもう一つの理由は、いろいろ抜け穴の手段もあるからで」ある。「日本の企業社会に構造的な問題がある以上、最低賃金『だけ』を上げたところで、どれほどの意味があるのかと思」う。

こうしたエコノミストの方々の意見は、いずれにも納得できる面がある。ただし、どれか一つの論点だけを取り上げて対策を講じても「もぐら叩き」のようになり、根本的な問題解決にはつながらないと思われる。労働者と企業の双方に配慮し、短期・中期・長期の各視点に立った雇用と産業の政策・戦略のパッケージが必要と思う。

移行経済下ロシアの貧困・不平等：効率から公正へ

経済研究所講師 武田友加

1 はじめに

ロシアが計画経済から市場経済への移行を開始してから20年の年月が経過した。ロシアにとって、この20年間の前半は移行不況、後半は経済成長の時期であった。石油価格の上昇という外的条件に助けられ、1999年から10年間ほどロシアは経済成長を享受した。しかし、市場経済への移行開始当初にロシアを襲った移行不況は、1930年

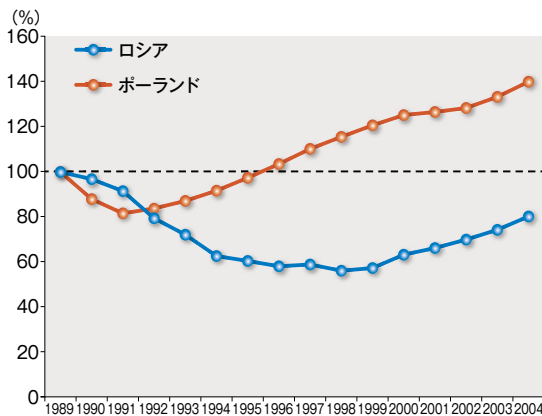


図1: ロシアとポーランドの実質GDPの推移 (1989~2004年)
注: 1989年を基準年 (1989年=100)。
出所: ロシアに関してはロシア連邦統計局のデータ、ポーランドに関しては世界銀行及びEBRDのデータより筆者作成。

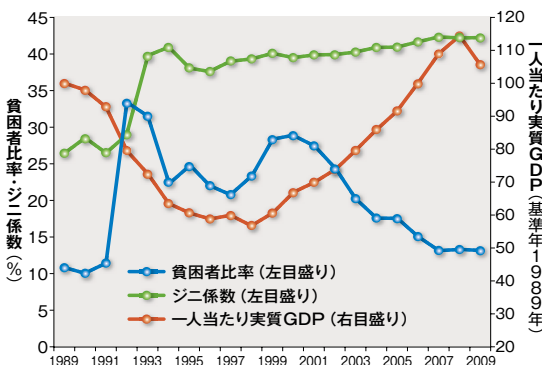


図2: ロシアの貧困者比率、ジニ係数、一人当たり実質GDPの推移 (1989~2009年)
注: 貧困者比率は、公式貧困線を下回る者の全人口に占める比率。ジニ係数は、ここでは、百分率で示してある。なお、ジニ係数のとり得る範囲は0% (完全平等) から100% (完全不平等) である。
出所: ロシア連邦統計局のデータより筆者作成。

代のアメリカやドイツにおける大恐慌と比較されるほどの厳しいものであり、また、他の移行諸国と比べて長きにわたるものであった。図1は、1989年から2004年までのロシアとポーランドの実質GDPの推移を比較したものである。ご覧の通り、1998年の約56%にまで大幅に落ち込んだ。その上、ポーランドの実質GDPが1995~1996年には1989年の水準にまで回復している

表1: ジニ係数の増減の国際比較

	期間	ジニ係数の変化分	最終年のジニ係数
ロシア	1988-2007	0.20	0.44
ルーマニア	1989-2007	0.09	0.32
カザフスタン	1988-2007	0.05	0.31
ペルー	1986-2007	0.05	0.51
メキシコ	1992-2008	0.01	0.52
ポーランド	1987-2005	-0.09	0.53
タイ	1988-2007	-0.12	0.32

注: ジニ係数は、0 (完全平等) から1 (完全不平等) の値をとる。
出所: 世界銀行のデータより筆者算出。

のに対し、ロシアの実質GDPは2004年の時点でも1989年の水準を下回っていた。このような移行不況の結果、他の移行諸国同様、ロシアでも貧困が急激に拡大し、それと同時に不平等も拡大していった。たとえば、世界銀行のエコノミストであるMilanovicの試算によれば、1日1人当たり4ドル (1993年購買力平価ベース) という貧困線を下回る生活水準にあった者の数は、ロシアに関しては、移行開始前の1987~1988年には220万人であったが、移行開始後の1993~1995年には6600万人へと大幅に増加している。また、図2は1989~2009年のロシアの貧困者比率、ジニ係数、一人当たり実質GDPを示したものであるが、ご覧のように、1989年に貧困者比率は11%であったが、移行を開始した1992年には33.5%にまで急上昇している。不平等度を表すジニ係数に関しては、移行開始前の1989年には26.5%であったが、1994年には40.9%となり、その後も高水準が維持され、さらに、経済成長の中でわずかに上昇を見せている。また、表1に示されているよ



うに、中所得国の中で、ロシアの不平等度は国際的にも高く、その上、この20年間でこれほど大きく不平等度が悪化した国はほとんどみられない。以上のように、移行経済下のロシアにおいて貧困・不平等が急激に拡大した。アネクドト的な形でこれらの問題について語られることはあっても、その実態が実証的に示されることは稀であった。そこで、以下、移行経済下ロシアの貧困・不平等の特徴について、実証研究に基づく知見も示しながら見ていくことにしたい。

2 浅い貧困と貧困に対する脆弱性

1990年代の移行不況期に貧困者比率が急激に上昇したが、大規模家計調査であるロシア長期モニタリング調査(RLMS・HSE)の個票データに基づき筆者の推計によれば、1994〜2000年のいずれの調査時にも貧困であった人々(恒常的貧困)は、人口全体のわずか7.7%であった。ただし、調査時に少なくとも一度は貧困に陥った

ことのある人々は人口全体の約70%にも達した。これは、多くのロシア国民の生活水準が貧困線近傍の水準であること、つまり、貧困線よりもわずかに低い生活水準(浅い貧困)である人が多いのと同時に、貧困線よりもわずかに高い生活水準(貧困に対して脆弱)にある人も多いことを示唆している。そのため、たとえていえば、貧困というバスの乗客が頻繁に入れ替わることになる。

上述のような、現時点では貧困線を上回っているが、不況等が生じた際に生活水準が貧困線を下回る可能性がある状態は、一般に、貧困に対する脆弱性と呼ばれる。このような状態を数値化する際、世界銀行では、貧困線の2倍、及び、貧困線の1.5倍をそれぞれ脆弱性最高基準線、脆弱性最低基準線とし、これらの基準線を下回る場合、貧困に対して脆弱であるとしている。図3は、1994〜2006年に生活水準が貧困線、脆弱性最低基準線、脆弱性最高基準線を下回った家計の全家計における比率を示したものである。図に示されているように、脆弱性基準線以下の生活水準にある家計は非常に多い。これが示唆するところは、ロシアでは経済成長によって貧困者比率が順調に減少してはいるが、貧困線よりもわずかに上回る程度の生活水準にある人々が依然として多いということ、また、ロシアでは中間層がなかなか形成されず、その層も薄いということである。

3 貧困者は誰か?

市場経済への移行開始当初、一般に、ロシアの貧困者の代表的な社会経済グループは年金生活者であると

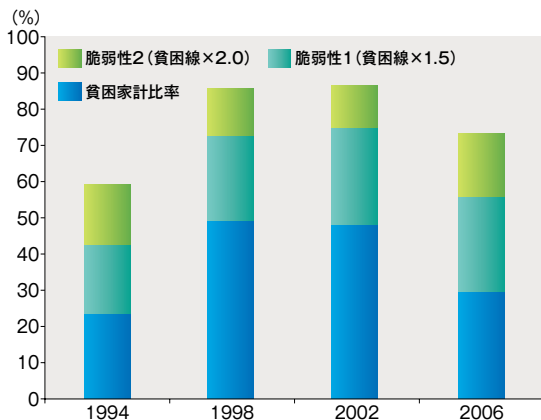


図3: ロシアにおける浅い貧困と貧困に対する脆弱性 (1994~2006年)

注: 脆弱性1は脆弱性最低基準、脆弱性2は脆弱性最高基準に基づき推計値。出所: ロシア長期モニタリング調査(RLMS)の個票データに基づき筆者作成。

考えられていた。しかし、これは誤りであり、実際には、雇用労働者がロシアの貧困者の代表的な社会経済グループであった。ロシア連邦統計局によれば、雇用労働者と働いていない年金生活者の貧困リスク(該当グループ内の貧困者比率)は、それぞれ、1997年には27.8%と21.5%、2000年には36.2%と30.1%であった。また、貧困者全体のうち雇用労働者が占める比率は約40%であったのに対し、働いていない年金生活者が占める比率は約10%であった。経済成長期の2000年代でも、基本的に、この傾向に変わりはないといえる。たとえば、2009年の貧困者全体のうち、就業者が占める比率は56.4%、働いていない年金生活者の占める比率は11.4%であった。このように、雇用労働者が貧困者の代表的な社会経済グループとなったのは、移行不況期に、年金生活者の年金はインデクセーション(物価スライド)された一方で、名目賃金は超過賃金税などインフレ抑制を目的とする所得政策のためにイン



デクセーションされず、それにより、実質賃金が大幅に低下したためであった。また、ロシアでは失業率が比較的低い水準で推移し雇用水準が維持されてはいたが、その一方で、雇用労働者は、時短労働、無給の強制休暇、賃金支払い遅延に直面することがあり得た。RLMS・HSEの個票データに基づく筆者の推計結果によれば、上述のようなロシアにおける働く貧困者とは、主たる職場が国有部門であり、また、企業側の経済的理由により無給の強制休暇の下におかれたり、賃金支払い遅延に見舞われたりしている人々であった。そして、特定の職種ではなく、あらゆる職種で働く貧困者がみられるようになった。

社会人口グループからみると、貧困リスクが高かったのは子どものいる家計であった。1997～2000年における、子どもが1～2人いる家計の貧困リスクは、ひとり親の場合は37.4～56.9%、両親の揃っている場合でも35.2～53.0%であった。この間、夫婦2人だけの家計の貧困リスクが11.0～25.4%であったことと対比すると、子どものいる家計の貧困リスクが極めて高いことがうかがえる。なお、経済成長期でもこの傾向に変わりはない。たとえば、ロシア国内の家計のう

子どものいる家計の比率は約35%であるのに対し、貧困家計全体に占める子どものいる家計の比率は、2009年には54.6%にまで達した。貧困者グループのもう一つの切り口として、都市と農村が挙げられる。ソ連時代の末期に当たる1985年に、都市・農村の貧困リスクは、それぞれ16.3%と27.6%であり、農村の貧困リスクが都市のそれを上回っていた。それが、移行初期の1990年代には都市の貧困リスクが農村と同程度になるという現象が生じた。たとえば、RLMS・HSEに基づく筆者の推計によれば、1995年の都市と農村の貧困リスクは、それぞれ、30.5%と29.8%であり、貧困家計全体に占める都市家計の比率は76.3%、農村家計の比率は23.7%であった。このように、1990年代のロシアの貧困は貧困の都市化によって特徴付けられるが、1997年頃から徐々に農村の貧困リスクが都市のそれを上回るようになり、2000年代には貧困の農村化が顕著になっていった。ロシア連邦統計局のデータによれば、2009年の全人口における農村人口比率は26.7%であったが、全貧困者に占める農村人口比率は41.9%に達した。移行不況によって、結果として縮まっていた都市・農村間格差が、経済成長の中、再び拡大したことが看取できる。

4 結びにかえて：効率偏重から公正配慮へ

冒頭で述べたように、移行不況期に悪化した不平等は、経済成長期にもその傾向が温存され、その上、緩やかに拡大する傾向にある。また、前節で示したように、移行不況期に都市貧困が急増したことによって、都市・農村間格差が縮小したようにみえたが、1990年代の後半には再び拡大している。このような事実から、ロシアには、貧困層により有利となるプロ・プア成長のメカニズムが埋め込まれていないと考えられる。そして、筆者による以下の実証研究も、この仮説を支持する結果となっている。ロシア連邦統計局のデータを基に1995～2006年の連邦構成主体のパネル・データを作成し、一人当たり実質GRP(域内総生産)に対する貧困弾力性を推計したところ、移行不況期(1995～2000年)よりも経済成長期(2001～2006年)の貧困弾力性の方が大きかった。つまり、経済成長は貧困削減のための必要条件である。しかし、いずれの時期においても、貧困地域よりも非貧困地域の貧困弾力性の方が大きく、ロシアには経済成長がプロ・プアとなるメカニズムが欠如していることも明らかにされた。非貧困地域と比べて貧困地域の貧困削減のテンポは遅く、経済成長は貧困削減の十分条件とはなっていない。効率と公正のバランスを考慮し、経済成長がプロ・プア成長となるようなメカニズムを政府は構築する必要があるであろう。2000年代半ばまでのロシアは効率偏重といえ、格差是正が軽視されていた。しかし、2008年のプーチン大統領(当時)の演説「2020年までのロシア連邦発展戦略」以降、格差是正にも注意が向けられており、公正配慮への姿勢もみられる。近年は、豊かな天然資源を持つが厳しい自然により開発が阻まれてきたロシア極東の開発が、国家プロジェクトとして積極的に展開されている。極東開発は格差是正を目的とした政策ではないが、こういった政策がロシアの地域間格差を緩和するメカニズムを生み出すことに期待したい。

1. 武田友加(2011)『現代ロシアの貧困研究』東京大学出版会。(第28回大平正芳記念賞受賞)
2. 武田友加(2012)「ロシア農村における個人副業経営のセーフティネット機能:ロシア家計調査の個票データに基づく実証分析」『経済研究』第63巻第4号, pp. 305-317.
3. Takeda, Y., 2012 "Poverty lines in Russia," in ILO (Ed.), Methods for Estimating the Poverty Lines: Four Country Cases, ILO.

高いリテラシーと論理的思考力を身に付ける、法学部の学び

現在、法科大学院があることによって法学部の位置づけがあいまいになっているといわれています。これは本学に限らず、日本中の大学が抱える問題といえるでしょう。しかしこの問題に対して、本学は一貫した姿勢をとっています。すなわち、法学部を法科大学院の前段階としてとらえず、学生に一つの完結した法学の教育課程を提供する。そして高いレベルでの学びを通して、法的素養を身に付けた人材をさまざまな分野に輩出する。この姿勢がぶれることはありません。



法学部長・法学研究科長
山部俊文

科目を3段階に分けて 幅広い学びを提供

そもそも本学の法学部は、必ずしも法曹の養成機関というわけではありません。法学を目指す学生の数の多さは昔も今も変わりませんが、卒業後の進路として一番多いのは企業への就職および公務員などです。ですから学部で完結した教育を行うことは、そもそも必要なことなのです。

学生が学部においてきちんと法学を修得できるように、科目は「導入科目」、「学部

基礎科目」および「学部発展科目」の3段階に分けています。導入科目は文字通り、学生が最初に法学部の学問にふれる段階にあたります。次の学部基礎科目で法学の基本となる科目を深く学びます。そして、専門分野に特化した学部発展科目およびゼミによって、さらに専門的に研究を進められるようになっていきます。

また、将来どのような分野に進んでも法学部での学びが活かせるように、学部基礎科目では基本となる科目を網羅しています。法曹界であれば民事法や刑事法、一般企業であれば商法や経済法、公務員であれば行政法や行政学など、学生が目指すものによって幅広い科目から選べるようにしました。なかでも本学の法学部の特長として、法学（法律学）コースとともに、国際関係コースが設置され、法律学の科目にとどまらず、国際関係論の科目が充実していることが挙げられます。

法科大学院レベルの授業を、 学部での授業でも展開

充実しているのは科目の幅広さだけではありません。一つひとつの授業レベルの高さにおいても同じことがいえます。

法科大学院は、原則として法律知識の有無にかかわらず広く学生を募集することが前提です。実際には法学部出身の学生が多く、司法試験の合格率も既修者のほうが高くなっていますが、未修者の合格率も毎年上位を占め、本学の法科大学院は、新しい司法試験の制度がスタートして以来ほぼ毎回トップの司法試験合格率を誇ります。この法科大学院で教鞭をとっている先生方が、そのまま学部での授業を行っている——ということは、法学部の科目を履修した学生は、法科大学院の授業と比べても遜色のないレベルの授業を受けていることとなります。

法的素養を持った人材を 社会へ輩出

企業に就職する学生に「そこまでレベルの高い学びは必要なのか？」という問いに

は、「法的素養を持った人材は、どのような分野においても有用である」とお答えしましょう。

ご存じのように、現代社会において、法はありとあらゆる分野に存在しています。現代の法律学は、明治政府が西洋から法律を継受するはるか前、1000年にも及ぶ年月をかけて研究が積み重なってきた、一つの到達点です。この壮大な知識の体系・蓄積を学ぶことは、学生にとって相当な知的格闘が求められます。たとえば民法にせよ刑法にせよ、初めのうちはその基本書・体系書に何が書かれているのかさえわからないでしょう。そんな学問を理解し、自分のなかに落とし込むには、何よりもまず大学生活というまとまった時間が必要になります。そのなかで学生は、知識やリテラシーを身に付け、論理的思考力を鍛えながら、さまざまな問題解決に当事者として向き合っていく、解決の糸口を探りあてられる人材に育っていきます。このような法的素養を備えた人材は、法曹、企業人、公務員などとして、社会のどのような分野でも必要とされるはずなのです。

学生に、高いレベルで法学を学ぶ環境を提供する。それは社会全体にとって大きな意味があることなのです。（談）

垣根なく学べる環境が、日本社会にとって大切な人材を育てる



法学入門は、法学部以外の学生が法学系科目を履修するときの道しるべとなる授業です。経済学部・商学部・社会学部の学生に、法律的な考え方にふれながら論理的思考力を養い、「文系」の一言ではくれない発想の多様性を学んでもらうことがねらいです。

特に最近では、社会のあらゆる分野にコンプライアンスの概念が導入されており、法学部以外の学生の法律への興味が高まっているおかげもあって、この科目の履修者が増えています。そこで、もともと留学生向けだったフリガナつきのテキストを用い、法学の初心者にもわかりやすい授業を行っています。文章は平易でも、法科大学院への進学にも役立つ内容がある程度想定していますので、かなり濃

いものになっています。他学部を卒業後に一度実社会を経験し、あらためて法科大学院に入って法曹界を目指すような人が多く出てくることも期待しています。

学部間の垣根なく、社会科学全般を学べるのは本学最大の特徴です。学生には、一橋大学ならではの環境を活かしてさまざまなことを吸収し、将来、日本社会を担って活躍してくれることを望みます。(談)

情報をうのみにせず、自分の力で考える



憲法は中学校・高校でも学んでいますから、法律科目のなか

では最も馴染みのあるものではないでしょうか。実際、法学部生は1年前期にはほぼ全員がこの授業を履修していますし、他学部の学生も多数受講しています。そのため法学入門的な役割を引き受けることになり、専門用語

については憲法分野以外であっても簡単に解説しています。また六法の条文を引くといった、法学の学習のために不可欠な習慣を身につけてもらうことにも注意を払っています。

憲法が実際にどう働いているかを知るためには、判例の学習がとくに必要です。その点は他の法律分野と共通なのですが、憲法学の特徴は、判例分析だけではなく、争点の背後にある民主主義・立憲主義に関する考え方の違いなど、

より大きな理論的問題にまでさかのぼろうとすることにあります。憲法問題に関する報道・解説などの情報をうのみにせず、自分の力で考える。その基礎をつくるのが、憲法の授業の目的です。法曹界に進む学生はもちろん、民間企業や官公庁に進む学生も、基本法のなかの基本法である憲法を学び、それぞれの持ち場で活かしてほしいと考えています。(談)

行政法ゼミ

高橋 滋教授

行政法全般を学習するゼミです。3年次の最初は、導入として基礎的なテーマに関する学術的な文献を読み進めることにしています。判例の分析を開始するのは3年次の夏頃から。具体的には、判例の分析・検討を討論形式により行ってきました。①行政法の基礎知識を確実なものにすること、②判例が具体的紛争をどのよ



うな論理を用いて判断したかについて、丁寧な分析もとに読み取る作業を通じて、文献の読解力・法的思考能力を養成することを目指します。加えて、過去には、他大学とのディ

ベートや、官庁・施設見学も実施しました。4年次後半については、卒業論文の指導を行います。学生は、全ゼミ生の前で複数回中間報告を行うこととしており、卒論提出後にパワーポイントを用いた発表会も開催します。

ゼミの運営では参加学生の自発性を重視しており、学習・



行事に積極的に参加する学生であるか否かを、ゼミの選考基準としています。

刑法Ⅰ

本庄 武准教授

正解がないからこそ、論理の一貫性が重要



私が担当する刑法Ⅰでは、さまざまな犯罪に共通して問題になる一般的な犯罪の成立要件を体系的に学び、学生と議論していきます。そして刑法の理論を使って具体的な問題を解決する、そんな力を身につけてもらうことが大きな

目標です。そこで学生には課題として、ある事例について「刑法的にどう評価するか?」についてのレポートを作成してもらっています。実は、この課題には正解や模範解答がありません。重視しているのは、結論に至る過程の論理的一貫性です。そもそも社会的病理である犯罪について法的にどう評価するかは、本質の部分でいまだに評価が分かれ、議論が続いている問題です。

ですから、ある出来事に対して「それは有罪である」と判断するには、説得力のある理由が必要です。犯罪とは何か、なぜ人は罪を犯すのか。刑法というツールを使い、哲学・倫理などの根本的かつ多面的な視点も取り入れながら論理を展開し、結論を導き出す。刑法を学ぶことで論理的思考力を鍛えることができますし、ここで鍛えられた能力は、どのような分野に進んでも通用するほど汎用性が高いと考えられています。(談)

刑事法・比較刑事法ゼミ

王 雲海教授



日本の刑事法の主な問題を、米国、中国のそれらと比較することを通じて、日本の刑事法への理解促進とともに、将来国際社会で活躍するための刑事法の知識をも身につけてもらうことを主眼にしています。「法律対法律」という「水平な比較」だけでなく、「社会体制」と「社会特質」という多重的視点から刑事法を理解、解明するための意識と能力を育成できるようにゼミを運営しています。

3年生には、今年度は、John L. Worrall『Crime Control in America』(2006 Pearson Education, Inc.)という文献を指定し、各々が研究の報告を行い、全体で議論する方式をとっています。4年生は、それぞれ興味のある卒業論文のテーマを選び、ゼミで論文作成の進行状況を随時報告して、論文作成に必要な知識、テクニク、プロセスなどを身につけていきます。独自性の高い論文作成を求めています。

刑事訴訟法

葛野 尋之教授

公正な判断力や皆が納得できる論証力を身につけるのに恰好



刑事訴訟法は、具体的な犯罪事実を解明したうえで「適正な刑罰の実現」、捜査対象となる被疑者や起訴された被告人の「人権の保障」という、具

体的な場面では鋭く拮抗する二つの価値を内包しています。そこで重要になるのは、単純で平板な調和や折衷ではなく、憲法の価値秩序に照らし合わせて両立させることです。特に最近では裁判員制度や冤罪事件などにより、捜査、起訴から判決に至るプロセスについて、市民の関心が急速に高まってき

ています。両立させるためにしっかりとした価値判断が必要なのは当然ですが、その判断が当事者である被告人にも市民にも納得のいくよう論証できなくてはなりません。客観化した価値序列を見極め、関係づけ、両立させ、誰もが納得できる解決策を提示する。その意味で刑事訴訟法は、立場

の違う相手に「なるほど」と思わせるような、本当のコミュニケーション能力を磨くのに恰好な科目だといえるでしょう。こうした能力は、グローバル化が進む社会において皆のコンセンサスを得るために、リーダーに必要な素養です。(談)



民法の勘所をつかみ、常識に法的な理由づけを行う



民法は、対象となる範囲が広く、条文も多いので、「民法(総則)」はその5分の1程度をカバーしています。内容的には、たとえば法的主体としての「人」を対象としています。この科目だけではすべてを覚えたり身につけたりすることはできません。学生には「民法のどこを調べれば何が書いてあるか」を理解し、その先は「何を調べれば解決につながるか?」という勘所をつかめるようにしてほしいと思います。それには、ふだんから新聞などを読み、民法を身近なものとして考えることが重要です。新聞には、財産法上の問題、貧困ビジネス、離婚の増加など、民法にかかわるさまざまな実例が載っています。買い物をする、家を借りる、結婚するなどの行為は、法律のメガネをかけて見れば、

何かしら民法でふれられているものです。つまり民法はおよそすべての人が対象で、生まれてから死ぬまでかわり続けるものといえます。ほとんどの場合は、法律上の解釈は常識にあてはまりますが、民法の勘所をつかんでいけば、常識に対して法律による理由づけができるようになり、実生活で自分の身を守ることもつながるでしょう。(談)

本ゼミでは、民法(財産法)、特に法律行為論や契約について研究を行い、理解を深めていきます。ゼミは、3年生と4年生との合同で行います。前期は、教材を使って判例研究を行います。毎回、判例について学生が報告を行い、その報告に基づいて全員で議論をします。積極的



な議論への参加を促しますが、なかなか議論が盛り上がりがないときは、指名して発言(または質問)を求められることがあります。その意味で、学生にはゼミ外での独自学習が不可欠となります。

後期は、3年生は判例研究を続ける予定ですが、学生側の希望があるなら、これ以外の勉強については、アパートを借りるなどして、実体験ができることと対照的です。二つ目は独学が難しいことです。手続法は円環的な構造を持っているので、民事訴訟法の教科書を通読するにしても、最後まで読んで初めて最初に書かれている内容が理解できるという、手間のかかるものです。



もいいです。過去には外国語文献の輪読などをしたこともあります。4年生は卒論の準備です。なお、写真は、一橋祭でのゼミの発表の風景です。

民事訴訟法

水元宏典教授

重ね塗りを通して、手続法を身につける



民事訴訟法は手続法で、技術的・実践的な法律ですから、法律専門職に就きたい学生を念頭においた授業を行います。民事訴訟法を知らない

ことは法律家にとっては致命的なので、その重要性は言うまでもありません。しかし、民事訴訟法は伝統的に学生がもつとも壁にぶつかりやすい科目の一つのようです。理由は二つあります。

一つ目は学生に民事訴訟の経験がないことです。たとえば民法で学ぶ賃貸借の世界に

ついては、アパートを借りるなどして、実体験ができることと対照的です。二つ目は独学が難しいことです。手続法は円環的な構造を持っているので、民事訴訟法の教科書を通読するにしても、最後まで読んで初めて最初に書かれている内容が理解できるという、手間のかかるものです。

そこで私の授業では、まず第1段階として民事訴訟法の全体を一通り概観し、次に第



2段階として、もう一度最初から、しかし今度は深く学ぶという「重ね塗り」を行います。生涯にわたり学び続ける者、とりわけ法律家にとって、学び方を身につけることもまた重要です。(談)

会社法は先端の実務の話題を追いかけすぎず、基礎を学ぶことが重要



会社法の授業では、経済社会のなかで重要な役割を果たしている会社の仕組みについて、株式会社を特徴づける諸制度をはじめとして、基礎にあたる部分をきちんと学びます。条文も会社法本体だけで1000近くあり、会社の組織、運営管理、資金調達など、扱う事項も多岐にわたる会社法に接することが

多いのは、企業組織のなかでも一部（法務部や役員など）です。そのような意味で、漠然と「就職してから役立っただろう」と考えて履修した学生には、堅苦しい内容が多いと感じられるかもしれません。ただ、実際に企業法務の現場で活躍している本学OB・OGからは、「先端の実務の話題は新鮮に感じられても、学生時代はそれを追いかけてすぎず、基礎をしっかりと学んでおいたほうがいい」という意見をいただきます。私もまったく同意見です。会社法は社会経

済情勢（科学技術や海外の情勢も含む）の変化により改正が頻繁になされる法分野で、新しい問題意識は必要ですが、それにも増して変わらぬ土台の部分に身をつけておくことが重要だと考えます。法曹界を目指す学生も、その他のキャリアを目指す学生も、未知の問題に直面したとき基礎に立ち返って考えることの大切さを理解し、この科目をそのような基礎を学ぶ一助にしてほしいと思います。（談）

国際法総論Ⅰ

川崎恭治教授

国際法秩序を学ぶことが、国家間に横たわる諸問題解決の鍵になる



竹島問題の国際司法裁判所への一方的付託の可能性に日本政府は先日言及しましたが、韓国がそれに応じない限り、裁判所はその管轄権を行使することはできません。これは、国際法秩序が、基本的には、国家間の合意に基づいていることを示しています。他方、尖閣諸

島沖の領海を中国の船が侵犯したと報じられていますが、領海侵犯というのは紛らわしい用語で、一般に外国船舶は他国領海内では「無害通航権」を有しているため、領海に立ち入ったこと自体ではなく、立ち入りが「無害」ではなかったことが問題なのです。

この講義を履修することによって、国際法秩序の基本的な仕組みと、さまざまな個別の国際法規則の内容についての理解を深めてほしいと思います。

法曹の道に進もうと思っている人は、国際（公）法の知識がないと、国家間に生じる法的問題や国内外の人権問題にじゅうぶんに対処することは不可能です。

国際政治に興味を持っている人も、ぜひ国際法を学習してほしいと思います。人体にたとえると、国際法は骨格で、国際政治は筋肉のような役割を持っています。日本の外交政策に携わるには、この両方の知識が不可欠なのです。（談）

商法ゼミ

酒井太郎准教授

本ゼミは、まず3年生の1年間をかけて、分担報告と討議を重ねつつ会社法の大系を一通り理解します。そして、修得した知識と調査・分析方法を基に、4年生の夏学期では一人あたり4〜6件程度、最新の商法判例の評釈を行います。この間培われた商法学の制



度上または実務上、そして解釈上の争点に対する問題関心は、夏休み中の整理検討を経て深められ、4年の冬学期を費やして卒業論文の準備と執筆が行われます。

本ゼミは、開始以来8年で69名の卒業生を送り出しました。進路は、民間企業への就職が大半で、2〜3割程度が法曹



関係または法科大学院進学です。民間就職は金融、商社が主

となっています。法曹関係は企業法務関連の弁護士が多くを占めていますが、2名の裁判官、2名の司法書士がいます。国家・地方公務員も数名います。ゼミの雰囲気は温和で上下の心理的垣根がなく、毎年開催されるゼミのOB・OG会を含め、卒業後も相互の往来が活発に続いています。

今年度は西洋法思想史のテキストを読み、その基本的知識を身につけたうえで、個別のテーマについて共同で学習・研究を行っています。現在は日本語による文献（笹倉秀夫『法思想史講義（上）（下）』東京大学出版会、2007年）を学習教材として使用していますが、もうすぐ読了しますので、次は英文のテキストを講読します。英文テキストの選択については、学生の皆さんと相談して、M.P.Zuckert『The Natural Rights Republic』



（Notre Dame, 1986）を読む予定です。自主的、主体的に、卒業論文作成を想定しながら、基礎学習を進めることが重要と考えています。



「国際関係をみる眼」を身につけ、問題を発見し、解決方法を考える



国際関係論は、国際関係の構造や国家間の関係を扱うため、外交官や国際機関スタッフ、さらにひろく国際社会で活躍することを目指す学生には必須の科目です。とはいえ、日本の社会も、あらゆる面でグローバル社会と結び付いていますから、この科目は多くの学生がもともと持っている興味・関心を、より深められる授業にもしたいと考えています。

国際関係論では、国際関係のさまざまな現象を理論的に分析します。国際関係における理論とは、どのような角度・視点から国際関係をとらえるかという問いを扱います。

えるかという国際関係をみる眼のことです。たとえば、勢力均衡論では、冷戦時代の国際関係を米ソ2極体制とみますが、覇権安定論といわれる理論では、パクス・アメリカーナという1極体制とみえます。ずいぶん違った見方をするわけです。

国際関係では、理論的な見方とともに、歴史的な見方を身につけることも重要です。両者は、国際関係をみるうえで、縦と横の関係ともいえる、双方の視点を持つことにより、より深い理解が可能となります。

国際関係をみるさまざまな視点を理解することは、現実の外交交渉においても有効です。交渉相手は、はたしてどのような世界観を持っているのか、どのような視点から自国との交渉をとらえているのか。こうした相手の視点・論理を理解してお

くことは交渉を進めるうえで不可欠です。加えて、そもそも国際関係におけるさまざまな問題を解決する方法を考えるうえでもきわめて重要なことです。

それでは、国際関係において何が解決すべき問題なのか。問題に気づくということは実は決して容易なことではありません。そのためには、私たち自身が、どのような社会、国際社会を築いていきたいのか、理想を持っていることが必要です。自分自身の理想像を描くには、国際関係論はもとより、ほかの社会科学や人文科学、そして場合によっては自然科学を学ぶこともまたお勧めしなげればなりません。（談）

国際関係論ゼミ

秋山信将教授

国際政治、特に、安全保障、大量破壊兵器の不拡散・軍縮、平和構築などのテーマを中心に研究を進めています。3年次の前半は、まず国際政治の基本的な文献を読んで、理論、分析枠組みの基礎を身につけ、後半では、安全保障に関する問題や国際秩序のあり方などにつ

いて論文や一次資料などを読みながら分析します。4年次のゼミは、各自の関心分野について理解を深め、卒論執筆に向けて各自の研究プロジェクトを進めます。いずれの学年も、毎回、1人か2人のゼミ生によ



る報告を基に討論形式で進めることとなります。

また、韓国ソウル大学、中国清華大学、京都大学、慶應義塾大学、防衛大学校など、他大学との合同ゼミなどの交流活動も積極的に実施しています。これらの機会は、プレゼンテーションやディスカッションの

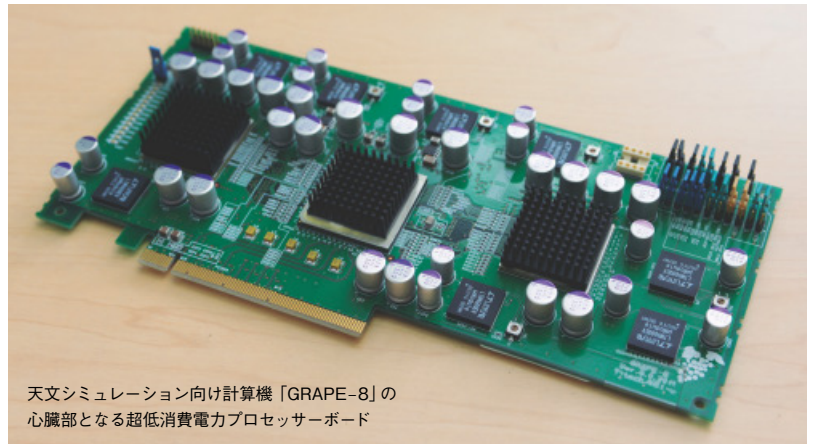
スキル、作法を身につけたり、多様な意見に耳を傾け、新たな知見を吸収しつつ建設的な議論を通じて相手を説得するトレーニングになっています。



世界一の電力効率を達成した天文シミュレーション向け計算機

GRAPE-8

金融工学、国際貿易など

さまざまな領域のシミュレーションに広がる応用の可能性。
文系・理系という区分けよりも大切なことがある。天文シミュレーション向け計算機「GRAPE-8」の
心臓部となる超低消費電力プロセッサボード天文シミュレーション向け計算機
「GRAPE-8」の誕生秘話

天文シミュレーション向け計算機「GRAPE」プロジェクトは20年以上前、私が大学生になる前からスタートしています。当時、20万円までできる手づくりスーパーコンピュータというので、ちょっとした話題になりました。GRAPEはすべての計算ができるわけではなく重力計算に特化した専用機ですが、そのことよっていろいろなメリットが得られています。その一つが、「GRAPE-8」で達成した世界一の電力効率です。

私がGRAPEにかかわるようになった直接

のきっかけは、院生のときの研究で、土星の環（リング）で発見された構造を解明するために、GRAPEを使ったシミュレーションを行っていたことです。1977年に打ち上げられた惑星探査機ボイジャーによって、土星の周りにあるリングにはいろいろな内部構造があることが発見されました。たとえば、レコードの溝のような構造が発見されていますが、発見から30年以上たった今でも、なぜそのような構造があるのかは完全には理解されていません。土星のリングは、たとえるなら、無数の軽自動車くらいの水の玉（リング粒子）が、満員電車のように詰めこまれているところです。それらリング粒子はお互いの重力や直接衝突の影響を受けながら土星の周りを回転しています。



その、お互いの重力や直接衝突の効果が、リングの構造形成に重要な役割を果たしていると考えられています。そのため、構造形成のメカニズムを解明する手段の一つとして、それらの効果を考慮したリング粒子の運動方程式を数値的に解いて直接的に調べる方法であるN体シミュレーションが有効なわけです。

たくさんの粒子が重力を及ぼしあっている天体はほかにもあり、銀河系や惑星系などもそのような天体の典型です。それらにも、銀河はどのように生まれたのか、我々の住んでいる地球はどうやってできたのか……などの謎があります。その解明のためにも、N体シミュレーションが有効なのです。

しかし、一口にシミュレーションを行うといっても、話はそう単純ではありません。たとえば、渦巻銀河の成り立ちを現実になるべく忠

実にシミュレーションすると、最低限、銀河にあると考えられている星だけでも10000個が必要で、さらに、ガスやよくわからない物質で重力を及ぼしているダークマターという物質も考える必要があります。それらを粒子に換算すると、星の数の何百倍もの粒子数が必要で、万有引力の法則によると、重力相互作用のペア数は粒子数の2乗に比例します。シミュレーションを行うためには、それらの全部の粒子間に作用する重力相互作用を計算する必要があります。文字通り、天文学的な計算量が必要になります。現在の計算機で達成できているのは10億粒子程度です。つまり、真のシミュレーションを行うためには、今よりもずっと速い超

高速計算機が必要です。現在、計算機の性能をあげるのに採られている方法は、基本的には、計算機の並列化、すなわち、CPUの数を増やしたり、計算を加速させるような専用ボードを追加して、そのボード数を増やすことです。た

とえば、先ごろ話題になった京コンピュータは、約7万個のCPUが使われています。では、この先、さらにCPUを増やせるのでしょうか？そこには、さまざまな制約があります。その一つが消費電力です。電力はせいぜい使っても発電所1個分が限界でしょう。限られた電力で最大の性能が得られるようにしなければ、今後、より高速な計算機を手に入れることができなくなります。

GRAPE-8は、重力の計算に絞りこむことでロジックリソースを効率的に使い、1ワットあたりの最高性能は従来のスーパーコンピュータの3倍以上になり、天文シミュレーション向け計算機としては、世界一の電力効率を達成して

います。今年(2012年)3月に、GRAPE-8の正式な完成発表が行われました。

重力の計算から 半導体産業の現状、金融工学へ

GRAPE-8の開発では、心臓部となるG8チップの基本設計のみならず、チップを載せる基板の設計や基板で使う部品の選定、システムを動かすためのライブラリまで自製しています。メーカーに依頼したのは、チップもボードも、いわゆる物理設計と製造のみでした。このようなチップまで自前でつくる専用計算機の開発を行っている、日本のコンピュータ・半導体産業のある側面が垣間見られることもあります。そのあたりについて、少々、述べておきたいと思います。

専用計算機をつくる際にもっとも重要な要素は、どのように専用チップをつくるかです。そしてそれは、半導体メーカーの現状と関係してきます。チップを開発するときの最大の問題点は、チップ開発費の高騰でした。最先端の半導体プロセスでカスタムチップを開発しようと思えば、数十億円の前算が必要です。何世代か古いプロセスを利用しても億単位の開発費がかかります。それは天文分野の一つのプロジェクトで調達するには難しい金額です。しかし、カスタムチップは、性能的なメリットが非常に大きいのでつくつてもらえそうなのを探しました。ところが国内の企業で引き受けてくれそうところ(製造可能など)はなかったのです。もっとも世界的に見ても主にアメリカのインテルとグローバルファウンドリーズ、台湾のTSMCの3社くらいしかありませんが……。

このあたりの産業事情については商学研究科内に詳しい先生がいるので、その先生方からいろいろ話を聞いたことがあります。日本の半

導体メーカーは設備投資や利益回収モデルがうまくかみあつておらず、そのため、海外のメーカーに押されつつあなしになっているそうです。日本のメーカーは昔から垂直統合モデルを好み、企画から製造まで社内に全工程を抱えこんできたため、投資回収が難しくなっている。一方で海外の元気なメーカーは水平統合モデルが主流で、コアな事業以外は外部に委託している。商学研究科にみると、このようなビジネスの構造が見えてくるので面白いです。

こうした諸事情もあり、私たちプロジェクトチームは、別の方法でチップを開発することになりました。GRAPE-8ではストラクチャードASICと呼ばれる、ある程度の個別設計に対応できるようにしたセミカスタムチップを使うことにしました。集積度やクロックなどの性能はフルカスタムチップに劣りますが、圧倒的に安価にすることができ、るので。ほかにも、機能を後で更新することができる(回路を後で書き換えることができる)デバイス、FPGAチップを使ってGRAPEチップを実現する方法があります。FPGAは回路を更新できる機能を実現するための回路がはいつていることもあり、前記のカスタムチップに比べて集積度は劣りますが、後で変更がきくため、開発期間を短くすることができます。実は、この方法で実現したGRAPEも存在します。

こうして開発された、天文シミュレーション向け計算機GRAPE-8ですが、シミュレーション技法や専用計算機を開発するノウハウは、天文領域以外にも応用が可能です。典型的な例が、金融工学の世界です。アインシュタインが理論的に解明したブラウン運動の不規則さが株価の変動に似ているため、株価の変動の定式化に利用されているのは有名な話です。最

近では、金融派生商品の価格決定に、ブラウン運動をもとにしたブラック・ショールズ方程式のシミュレーションが活用されています。さらに、そのシミュレーションを加速するために、FPGAベースの専用計算機が開発されたりしています。それらの仕事のために、物理で学位を取った研究者・学生が金融業に携わることも、今では珍しくありません。

GRAPEプロジェクトで得られたノウハウを用いて、本学でも金融シミュレーションや専用機開発に応用できることがわかっています。興味を持った人たちが集まれば開発を進められるのですが、近年の学生たちは「自分は文系だから……」と避けてしまう傾向があります。

何をやりたいのかがはっきりすれば、 文系・理系を超えた学びにつながる

私は商学研究科に所属していますが、主には共通教育の物理学の担当です。そのため、研究分野は引き続き惑星科学・天文学・計算科学ですが、そのせいか、今は私のゼミには学生がいません。文系の学生には敷居が高いのでしょうか。なかには私のゼミを希望する学生もいますが、よくよく話を聞いてみると、「何か変わったことがやりたいから」という理由で希望を出したりしています。やりたいと思うのはいいことです。しかし知識ゼロの状態から、わずか2年間のゼミ体験でしっかりと卒業論文を書けるとは思えません。

私はときどき、文系・理系で分ける今の教育に不安を感じることがあります。社会はすでに文系・理系の区分けがなくなり始めています。先ほどご紹介したように、一見、文系の領域に思える経済・金融の世界ですが、物理の方程式を使いこなす能力が不可欠です。その

ような時代に、「自分は文系だから」と興味・関心を持たないといったマインドが通用するでしょうか。テコ入れが必要な日本の半導体メーカーに就職し、将来経営者に近いポジションにいったとき、技術の根本を理解できない人が適切な判断をくだせるのでしょうか。大切なことは「自分は何をやりたいのか」をはっきりさせ、その目的に向かって必要な勉強をしていくことです。

たとえば天文学者は、宇宙の成り立ちを知りたいというモチベーションがあります。ですから、そのために必要なことはなんでもします。古典を調べることもあります。平安時代に藤原定家が書いた『明月記』には、「M1かに星雲」の超新星爆発のことが記されているなど、貴重な資料があるからです。遠い過去の天体現象が記された古典の資料はほかにもたくさんあり、その記述から暦を調べ、地球の自転・公転の謎に迫ることもできます。「自分は理系だから古典は苦手……」と言っていたら、ほしいデータを集めることはできません。

「グローバルなメーカーで活躍したい」「金融機関で経済を動かしたい」、シンプルでいいのです。学生にははっきりとした目的を持つてほしい。その実現のために私の専門知識が必要なら、応援は惜しみません。(談)

商学研究科准教授 台坂 博 (だいさか・ひろし)

2000年東京工業大学大学院理工学研究科応用物理学専攻で学位取得後、日本学術振興会特別研究員、国立天文台研究員などを経て、2006年より現職。主な研究は、天文シミュレーション向け計算機「GRAPE」の開発および「GRAPE」を使った重力多体系の諸問題の解決など。これまでに学部で「自然科学論」、「情報システム論」を、大学院で「物理学特論」を、共通教育科目で「基礎物理学」、「物理学発展」、「サイエンスミニマム」、「サイエンス工房」などを担当。



経済事象と経済理論の 整合性をチェックする 分析ツールづくり

私は計量経済学のなかでも、定常・非定常時系列分析に関する理論というものを広く研究していて、主に分析ツールを研究しています。実際に起こった経済事象と既存の経済理論が一致しているか、整合性を持っているか。それを統計学の側面から検証するため、さまざまな分析ツールが用いられています。そのツールをどのように開発していくかが重要になります。ツールの出来が粗いと、整合性のチェックも粗くなります。ですから、より洗練されたツールづくりが欠かせません。

経済理論が時代とともに進化するように、統計的なツールも進化してきました。私の研究は、時代の変化に合わせて新しい精緻な計量経済理論、分析手法を生み出すことにあります。このような研究は経済分析の立場からは分析ツールの基礎理論ということになるので、私の研究そのものがす

損保の保険料率、競艇の勝率、カフェの売上—— 客観的な数字を使って理論づけ、 相手を納得させるツールとして有用な 統計学・計量経済学の醍醐味を伝えるために

ぐに何かの役に立つということは稀ですが、それでも、自分の開発した理論・ツールが、経済分析や政策分析などの実証分析をする人に役立ててもらえれば幸いだと思っています。

一方、将来、学部を卒業して実社会へ出ていく学部生には、統計学・計量経済学などの基礎理論の学習も必要ですが、統計ツールを用いた分析テクニックを身につけることも必要なのであって、誰にでもわかる形で分析をして、結果を客観的に納得させる「科学」として、統計ツールを理解し、使えるようにならなくてはなりません。ですから学生に教える部分については、より実態の経済・社会現象に即したものを扱っています。

学生の学びのニーズに 応えるために、

統計学・計量経済学のゼミを展開

ふだんの社会生活で統計学が用いられている例としては、視聴率や商品の在庫管理、そして損害保険などの保険料率の設定などが挙げられます。また天気予報の統計分析もスーパーなどを経営する企業には有用です。店舗のエリアに合わせてピンポイントの天気予報を購入して、経営管理に活かしている企業もあります。さらに、統計学は、自動車保険の保険料率を決めるのに重要な役割を果たしています。ドライバーの年齢、車を運転する目的や頻度、自動車の種類などのさまざまな要素によって、保険料の高低が決まってきます。もちろん、ドライバー一人ひとりを見ると、その人の個性によつ

て事故を起こしやすい・起こしにくいという傾向はあるのでしようが、保険に加入するときにそのような判断をすることは非常に難しいです。実際には、年齢や運転経歴などのさまざまな客観的要素を統計学的に分析して保険料を決め、結果として帳尻が合えば、保険会社は成り立つのです。余談ですが、保険業界に就職した卒業生に聞くと、保険と統計学の関係を学生時代に学んだことは仕事にかなり役立っているようです。

在学生のなかにも、「統計学や計量経済学を使って何かをしたい、ツールとして使いたい」と考える人は多いですね。もともと経済学部には数学に強い学生が入学していることも関係しているでしょう。最近ではデリバティブ（金融派生商品）の開発など、統計学は、金融工学の領域では重要な学問になってきていますので、よけいにそのニーズは大きいのです。

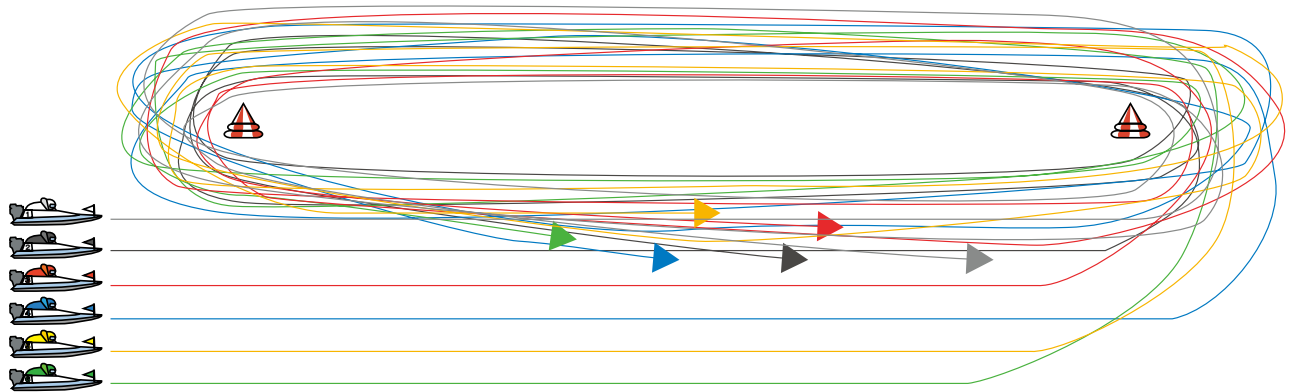
そこで私も分析ツールの研究は研究として、ゼミではよりブレイクダウンした実践的な「科学」を指導しています。3年次の前半はすべての基礎となる数理統計学について、後半では計量経済学について徹底的に学んでもらいます。4年次では4月の第1回のゼミで各自卒論のテーマを発表し、夏休みのゼミ合宿では中間発表を行います。卒論のテーマについては、ある程度フリーにしている、何か一つ興味のある経済・社会現象を選択し、それを統計学・計量経済学の手法で分析させています。そうすると学生たちは本当にさまざまなテーマを引っぱり出してくるので面白いですね。私自身も勉強になることがあります。

卒論のテーマ設定の ユニークさに、 自分自身の発見や気づきがある

卒論のテーマとしては、年金問題、日銀の金融政策、プロ野球選手の年俸が何で決まるか、ネットオークション「eBay」におけるノートパソコンの価格決定……などなど。ゼミ生にはアゼルバイジャンからの留学生もいたのですが、彼はトルコの財政政策をテーマにしていました。

このように、さまざまなテーマの卒論を今まで指導してきましたが、なかでも私が気に入っているのは競艇をテーマにした研究です。

私は全く知らなかったのですが、競艇はインコースが圧倒的に有利な競技なのだそう。そこでその学生はインコースとそれ以外のコースでデータをとって、「インコースであることが統計学的に有利であるといえるか？」を分析しました。するとやはり統計学的には断然インコースが有利である、という結果がはっきり出てきました。ではインコースを買えばいいかというと、学生いわく「オッズが低く買いません」(笑)。そのような意見が出ることは、主催者側もわかっていることでしょう。ちなみに主催者側は競艇をより盛り上げるために、重賞レースなどを設けています。しかし「お客さんが増えたか?」「売上が伸びたか?」を調べてみても、そこに統計学の側面からこうだとはっきり関連づけられる



結果は出てきませんでした。

もう一つ面白かったのがカフェの売上の分析です。これは、チェーン展開をしているカフェでかなり長期間アルバイトをしていた学生がテーマとして選びました。実は「売上アップの陰にはカリスマ店員がいた」というオチです。あまり深い分析とはいえませんが、分析プロセスには目を見張るものがあります。

その学生がとったデータでは、ある期間と別の期間を比べると売上が伸びていました。理由を調べると新商品などが原因ではなく、容姿の整った店員がいたからだ、ということがわかったのです。ただしそれだけではなく、その店員が「こ一緒にケーキもいかがですか?」など一言添えることで売上増加につながったようです。たしかに、その人が接客しているときと別の人が接客しているときでは明らかにデータが違うのです。もちろん、時期的な要素や、商品のラインナップ、特に新商品の有無も売上に関係してきますが、そのような要素をできる限りすべて考慮したうえでの結果です。

目を見張るものがあるというのは、誰もがカリスマ店員がいるからだろうと予想がつくなかで、直感だけではなくデータで根拠づけている点です。つまり客観的な数字が伴った統計分析の手法を使ったことで、第三者を納得させやすくしているわけです。容姿という属人的な要素も、根拠づけて理論化することも場合によっては可能なのです。企業経営上、検討する余地は大い

にあるのではないのでしょうか。

より早い段階で 統計学を学ぶ機会を増やすこと。 それが日本の課題

このように統計学や計量経済学による検証の有用性を考えると、この視点を導入している企業とそうでない企業とでは、はつきりとした差が出てくるはず。売上、お客さんの数などは完全な数字なので統計学を使った分析がしやすいですし、さらに、単位時間内の店員の「笑顔・言葉・仕草」をデータ化して、売上などと関連づけることも可能です。

これから日本でも初等・中等教育で「統計による分析」という概念を学ぶ機会が増えるので、大学でさらに高度な手法を身につけ、企業経営に貢献できる分析もできるようなるでしょう。前述のように私自身の研究とは少し異なりますが、学生の皆さんに対しては、ゼミなどを通して統計学・計量経済学の世界の面白さを学ぶ機会を提供していきたいと考えています。(談)

経済学研究科教授 黒住英司 (くろずみ・えいじ)

1992年一橋大学経済学部卒業。1997年同大学大学院経済学研究科修士課程修了。2000年同大学院経済学研究科博士後期課程修了。1992年4月～1994年3月電力中央研究所経済社会研究所研究員、2000年4月日本学術振興会特別研究員、2000年10月一橋大学経済学研究科講師、2003年4月同大学経済学研究科助教授、2003年9月ポストン大学経済学部客員研究員、2006年4月京都大学経済研究所客員助教授などを経て、2009年10月一橋大学経済学研究科教授に就任。現在に至る。

一橋大学には、ユニークでエネルギー溢るような女性が豊富と評判です。

彼女たちがいかにキャリアを構築し、どのような人生ビジョンを抱いているのか？

第35回は、株式会社エコトワザの代表取締役を務める起業家、大塚玲奈さんです。

聞き手は、商学研究科准教授の山下裕子です。

株式会社エコトワザ
代表取締役

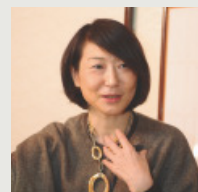
大塚玲奈氏



Reina Otsuka

商学研究科准教授

山下裕子



Yuko Yamashita

21世紀のキャプテン・オブ・インダストリー

1人目になる決意

山下 大塚さんの活動を拝見すると、環境問題・ビジネス・世界とテーマがとてはつきりとしていますね。いつ頃からこうしたテーマを持つようになったのですか？

大塚 環境問題に関心を持つようになったきっかけは、小児喘息でした。父の仕事の関係で、私は2歳から10歳までニューヨークで過ごしました。向こうでは何ともなかったのですが、帰国したら小児喘息になってしまったのです。小児喘息の原因の一つである大気汚染、そこから公害や地球温暖化へと関心が広がっていきました。また、湾岸戦争などで人間の行為というものを考えさせられたことも、かわっていますね。

環境問題への取り組みというと、ボランティアで



大塚玲奈（おおつか・れいな）

1980年生まれ。2～10歳の間、父親の転勤先である米国ニューヨークで育つ。

2004年一橋大学法学部卒業。同年株式会社リクルート入社、営業や事業計画などを担当。2007年同社退社。

2006年株式会社エコトワザを設立し代表取締役に就任、現在に至る。1児の母。

行えばいいという考え方もありますが、私は違うと思います。環境と経済、環境とビジネスを両立させたいという思いは、10代の頃から抱いていました。

山下 環境ビジネスについては、高校時代から考えていたのですか？一橋大学を選んだのも、そのように思いからでしょうか？

大塚 漠然とですが、そうだったかもしれません。高校はかなり自由な校風でしたので、課外活動ばかりやっていました(笑)。法学部に入学したのは、国際関係コースが含

まれていたからです。環境問題は人間がつくり出した問題ですから、人間の意識や行為を変えていかないと解決しません。そのためにも国際関係論を学びたいと思ったのです。

でも、一橋大学を選んだのは、父

の母校であったということもあり、きっかけは割と気軽なものでした。私は理数系が得意でしたので、最初は理系への進学を考えていました。でも、理系の仕事というところ、当時の私には、自分にはとても向いているとは思えない医師しか思い浮かばなかったのです(笑)。祖父の家が国立にありましたが、町並みや環境はもとよみと好きでした。結果として一橋大学を選んでよかったと思っています。

山下 それはどのような理由からですか？

大塚 学生が伸び伸びとやりたいことができるのも



そうですね。私は学生時代、環境と経済の両立をテーマとしたLINXというサークルをつくり、環境会計の研究をしたり、中国市場を環境と経済を両立させながら開拓するというビジネスゲームをつくったりしました。また、その頃、祖父の家は空き家だったので、維持費もかかるし、もったいないですよ。ですから、シェアハウスにして一橋大学の学生に安い家賃で貸すことにしました。当時その家を借りて住んでいた学生の1人が、夫です(笑)。

でも、自分でビジネスを始めようと決心したのは、如水会の奨学金でアメリカ留学をしたときです。2001年、あの同時多発テロのとき、私はカリフォルニア大学バークレー校の国際学生寮にいました。アラブ系の学生を含め、さまざまな国の学生が複雑な感情をぶつけ合うなか、寮長が「誰かが、争いをやめようと呼びかければいけない。それが私たちだ」と皆を論してくれたのです。その言葉に深く感銘を受けました。

私も1人目になろう、30歳までには環境問題を解決する会社をつくらうと、心が決まりました。

信じたものを創造する

山下 学生時代からスモールビジネスをつくり出し、将来の方向をはっきりと決められたわけですね。でも、社会に通用するビジネスを創出することは、そう簡単ではありません。まして環境問題を解決するというテーマに挑むとなると、自分で道を切り開



いていけないといけなしいリスクもあります。恐れや不安はなかったのですか？

大塚 自分はいくらも道を選ぶということはない、だからこういう道を選ぶということはない、私にとってごく自然なことでした。その原点にあるのは子どもとのきの経験だと思います。アメリカには「Gifted and Talented」という全米でIQトップ5%の子どもを対象にした

プログラムがあるのです。私は算数が得意だったからIQが稼げたのでしょ、小学校3年生のときにその一つ、「自分たちで文明をつくる」というプログラムに参加しました。

すごくユニークなプログラムで、子どもたちが2チームに分かれ、それぞれ文明を創造するのです。歴史やどんな社会かを考え、文字をつくり出し、ロゼッタストーンみたいなコミュニケーションに刻みまします。それをグラウンドに埋め、お互いに相手チームのものを発掘し、どんな文明だったか解きあかすというものでした。「文明ってつくっていいんだ！自分たちが信じたものをつくり出していいんだ！」と、子ども心



に強烈に感じました。

山下 羨ましい！お話を戻しますが、起業のために、どのような準備をされたのですか？

大塚 実際のビジネスや会社経営では経験不足ですが、短い間に責任のある仕事を経験したいと思い、30歳までに起業したいとハッキリ伝えながら就活しました。当然、ほとんどの企業に断られたのですが、リクルートだけは熱心に誘ってくれました。そして、2004年に入社し、住宅情報事業部門に配属となりました。

山下 リクルートではどのような仕事をされたのですか？

大塚 基本は営業ですから、1年間営業をやらせてもらいました。2年目は新しい営業組織の立ち上げで契約社員の採用やマネジメントを担当し、3年目は事業計画にかかわらせてもらいました。上司や周囲が応援してくれて、役員（当時。現・社長）との懇談会を含めさまざまな機会をつくってくれたことには感謝しています。



山下 実際に「エコトワザ」を立ち上げたのは、25歳のときでしたね。資金面はどうかだったのですか？

大塚 自分の貯金のほかは、株主の多くがいわゆるエンジェル（個人投資家）でした。リクルート時代のお客様や、アメリカのベンチャー企業経営者など



です。元銀行員の株主さんからは、「自分は今から始めるのだから、あなたに託す」と言われました。ちなみに「どぶに捨てたつもりだから」とも言われました（笑）。

エコトワザでビジネス

大塚 「エコトワザ」の仕事は、日本の培ってきた、自然と調和した文化やライフスタイルを伝えるサイトを運営し、エコロジカルなモノづくりをしている中小企業の海外展開をサポートすることです。

山下 「エコトワザ」のワザは、技術ではなく「技」ということですね。

大塚 はい。日本には古くから独特の「自然と人の関係性」と「自然に負担をかけずゆたかに暮らす」ための知恵がたくさんあります。今でも生活や文化、ビジネスやモノづくりのなかに脈々と受け継がれてはいるのですが、意味が忘れられたり、形骸化したりにして普段は気づかれないことが多いような気がします。そうした「エコ」と「ワザ」を再発見し、海外に伝えるためのハブ（つなぎ役）になりたいと考えています。

山下 確かに、日本にはそういうものがたくさんありますね。たとえば、日本企業が海外進出をするとき、環境基準や環境技術を持っていきました。技術移転され、その国の基準として残っているものもあります。でも、日本企業を支えてきた企業人たちは、そのことをマインドセット（価値観）として持ちませんでした。優れたことをきちんとやってきたのに、世界に正しく伝えられていないのです。これは、とてももったいないことだと思います。

大塚 私もそう思います。マインドを育てていくことはとても重要なことです。そうしないと、きちんと伝わらないし、国内での評価を上げるために海外で売り込むといった本末転倒なことも起きてしまいます。

山下 逆に、海外のエコワザを持つてくることも意味がありますね。私のゼミではインドネシアで、その国の暮らしのなかで培われてきたいいものを発見するというプロジェクトを続けているのです。

大塚 素晴らしいことだと思います。経済発展も重要でしょうけれど、自国にいかにも素敵な暮らしがあるかを再発見するのは、とても大事なことだと思います。

ます。私も、アジアの国々がお互いに学び合えるプラットフォームをつくっていききたいと考えています。

つくる側の人になる

山下 「エコトワザ」は、オフィスの形も働き方もユニークですね。

大塚 一度、都心に出ましたが、今年国立に戻ってきました。学生時代に創業した、あの一軒家です。普通の民家ですが、1階はテナントとしてカフェにお貸ししています。ですから、2階がオフィスで、カフェと同居する形です(笑)。働き方言えば、私はときどき子連れで勤務しますし、ウェブのデザイナーは岡山在住。ライター兼マーケティングはオーストラリアに住んでいます。今度、経理担当の人にきてもらうのですが、彼女と知り合ったのは娘を出産した産院です。それぞれが働きやすい形で、それぞれのワザをうまく結集させたいと思っています。

山下 先日ある食品メーカーのお客様相談のコールセンターに見学に行きました。落ち着きがあつて、電話の向こうの相手に対して細やかな気配りのできる素敵な主婦の方々が対応していらつしやり、家庭を切り盛りしてきた大人の女性ならではの、と感銘を受けました。子育て中の人はもちろん、40〜50代で

対談を終えて

「低い光は、長い影を創る」

われらが本拠地国立でのお約束が殊の外楽しみだった。高校時代からバリバリやり手だったとの誉れが高い大塚さん、のどかな住宅街でどんな仕事を立ち上げようとしているのだろう？ 午後のゆっくりとした時間、一軒家カフェとしても使われているそのお宅では子育て真っ盛りのお母さんたちの時が流れる。お嬢さんを抱っこさせてもらって、身も心も癒やして貰った。

かつて、起業家には野心が満ち満ち、寸暇を惜しんで少しでも早く成果を出したい、というイメージがつきものだった。ITバブルの時代には、男性であつてすら妻子の存在は起業にとってハンディなんてことも言われていたように思う。なぜそんなに頑張れたのか？ 持てる=モテエリート男子に対する、持たざる=非モテ男子のハングリーさが、シュンペーター的起業家精神の源泉だったのかもしれない。いかにオジサンオバサンが活を入れようと、豊かさの定着した日本の21世紀、ハングリー精神という資源は枯渇してしまったかのようである。

ハングリーを前提とする必要もそもそもないよね、と、大塚さんとお話してふと思った。文明は新しく創ってしまつても構わない、という英才教育を受けた大塚さんである。才能に恵まれ、また、それをさらに伸ばす非常に恵まれた環境でのびのびと生きてきた人だ。アクセクとした様子は全くなく、肝っ玉が据わっている。そして、この美しい笑顔！ 豪邸や車を所有して異性にもてたい、という個人的欲望をドライブにしていた20世紀の起業家というのとは根本のところが違う。

成長期にある新興国では、若者のハングリーモデルがフィットするが、その勃興の周辺にあるあらゆる外部~成熟国、地方、環境、女性、高齢者~はきっと全く違うモデルが必要である。それはおそらく、豊かさをつなぐワザ。

新興国の勃興が一巡すると考えられている2050年。今年生まれたお嬢さんは38歳。豊かな地球になっているよう、お母さんたちは頑張るよ。

非常に満ち足りた気持ちの秋の夕暮れ。

低い光は、長い影を創る

そんなフレーズが頭に浮かんだ。

(山下裕子)



態を目指しています。

山下 ぜひ頑張ってください。最後に後輩へのメッセージをお願いします。

大塚 ありがとうございます。メッセージは……、「優秀になりすぎるな！」ということですか(笑)。就

自分の生活と調和した形で能力を活かしたい、仕事をしたいという女性はとても多いと思います。大塚さんの会社でモデルケースをつくってほしいですね。

大塚 起業は大変だといわれますが、自分の望む形で組織をつくることができるという意味ではかえってラクです。私も、世代間がうまくつながるような組織形



職をゴールにせず、雇用やビジネス、文化を一から生み出すことにも挑戦してほしいと思います。また、学生時代は特に、社会に迎合せず、自由であつてほしい。偉そうなことを言える立場ではないのですが、ぜひ一橋大学の学生には、つくる側の人としてチャレンジしてもらいたいですね。今の閉塞感が漂う日本の状況を打破していただきたいのです。私も、その1人になれるように、努力していききたいと思います。

「ブッフ・アラ・モード」の由緒

『失われた時を求めて』の読者が心惹かれずにはられないこの料理を初めてふるまわれたのは、1997年夏、ノルマンディのスリジーラールサルで開かれたブルーストの国際シンポジウムに、友人夫妻の所有する城館から通うことになった時だった。昔ながらの調理法に則って準備された「牛肉と人参の蒸し煮」が深鍋のなかで美味しく仕上がるのを待つ間、私たちは18世紀築の館のサロンで寛ぎ、庭に続く森を散策し、城付きの旧礼拝堂内で卓球に興じた。金泥の剥げかけたバロツクの天使が、ピンポン球を追う冒瀆者たちを呆れ顔で見下ろしているなか、やがて程よい空腹感を覚えた私たちは食堂に向かった。

鍋の蓋をゆ々ととると、仔牛の足はゼラチンが溶け出して、元の可哀想な形を失っていた。しかし嗚呼、皿を前にして私は気づいたのだ。「ブッフ・モード」(とも言う)には、その名を聴いて友が迷いなく作ってくれた温製の他に、冷製があり、そちらを望むべきだったと。ブルーストの小説文学の比喩になつていたのは、「書物のなかで個々の存在が数多くの印象から出来ている」ように「たくさんの選り抜きの肉を加えてゼリーに豊かな風味を与えた」牛肉の蒸し煮の「ゼリー寄せ」であつたの思い出したからである。ちなみに「フランスの美味しい料理」(1913年)でパンピーユが「国民的料理」の一つに挙げた「ブッフ・アラ・モード」のレシピは次の通りである。「牛の股肉か臀肉をよく叩き、ペーコンを刺し込む。豚の胸肉、仔牛の足、赤玉葱、丁子、砂糖、胡椒、塩、ブランドー、水とともに鍋に入れて、とろ火で七〜八時間煮込む。供する四時間前に

人参を輪切りにして入れ、その一時間後に玉葱を加える。熱いまま出す場合は、汁の脂をよく濾すこと。冷製の場合には、牛肉を薄切りにし、型に入れて周りに人参を並べ、濾した汁を全体にかけて冷やす。翌日には、ゼリーに閉じこめられた牛肉の冷製、人参添えが出来上がっている」。

あの日の味を想いながら、ラ・ヴァレンヌの料理書『フランスの料理人』(1651年)の記載にまで遡る由緒正しき、かつ家庭的でもある料理へのブルーストのこだわり、ふと思いを馳せてみた。

謝肉祭の最終日を盛り上げる「飾り立てた巨大な雄牛」の行進は、革命や戦争でたびたび中断されたものの、20世紀初頭までパリっ子の楽しみであった。時の流行作家の作品に因む名を牛に付けることもあり(『ゴリオ爺さん』『モンテ・クリスト伯』等)、「文学的な動物」とゴーチエは呼びさえたのだ。フロ

Bœuf à la Modeができるまで



①鍋の煮込み始め



②煮込みの完成



③皿に盛りつけられた料理

ベールは「謝肉祭の飾り牛は天才作家に似ている、どちらもやがて切り刻まれる運命にある」と言ったが、まさに「街を練り歩いた翌日に「人気の牛」は解体され、同じ名の料理になつて人々に供されたのである。その付け合わせは、いつの頃からか人参と決まっている。1903



1869年2月7日「レクリプス」紙

て、創造の苦悩は贖われるのか。この料理を書物の比喩に使うのは、ブルーストに於いて無意識的なことではなかったのだろう。

呼に感激し、見物人の美女に目配せしつゝ通りを進み行く、牛の最後のつぶやきは、「あの小僧、明日はこの牛、アラ・モードになるんだね」とか言ってるぞ。じゃ、今日はまだ序曲なんだな。俺は明日、この世の極みに君臨しているってわけか」。最終コマは「翌日」のレストランでの客の一言だ。「煮え過ぎだな！下げたまえ！」



謝肉祭の牛Bœuf Grasは何を思う？

Love of Culture
「ブッフ・アラ・モード」の由緒
社会学研究科教授
中野知律



ロックフェス

ロックフェスには、大きく分けて、既存のイベント施設を利用して行う「街フェス」と、空き地などに臨時のステージを設置して行われる「野外フェス」があります。前者の代表的なものが、千葉のQVCマリンフィールドと幕張メッセで行われるサマーソニック。一方、後者の代表的なものは、新潟の苗場スキー場で行われるフジロックでしょう。延べ入場者数は年によって変動はありますが、2012年のサマーソニックでは約13万人、フジロックは約14万人でした。いまやマイナーカルチャーとなってしまったロックミュージックにとっては、夏の一大イベントといえるでしょう。

ロックフェスの最大の魅力は、やはり、多くのミュージシャンの演奏を次から次へと聴けることです。特に、「洋楽系」といわれる海外のミュージシャンが多数参加するフェスでは、単独ではなかなか来日が見えないようなミュージシャンも参加します。ずっとお気に入りだったバンドを初めて目の前にし、最初の一音を耳にしたときの高揚感、ロックファンでよかったと思う瞬間です。あるいは、気になっていたけれども見る機会を逸していたミュージシャンや、名前だけは耳にしていた若手など、新たな「発見」に出会うこともあります。

音楽そのものの魅力に加えて、野外フェスには野外ならではのプラス・アルファの楽しみがあります。暑い日射しの下で踊ったり、夕暮れの心地よい風を感じながら歌ったり、一面の星空の下でまた踊ったり。同じ楽曲であっても、暗い会場とまぶしいスポットライトの下で聴くとはまる

で違ってくる場合があります。ミニマルでおだやかだと思っていた曲が思わぬ力強さをもっていたり、硬くて重いとばかり思っていた曲が、実は解放感に満ちたスケールをもつことに気がついたりします。

こうした野外フェスならではのオイ

シイところを満喫するためには、実は十分な準備が欠かせません。例えば、フジロックの会場である苗場スキー場は山地にありますから、突然天気が変わったり、気温が低下したりします。また、ステージからステージまでの移動には、長いときで30分以上歩くこともあります。3日間におよぶフェスを楽しむためには、体調管理が重要ですし、そのための十分な装備が必要となります。

まずは雨具。山ではいつどしゃぶりの雨が降ってきてもおかしくありません。場合によっては、数時間も雨に打たれることもあります。コンビニで売っているようなビニールのレインコートでは、30分もしないうちに雨が内側に入り込んできます。一旦体が濡れてしまうと、体温が低下して体力が奪われてしまうので、やはりきちんとした登山やハイキング用のものがおすすめです。上下セパレートタイプのものは着脱もしやすく、寒いときには上着だけはおることもできます。

次に靴。とにかく歩きまわるので、足がなるべく疲れなようなものが一番です。布製のスニーカーやジョギングシューズよりも、防水機能がしっかりとしたトレッキングシューズがいいと思います。

また、トレーニング用や登山用の速乾性の下着類も重宝します。ロックフェスですから、やはりお気に入りのアーティスト名の入ったTシャツを着たいところです。その下に一枚速乾性のものを着るだけで快適さが違います。ショートパンツの下に機能性タイツをはくのも、男女ともに定番のファッションとなりました。

フェス参加者の中には、数日間テントで寝泊まりをする人達もいます。野外フェスに参加したことがきっかけで、登山やキャンピングに興味をもったという人も少なくないようです。そのようなわけで、根っからのインドア派の私も、一通りのトレッキング用品をそろえて毎年夏を心待ちにしています。

Love of Culture

ロックフェス



国際企業戦略研究科
准教授

大上慎吾

在学生・在学生の保護者

3名 (1,220,000円)

泉谷美喜子 様
澤 俊男 様
他1名

卒業生のご家族・一般の方

6名 (270,000円)

荒めぐみ 様
坂元謙次 様
松見 敏 様
箕口奈美 様
山本裕子 様
他1名

企業・法人等

17団体 (35,285,505円)

公益財団法人 国際理解支援協会 様
コンデナスト・ジャパン 様
J.フロンティアテイルリング株式会社 様
テクノ産業株式会社 大塚秀二 様
東北住建株式会社 様
株式会社法学館 様
三菱商事株式会社 様
株式会社メディアム 様
明産株式会社 様
明治産業株式会社 様
一般財団法人ワンアジア財団 様
他6団体

本学役職員

10名 (3,770,000円)

加藤真美 様	清水庸如 様	徳島 巖 様	宮下博行 様
加藤良樹 様	下坂立正 様	鳥居敬三 様	椋木正規 様
金谷浩介 様	荘 雅行 様	長沢洋一 様	武藤雅俊 様
蟹江鑑一 様	白土久彌 様	中田一良 様	宗像孝純 様
鐘ヶ江倫彦 様	城山貴司 様	永田敬生 様	室井一郎 様
鹿野泰孝 様	進藤潤耶 様	永田知巳 様	室井祐作 様
鎌倉 上 様	新名 仁 様	永田雅之 様	望月和雄 様
加輪上浩之 様	末田聡朗 様	中野祐嗣 様	元栄哲郎 様
菊竹秀敏 様	末延幸辰 様	中林 毅 様	本橋利朗 様
菊地孝範 様	須賀誠司 様	中村 恭 様	紅葉山健策 様
菊地政夫 様	杉田健一 様	中村 誠 様	森内茂樹 様
菊池康夫 様	杉本俊也 様	中村光伸 様	森下一義 様
木住野元通 様	杉山和之 様	中村佳央 様	森田 稔 様
幾石 純 様	鈴木明宏 様	中村良樹 様	森田雄祐 様
喜田康之 様	鈴木清晃 様	長本光生 様	守矢 進 様
儀間邦樹 様	鈴木健仁 様	成田 亨 様	諸井 寧 様
久木田正樹 様	鈴木矩秀 様	難波一弘 様	山内 卓 様
日下太一 様	関 榮一 様	西町 崇 様	山上博雅 様
草場洋方 様	関 正樹 様	根崎修一 様	山川未来夫 様
倉橋和弘 様	関口修道 様	能谷 充 様	山口仁史 様
栗田 康 様	関口和一 様	野間口雅彦 様	山下誠一 様
黒田信忠 様	園田清章 様	花田一憲 様	山下安基 様
桑原隆人 様	染谷 浩 様	浜田 工 様	山田大輔 様
後藤峯太郎 様	高野明彦 様	林 利治 様	山田高章 様
小林和成 様	高野英明 様	平賀茂孝 様	山田 優 様
古宮博幸 様	高橋克典 様	平澤光彰 様	山本 継 様
小森一真 様	高橋健司 様	平塚英一 様	吉儀康彦 様
小山和人 様	高橋忠明 様	廣崎俊之 様	吉國真一 様
小山行央 様	高林浩司 様	深井真人 様	吉田輝夫 様
齊藤俊樹 様	竹石和人 様	福本英樹 様	吉田幸夫 様
齋藤直樹 様	武田慎一 様	藤原周作 様	米田英生 様
斎藤英秋 様	田島泰次 様	船津 至 様	渡辺一史 様
坂元慎平 様	田代信吾 様	保坂証司 様	渡辺浩司 様
坂本豪史 様	田中 勲 様	細田 薫 様	渡辺淳平 様
坂本良平 様	田中健司 様	堀 正司 様	渡部智彦 様
佐々木幸治 様	谷口 優 様	堀江音太郎 様	渡部 一 様
佐藤一郎 様	田畑 正 様	堀江宏朗 様	N P O一空会 様
佐藤隆弘 様	玉生 貴 様	堀野 学 様	国立一橋寮4期合同寮生大会 様
佐野一星 様	田村文明 様	堀之内俊也 様	如水会ソウル支部 様
澤田大志 様	辻中 啓 様	本田 豊 様	如水会多摩北支部 様
塩川智俊 様	筒井鉄平 様	前田泰生 様	如水会マニラ支部 様
塩出博之 様	露崎春吉 様	楨平 剛 様	吉野ゼミナール吉野会 様
重見庸典 様	鶴田光夫 様	松田健志 様	和心会 (昭和15年卒業) 様
重光成一郎 様	霍見浩喜 様	松永典生 様	他67名
柴田篤志 様	寺永好孝 様	松原良昌 様	
清水 優 様	當麻雅生 様	水越悠介 様	

一橋大学基金へのご協力、心より御礼申し上げます。

卒業生、在学生の保護者・ご家族の方をはじめとした皆様からご寄付をいただき、2012年10月末現在で、総額約50億円（入金済分）に達しました（うち2億円は、創立125周年記念募金より繰り入れ）。この場をお借りし、皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

ご寄付をいただきました方々へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。

今号では、2012年8月1日から2012年10月末日までの間にご入金を確認させていただいた方を公表させていただきます。公開不可の方、本学役職員につきましては掲載しておりません。また、ご寄付者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮でございますが、基金事務局までご連絡ください。

ご寄付をいただいた方すべての皆様を「一橋大学基金寄付者芳名録」に記し、一橋大学の歴史に末永く留めさせていただきます。また、30万円以上（法人100万円以上）のご寄付に関しましては、ご芳名を本館設置の「一橋大学基金寄付者銘板」に記させていただきます。



なお、募金目標額は100億円となっております。皆様の一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄付のお申し込みについて

● お手紙・ファックスまたはお電話で、ご住所とお名前をお知らせください。基金事務局より、ご案内、寄付申込書および払込用紙をお送りいたします。

● 一橋大学基金ホームページより、クレジットカードによるお申し込みも受け付けております。トップページの「寄付のお申し込み」メニューからお進みください。

一橋大学基金ホームページ

<http://www.kikin.ad.hit-u.ac.jp/>

如水会会員証カードをお持ちの卒業生の皆様へ 継続ご寄付のご案内

一橋大学基金では（社）如水会と連携し、如水会会員証カードによる継続ご寄付の受け付けをしております。

お申し込みいただけますと、如水会会員証カードから定期的に自動払い込みにてご寄付を頂戴することとなり、お振込の手間を省くことができます。

また、ご寄付の回数は、年1回（2月または8月）と年2回（2月および8月）よりお選びいただけます。如水会会員証カードをお持ちの卒業生の方はぜひご検討ください。

詳しくは、ホームページをご参照いただくか、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

一橋大学基金事務局
〒186-8601 東京都国立市中2-1
TEL: 042-580-8888
FAX: 042-580-8889
E-mail: gen-kj.g@dm.hit-u.ac.jp

【ご寄付者ご芳名】 ※五十音順に掲載させていただきます。

卒業生

313名・8団体（35,941,998円）

ご寄付金額（累計）

100万円以上

16名

木川 眞 様
小寺喜一郎 様
澤井 宏 様
鈴木弘夫 様
龍村 全 様
露木 清 様
中村春雄 様
中森 徹 様
堀 誠 様
丸田 宏 様
村田正太郎 様
山本亘苗 様
他 4名

50万円以上
100万円未満

10名・1団体

青松英男 様
小峯 敦 様
新 悟 様
仙波英躬 様
鶴岡 坦 様
中村敬太郎 様
中村直人 様
森田裕之助 様
如水会千葉県支部連合会 様
他 2名

50万円未満

287名・7団体

青木 均 様
秋宗勝彦 様
浅井 晶 様
荒井邦彦 様
荒川博人 様
荒木美奈子 様
安西賢一 様
安藤 勢 様
庵木孝公 様
伊賀良郎 様
池田龍哉 様
磯部宏晃 様
伊丹千絵 様
井筒浩一郎 様
犬塚翔一 様
今村 卓 様
岩谷圭介 様
上田英俊 様
上野嘉蔵 様
宇佐見衛 様
鵜澤 静 様
鵜澤慎一 様
宇津 明 様
梅木典子 様
榎本武由 様
及川芳夫 様
大久保貴史 様
大島康弘 様
太田真治 様
大谷正俊 様
大島羽裕太郎 様
大橋文雄 様
岡 浩 様
岡田純子 様
岡田祐治 様
岡原慎一 様
小川和也 様
尾川 肇 様
奥山雄太 様
小澤栄作 様
小原与一郎 様
柿田智行 様
風巻裕一 様
樫尾昭彦 様
片桐春美 様
加藤 省 様



銘板色

【ブロンズ】

個人：30万円以上

法人：100万円以上

【シルバー】

個人：100万円以上

法人：500万円以上

【ホワイトゴールド】

個人：500万円以上

法人：1,000万円以上

【ゴールド】

個人：1,000万円以上

法人：5,000万円以上

【プラチナ】

個人：3,000万円以上

法人：1億円以上

（金額は累計）

石弘光・元学長が平成24年秋の叙勲で「瑞宝大綬章」を受章されました

平成24年秋の叙勲で、元一橋大学長の石弘光名誉教授が「瑞宝大綬章」を受章されました。石名誉教授は、平成10年12月から平成16年11月までの6年間にわたり一橋大学長を務めたほか、一橋大学経済学部長、附属図書館長、政府税制調査会長、国立大学協会副会長、放送大学長などの役職を歴任しました。長年にわたり教育に尽力するとともに、財政学の研究に優れた業績を挙げ、学術の発展に貢献したことや、政府税制調査会をはじめとする国の各種審議会の委員として行政運営の円滑化に寄与したことが今回の受章につながりました。

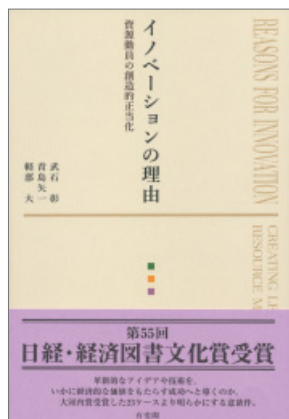


経済研究所の深尾京司教授、イノベーション研究センターの青島矢一教授及び軽部大准教授が2012年度・第55回「日経・経済図書文化賞」を受賞しました

日本経済新聞社及び日本経済研究センター共催の2012年度・第55回「日経・経済図書文化賞」において、本学経済研究所の深尾京司教授、イノベーション研究センターの青島矢一教授及び軽部大准教授の著書が受賞図書に選ばれました。この賞は過去1年間に出版された経済図書のなかで特に優れた図書に贈られるものです。



『「失われた20年」と日本経済—構造的な原因と再生への原動力の解明』
深尾京司／著 日本経済新聞出版社刊 定価:4,410円(税込) 2012年3月発行



『イノベーションの理由—資源動員の創造的正当化』
武石彰(京都大学大学院経済学研究科教授)、青島矢一、軽部大／著
有斐閣刊 定価:3,990円(税込) 2012年3月発行

〈編集・発行〉
一橋大学HQ編集部

〈編集部長〉
副学長（財務、社会連携、企画・評価、情報化担当） 小川英治

〈編集長〉
言語社会研究科教授 坂井洋史

〈編集部員〉
商学研究科准教授 松井 剛
経済学研究科教授 岡田羊祐
法学研究科教授 王 雲海
社会学研究科教授 阪西紀子
国際企業戦略研究科准教授 大上慎吾
経済研究所講師 武田友加

〈外部編集部員〉
有限会社イブダワークス 吉田清純

〈印刷・製本〉
図書印刷株式会社

〈お問い合わせ先〉
一橋大学企画・広報室広報担当
〒186-8601 東京都国立市中2-1
Tel: 042-580-8032 Fax: 042-580-8016
http://www.hit-u.ac.jp/
koho1284@dm.hit-u.ac.jp

※ご意見をお寄せください。
一橋大学企画・広報室広報担当
koho1284@dm.hit-u.ac.jp

※本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。

●広告掲載お問い合わせ先
一橋大学企画・広報室広報担当
TEL: 042-580-8032

編集部から

国立のキャンパスの銀杏が、黄色く色づいた葉を落としました。立ちこめる銀杏の独特な匂いが、秋の深まりを否応なしに気づかせてくれます。いつか銀杏を拾って料理して食べてみたいと長年思い続けてきました。しかし師走に近づくこの季節はいつもわらわらしており、このささやかな展望がなかなか叶いません。そもそもこの銀杏を拾ったら大学の財産を盗んだことになってしまいそうなのがちょっと心配です。銀杏を食べるに至るまでの下処理もかなり手間がかかりそうです。たとえひとつひとつが小さいものであっても消極的な理由が複数あると、新たなチャレンジができなくなる。そんな卑近な典型例です。とまれかくまれ国立が都心より明らかに寒くなる季節がやって参りました。みなさま、どうか温かく暖かくお過ごし下さい。(松茸)



一橋大学法科大学院が、 平成24年司法試験合格率で 全国の法科大学院中トップとなりました

平成24年司法試験の合格者が9月11日に法務省から発表されました。本学法科大学院修了者135人がこの試験に挑み、うち77人が合格しました。本学の合格率は57.0%で、全国の法科大学院のなかでトップとなり、これで2年連続・5回目の全国トップとなりました。なお、今回の司法試験全体の合格者数は2,102人で、合格率は約25.1%でした。

●平成24年司法試験合格率〔法科大学院順（合格者／受験者）〕

（一橋大学法科大学院調べ）

	法科大学院名	受験者数			合格者数			合格率		
		計	既修	未修	計	既修	未修	計	既修	未修
1	一橋大法科大学院	135	90	45	77	57	20	57.0%	63.3%	44.4%
2	京都大法科大学院	280	190	90	152	122	30	54.3%	64.2%	33.3%
3	慶應義塾大法科大学院	347	221	126	186	143	43	53.6%	64.7%	34.1%
4	東京大法科大学院	379	225	154	194	146	48	51.2%	64.9%	31.2%
5	神戸大法科大学院	131	88	43	60	46	14	45.8%	52.3%	32.6%



文部科学省「平成24年度グローバル人材 育成推進事業【タイプB（特色型）】」に 本学の取り組みが採択されました

文部科学省が推進する「グローバル人材育成推進事業」の「タイプB（特色型）」に、本学の取り組みが採択されました。取り組み内容は、商学部及び経済学部において、それぞれ15人程度からなるグローバル・リーダーズ・プログラムを立ち上げ、通常よりも英語スキル科目の履修や英語による専門科目の履修に重点をおき、本学の海外留学制度の選抜を経た1年間の海外留学を体験させます。また、グローバル企業や国際協力機関による海外インターンシップへの参加及び短期海外調査（経済学部）を奨励します。さらに、商学部・経済学部において、他学部においてもグローバル・リーダーズ・プログラムへの取り組みを働きかけ、全学レベルのグローバル化を進めます。

一橋大学は、関西でシンポジウムや講演活動を行う「関西アカデミア」を通じ、社会科学の総合大学ならではの、諸問題への優れた分析と方策を提唱します。

シンポジウム

社会保障と税の一体改革

わが国の経済・財政は大きな転換点を迎えようとしています。政府は社会保障と税の一体改革として、2015年までに消費税率を10%まで引き上げることを決めました。しかし、これで改革が終わったわけではありません。対外的にはグローバル経済に対応した新たな税制が求められる一方、対内的には世代間の公平に即した社会保障の構築や地域の自立を促す地方分権改革が必要となっています。そこには理念先行あるいは既得権益への妥協ではない経済的な効果（効率と公平）に着目した改革のビジョンがなくてはなりません。本シンポジウムは「ポスト一体改革」を視野に、経済学の知見から今後のあるべきわが国の財政システムについて考えていきます。



日時：**2013年3月2日(土)** 13:30開演 (13:00開場) 17:30閉会

会場：**大阪国際会議場** 大阪市北区中之島5-3-51
(アクセス) 京阪電車中之島線 中之島(大阪国際会議場)駅(2番出口すぐ) / JR環状線、阪神電鉄 福島駅から徒歩約10分

ご参加：**無料・先着200名**

2013年2月25日(月)までに右記URLよりお申し込みいただくか、
 氏名・所属・連絡先を明記の上、
 E-mailもしくはFAXにてお申し込みください。

【お申し込み先】

<http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2012/1210.html>
 E-mail:w-academia1284@dm.hit-u.ac.jp
 FAX:042-580-8050

プログラム

開会挨拶：山内 進 一橋大学長
 報告：佐藤主光 一橋大学大学院経済学研究科教授

上村敏之 関西学院大学経済学部教授

小林慶一郎 一橋大学経済研究所教授

小塩隆士 一橋大学経済研究所教授

パネル・ディスカッション：

上村敏之 関西学院大学経済学部教授

小塩隆士 一橋大学経済研究所教授

國枝繁樹 一橋大学国際・公共政策大学院准教授

(司会) 佐藤主光 一橋大学大学院経済学研究科教授

閉会挨拶：小川英治 一橋大学理事・副学長

主催：国立大学法人一橋大学

【お問い合わせ先】

国立大学法人一橋大学

〒186-8601 東京都国立市中2-1

TEL:042-580-8058

一橋大学広報誌「HQ」37号 ウェブアンケートご協力をお願い

「HQ」に関するみなさまのご意見・ご感想を、広報誌をよりよくするための貴重な資料として参考にさせていただきたく、ウェブアンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

<http://www.hit-u.ac.jp/hq/enquete.html>

一橋大学 HQ

